



競輪補助事業

平成23年度

シニアネット・フォーラム21 in 東京 2012

◇ICTを活用してシニアの未来を拓く◇

【報告書】

平成24年3月

一般財団法人ニューメディア開発協会

はじめに

日本社会の高齢化については、最近でのデータでは今や65歳以上高齢者の人口が2,980万人、全人口の23.3%を占めるに至っております。これが、25年後、2035年になりますと33.7%になるということで、3人に1人が高齢者という時代がやってくるということになります。また更に深刻な問題は20年後には80歳以上の方がなんと2,000万人以上になるであろうという超高齢化社会を迎えると言う事です。

こうした高齢社会にあつて、旧通商産業省は長寿社会対策及び情報化施策である「メロウ・ソサエティ構想」を提唱し、高齢者が情報技術(IT)を活用して、いつまでも生き生きとした生活を送るとともに社会のために活躍できる『高齢者自立型・参加型情報化社会』の実現を目指して参りました。

当協会は、「メロウ・ソサエティ構想」を実現するため、長年にわたって様々な事業に取り組んで参りましたが、この「シニアネットフォーラム 21」は「シニア情報生活アドバイザー養成事業」等と共に、同構想実現のための当協会が取り組んでいる主要事業であります。

高齢者の数が多数となる時代では高齢者のパワーが社会を変えて、ささえていくと言っても過言ではありません。高齢化がますます進む今後は、まさに「高齢者こそ新しい文化を創り」、社会の主演として様々な形で社会を牽引していくことが求められて参ります。

世の中が急激に、かつ大きく変わろうとしている今こそ、高齢者の方々も、ご自身の意識や生活様式等自らの生き方を見つめ、自ら変革していく中、まさに「新しい公共の担い手となる」ことが肝要です。

そうした中、自己実現の場を求め得意のITを駆使して社会のお役に立ちたいとする高齢者同士が集い、高齢者へのIT講習はじめ様々な社会参加活動を活発に展開している「シニアネット」が全国諸地域で活動しております。その高い理念や活動実績等を見るにつけ、「シニアネット」こそ、まさに「メロウ・ソサエティ構想」実現の担い手であり、高齢者の新しい生き方や新しい文化創出を具現化する担い手であると確信致しております。

シニアネットは、高齢者に多くの仲間と共に実り豊かなシニアライフを送るとともに、これまで培ってきた知識・技術・経験等を活かして再び社会に参加出来る機会をもたらしております。また自治体等との協働(コラボレーション)も積極的に展開し、地域の情報化促進や街づくり、地域振興等に欠かすことの出来ない強力なパートナーとなっております。高齢者にとって、地域社会にとってなくてはならない、極めて意義深いものであります。

当協会は、こうした「シニアネット」が全国津々浦々にあつてシニアが生き生きと活躍している姿を創出していくことが急務と考え、経済産業省や財団法人JKA、全国のシニアネット諸団体のご協力を得て「シニアネットフォーラム 21」を開催して参りました。

そこで、昨年に引き続き「シニアネットフォーラム 21 in 東京 2012」を東京・日本橋室町の地で開催し、シニアネットの一層の普及と更なる活動の飛躍を図りました。

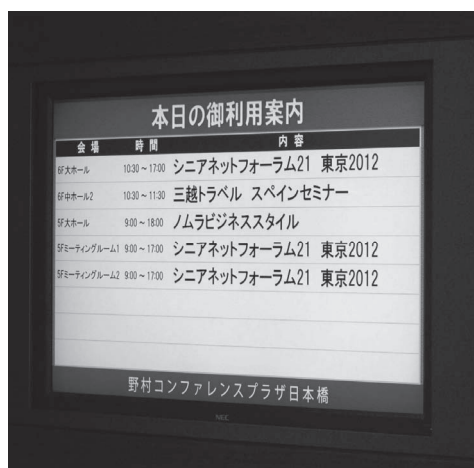
統一テーマ「ICTを活用してシニアの未来を拓く」のもとに、基調講演、特別講演、先進事例研究、特別報告（パネルディスカッション）、ワークショップ、特別セミナー、タブレット端末等の体験セミナー、シニアネット交流広場で構成し、激しく変化する社会にあって、高齢者の生き方、シニアネットのあるべき姿そしてシニアネットの更なる飛躍と普及拡大について参加者全員で考える場と致しました。

今回は定員を上回る多くの方々のご参加を得、熱心な議論と深い交流がなされるなど、お陰様で大変有意義なものとする事が出来たものと思っております。

この事業の成果を皆が共有し、広く活用し、シニアネットの普及、発展に貢献できることを願っております。そして、これらの活動を通して地域の振興に貢献できれば幸いです。

平成 24 年 3 月

一般財団法人ニューメディア開発協会



会場	時間	内容
SF大ホール	10:30～17:00	シニアネットフォーラム21 東京2012
SF中ホール2	10:30～11:30	三越トラベル スペインセミナー
SF大ホール	9:00～18:00	ノムラビジネススタイル
SFミーティングルーム1	9:00～17:00	シニアネットフォーラム21 東京2012
SFミーティングルーム2	9:00～17:00	シニアネットフォーラム21 東京2012

野村コンファレンスプラザ日本橋



目次

はじめに

1. 開催の主旨	1
2. 実施要項	2
3. プログラム	4
4. プログラムの詳細	
主催者挨拶	7
来賓挨拶	9
基調講演	
講演 1「ICTを活用してシニアの未来を拓く」	10
講演 2「シニアのためのテクノロジーの進化と新たな展開」	24
特別講演「ICTのアクセシビリティがシニアの未来を拓く」	29
先進事例研究1「高齢期の活動継続におけるICTの役割」	42
先進事例研究2「iPadでシニアライフ様変わり～私とiPadのかかわり」	55
先進事例研究3「シニアにも優しいスマートフォンの新時代」	59
特別報告(パネルディスカッション)	67
ワークショップ	
テーマ 1「ICTでシニアを助ける」	73
テーマ 2「タブレットでシニアの情報生活を快適にする」	79
テーマ 3「事業型シニアネットのマネージメント」	85
テーマ 4「シニアネットの未来を拓く」	91
テーマ 5「シニアネットと復興支援」	98
シニアネット交流広場	104
体験セミナー	107
クロージングセッション	108

1. 開催の主旨

現在、我が国は65歳以上の老年人口が約2946万人、人口比率で23.1%となっており、71歳以上が11.2%を占めています。さらに20年後には、65歳以上の人口が31.8%を占めるであろうと予測されており、高齢化が進みつつあります。

高齢者が数の上でメジャーとなる時代になり、高齢者が社会の主役として、新しい文化形成の担い手としてさまざまな形で活躍されることがますます重要となって参ります。そこでは、高齢者の方々自身の意識や生活様式等自らの生き方を変えていくことが大切になっていくのではないかと考えられます。

そうした中、好きなICTを生かして充実したシニアライフをおくりたい、そして少しでも社会のために役に立ちたいとする高齢者同士が集う「シニアネット」が各地にあって、高齢者へのICT講習を実施したり、長年培ってこられた知見・ノウハウやICTを駆使して地域に還元し、仲間と共に楽しく、生き生きと、地域に根差したさまざまな活動を展開しております。

シニアネットは、高齢者に“地域デビュー”の機会をもたらし、シニアライフを豊かで楽しいものにするなど、高齢者の生きがいの創出に大きな役割を果たしております。そして、少子高齢社会にあって、高齢者の持つ豊かな知識・技術・経験等は、自治体等と協働(コラボレーション)することで、地域の情報化促進はもとより、街づくり、地域振興等に大きく貢献するものであります。このようにシニアネットは、高齢者にとっては勿論、自治体・企業の方にとっても重要な組織であると言えます。

当協会は、旧通商産業省(現経済産業省)が提唱された「メロウ・ソサエティ構想」の実現を目指すにあたり、こうしたシニアネットの活動は極めて重要で、欠くべからざるものと認識し、シニアネットを強力なパートナーと位置づけ、連携を強化して参りました。さらに、シニアネットが全国津々浦々、至る所にあつて、高齢者が生き生きと活躍している、そうした姿を創出していくことが急務と考えております。

その為、シニアネット普及・拡充を図るべく、これまで経済産業省や財団法人日本自転車振興会(現財団法人JKA)のご指導、ご支援を得る中、シニアネット諸団体等と協力しあつて「シニアネットフォーラム21」を全国で開催して参りました。この度は、シニアネットの活動11年目をむかえるにあたり、「ICTを活用してシニアの未来を拓く」と題し、「シニアネットフォーラム21in 東京

2012」を東京で開催することにし、シニアネットのより一層の普及と活性化を図ることに致しました。

既にシニアネットに加わって活動されている方々は勿論、「地域デビューをしてみたい…」「シニアネットに参加したい…」「何か地域のために活動してみたい…」等々お考えの高齢者や団塊世代の方、そして「高齢者と協働して施策や事業に取り組みたいが…」とお考えの自治体や企業の関係者の方など、幅広い分野の方々にご参加頂き、熱い議論と交流を通して、シニアネットのあり方を考え、活力ある高齢社会の創出につながる有意義なものになったと思います。そして、参加された皆様の今後のご発展につなげて頂ければと思います。

このフォーラムがきっかけとなって、シニアネットの普及・拡充と活性化が一層加速され、高齢者の充実したシニアライフや豊かな高齢社会の構築に貢献できれば、これに勝る喜びはありません。

2. 実施要綱

- 1) テーマ ICTを活用してシニアの未来を拓く
- 2) 日 時 平成 24 年 2 月 16 日(木) 10:30～17:30
17 日(金) 10:00～16:00
- 3) 内 容 開会・オープニングセッション 16日(木)10:30～10:45
基調講演1 16日(木)10:45～12:00
基調講演2 16日(木)13:00～14:00
特別講演1 16日(木)14:00～14:40
先進事例発表 16日(木)14:50～17:00
特別報告(パネルディスカッション)16日(木)17:00～17:30
ワークショップ 17日(金)10:00～12:00
体験セミナー 17日(金)13:00～14:30
ワークショップ発表 17日(金)14:40～15:40
総括・終了 17日(金)15:40～16:00
シニアネット交流広場 17日(金)12:00～14:30
- 4) 会 場 野村コンファレンスブラザ日本橋
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 2 丁目 4 番 3 号
電話 03-3277-0888
- 5) 主 催 一般財団法人ニューメディア開発協会
後 援 経済産業省
協 力 NPO法人ウェブアクセシビリティ推進協会
NPO法人すぎとSOHOクラブ
株式会社 デジブック
日本マイクロソフト株式会社

NPO法人ユニコムかつしか (五十音順)

6)定員 200名(先着順)

7)参加費 無料

8)参加対象 ・シニアネットへの参加や新規設立等シニアネットに関心のある方

・シニアネットのメンバーの方・団塊の世代の方

・シニア情報生活アドバイザーの方

・自治体で高齢者問題やコミュニティビジネス、NPO活動推進をご担当の方

・企業で社会貢献、シニアマーケティング、バリアフリーなどシニア向け商品・サービスの企画開発等に携わっておられる方

・コミュニティ・ビジネスやNPO活動に取り組んでおられる方等々

3. プログラム

2月16日(木) 野村コンファレンスプラザ

10:00～10:30	受付	
10:30～10:45	開会 オープニングセッション	<ul style="list-style-type: none"> ・主催者挨拶 岡部 武尚(一般財団法人 ニューメディア開発協会 理事長) ・来賓挨拶 杉浦 秀明氏(経済産業省商務情報政策局情報政策課 情報プロジェクト室長)
10:45～12:00	基調講演1	<p>「ICTを活用してシニアの未来を拓く」</p> <p>袖井孝子氏(お茶の水女子大学名誉教授 一般社団法人 シニア社会学会会長)</p>
12:00～13:00	休憩(昼食)	
13:00～14:00	基調講演2	<p>「シニアのためのテクノロジーの進化と新たな展開」</p> <p>加治佐 俊一氏 (マイクロソフト ディベロップメント株式会社代表取締役社長 兼 日本マイクロソフト株式会社業務執行役員 最高技術責任者)</p>
14:00～14:40	特別講演	<p>「ICTのアクセシビリティがシニアの未来を拓く」</p> <p>山田 肇氏(東洋大学教授 NPO法人ウェブアクセシビリティ推進協会理事長)</p>
14:50～17:00	<p>先進事例研究 1</p> <p>先進事例研究 2</p> <p>先進事例研究 3</p>	<p>「高齢期の活動継続におけるICTの役割」</p> <p>澤岡 詩野氏(公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団)</p> <p>「iPadでシニアライフ様変わり～私とiPadのかかわり～」</p> <p>山根 明氏(NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹「三鷹iPad研究会代表」)</p> <p>「シニアにも優しいスマートフォンの新時代」</p> <p>佐藤 進氏(アンドロイダー株式会社エバンジェリスト)</p>
17:00～17:30	特別報告	<p>「シニアネット東日本大震災復興支援委員会活動報告」</p> <p>佐々木敏夫氏(NPO法人あびこ・シニア・ライフ・ネット理事長) 大久保勇作氏(シニアネットリアス・高田) 及川 純氏(シニアネットリアス大船渡 代表) 福島和男氏(e-ネット・リアス 理事長) 協力会社 日本マイクロソフト株式会社 大島友子氏</p>

2月16日のフォーラムは、「NPO法人ユニコムかつしか」の協力で、Ustream(ユーストリーム)で動画中継

2月17日(金) 野村コンファレンスプラザ

9:30~10:00	受付	
10:00~12:00	ワークショップ	<p>【テーマ1】 「ICTでシニアを助ける」 コメンテーター:澤岡 詩野氏 (公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団)</p> <p>コメンテーター:森 やす子氏(株式会社環境情報デザイン 研究所専 務取締役 主席研究員)</p> <p>【テーマ2】 「タブレットでシニアの情報生活を快適にする」 コメンテーター:生部 圭助氏(NPO法人自立化支援ネット ワーク 理 事長)</p> <p>コメンテーター:山根 明氏(NPO法人シニアSOHO普及 サロン・三 鷹 「三鷹 iPad 研究会代表」)</p> <p>コメンテーター:佐藤 進氏(アンドロイダー株式会社エヴァンジ ェリスト)</p> <p>【テーマ3】 「事業型シニアネットのマネージメント」 コメンテーター:鈴木 政孝氏(NPO法人イー・エルダー 理事長) コメンテーター:荒川 恒昭氏(NPO法人栃木県 シニアセンター 代 表理事)</p> <p>【テーマ4】 「シニアネットの未来を拓く」 コメンテーター:中島 康博氏(NPO法人すぎとSOHOク ラブ監事) コメンテーター:坂崎 誠一氏(熊本シニアネット 代表)</p> <p>【テーマ5】 「シニアネットと復興支援」 コメンテーター:佐々木敏夫氏 (NPO法人あびこ・シニア・ライフ・ネッ ト理事長)</p> <p>課題提供者:秋元五郎氏(NPO法人あびこ・シニア・ライフ・ ネット)</p> <p>特別出席者:大久保勇作氏(シニアネットリアス・高田) 及川 純氏(シニアネットリアス大船渡 代表) 福島和男氏(e-ネット・リアス 理事長)</p>
12:00~14:30	シニアネット交流広場 休憩(昼食)	シニアネットの成果展示による相互交流の場
13:00~14:30	体験セミナー	<p>1) デジカメ写真活用とムービー作成(パソコン) (13:00~13:40)</p> <p>協力:日本マイクロソフト株式会社</p>

		<p>2) iPad の体験 (13:00～13:40) 協力:シニアSOHO三鷹「iPad 研究会」</p> <p>3) タブレットの体験 (13:00～13:40) 協力:株式会社エル・アレンジ</p> <p>4) 写真やデータのクラウド活用講座(パソコン) (13:50～14:30) 協力:日本マイクロソフト株式会社</p> <p>5) スマートフォン体験 (13:50～14:30) 協力:アンドロイダー株式会社</p>
14:40～15:40	ワークショップ発表	各テーマの討議内容発表(発表者:各コーディネーター)
15:40～16:00	クロージングセッション	「総括」
	閉会	

4. プログラムの詳細

■オープニング・セッション

主催者挨拶

岡部 武尚

(一般財団法人ニューメディア開発協会 理事長)

シニアネットフォーラム21in 東京2012」の開催に当たり、主催者を代表して一言ご挨拶申し上げます。本年も(財)JKA殿のご支援をいただき、「シニアネットフォーラム」を開催致しましたところ、この様に大勢の方々のご参加いただき、まことにありがとうございます。また、今回の開催に当たり、経済産業省様からのご後援を頂くとともに、ご多忙のところ商務情報政策局杉浦秀明情報プロジェクト室長様のご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年2月に開催した「シニアネットフォーラム」のわずか1ヵ月後の3月11日、「東日本大震災」が発生、未曾有の災害となりました。ここで、改めて、お亡くなりになられた多くの方々に対して、心よりご冥福をお祈り申し上げます。私どもシニアネットでも、シニアネット東日本大震災復興支援委員会を発足、一般社団法人電子情報技術産業協会様からパソコン等の機器の寄贈をいただくとともに、現地のシニアネット様、日本マイクロソフト様始め、関係者の方々のご協力をいただき、岩手県陸前高田市、大船渡市、釜石市、宮城県登米市、福島市の5箇所の仮設住宅等において「パソコン教室」などを開催し、IT面からの、被災者の方々の生きがい作りやコミュニティ再生のお手伝いをさせていただきました。

この事業は、現在も継続して実施しております。引き続き、皆様方からの温かいご支援をお願いいたすところです。尚、活動の詳細につきましては、協会ホームページの中のサイト、「シニアネット交流広場」をぜひご覧ください。

そのほかの事業として、テレビ放送のデジタル化に対応して、総務省からの再委託を受け、各地に設置された地デジ臨時相談コーナーで、140名のシニア情報生活アドバイザーの方々の協力をいただき事業を行いました。この二つの事業の推進に対してご協力いただいたシニアネット様、シニア情報生活アドバイザーの方々に対して、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

今や、世界の人口が70億人を突破、2050年には1.3倍の93億人に、内、高齢者は3倍の15億人に増加するといわれる中で、日本だけが2050年には1億人を割り込むという急速な人口減少が進んでおります。また、今年から、団塊世代が65歳になり、シニアの仲間入りです。既に、65歳以上の高齢者の人口は約3千万人と全人口の23.1%に達しており、20年後には3人に一人を高齢者が占めるという、世界のどの国も経験したことがない未知の領域、「超高齢社会」を迎えるといわれております。また、「少子化」の進行と共に、15歳から64歳ま



での生産年齢人口が今後50年でほぼ半減するといわれ、今後の経済成長、日本の発展を支えるためにも、シニアがまだまだ第1線で活躍し、生産性の向上に貢献し、社会を牽引していくことが必要です。高齢化社会の課題は、①健康で自立して生きられる期間の延長、②生きがいをもって暮らせる環境づくり、③人と人とのつながり作りです。住み慣れた地域でのセカンドライフの就業が、生活を支え・変える有力な手段です。経験豊富なシニアが積極的に活動を進めていけば、地域の再生の起爆剤になることも期待できます。如何にシニアの就業機会を増やしていくかが、社会の活性化を左右するでしょう。

今や、パソコン、携帯電話、スマートフォンなどで、インターネットの交流サイト・SNS、メール、ツイッター、フェイスブックを利用するシニアも増えています。震災時の連絡方法や対応として、これらの新しい情報メディアを活用することの有用性が指摘されました。今後、インターネットのクラウド利用も進展するでしょうし、新しい情報技術によってシニアの活動において、解決できる課題も多いと思います。友人・知人とのコミュニケーション、シニア同士のネットワーク作りが一人暮らしの高齢者のトラブルを防ぎ、日常生活が楽しくなるコミュニティ作りに役に立つものと期待されております。このような新たな技術進歩や社会変革が進む少子・高齢化時代の対応で、日本は、理想的な「高齢化社会作り」の世界のモデルとなるべきだと思えます。

このような社会の大きな流れに対応すべく、(一財)ニューメディア開発協会では、シニアが、情報技術を活用し、円熟した、豊かな老後を送れるような「高齢者自立・参加型情報化社会」を創り上げるという目標を達成するために、「シニアネット」構想を平成12年以来、進めております。既に、「シニアネットの数」は全国で、6 団体増え、135団体。シニアネットで養成されている「シニア情報生活アドバイザー」は、資格取得者が4,548名に達し、そのうち、およそ3,000名の方々が現在全国で活躍しておられます。

今や、私どもは、シニアネットの役割が次の新たな段階に入り、時代に相応しい社会基盤としてのシニアネットを作ることが必要になったと認識致しております。シニアを巡る社会環境の変化と期待される役割が高まる中で、シニアの「生き甲斐からやりがい」、「老年でも衰えの知らない社会貢献の担い手へ」、「新しい公共としてのシニアネット」、すなわち住民主導となった社会において新たな公共を作る市民活動の一環としてのシニアネット、その担い手としてシニアが大きな役割を果たすこと等です。シニアネットは、新たな地域経済・地域コミュニティを創造する担い手として、時代に相応しい社会基盤としての役割を増していくものと思えます。

さて、本日は、基調講演として、一般社団法人シニア社会学会会長であり御茶ノ水女子大学名誉教授の袖井孝子先生とマイクロソフトディベロップメント株式会社代表取締役社長の加治佐 俊一様に、特別講演として東洋大学教授の山田 肇先生よりご講演いただくことになっております。そのほか、事例研究、ワークショップ、シニアネット交流広場、体験セミナーなど盛りだくさんの催し物を用意しております。特に今回は、シニアネット東日本大震災支援委員会の活動報告を行います。この二日間にご参加頂いた皆様におかれましては、多くの方々との交流を深められ、この成果を日頃の生活や活動の御参考にされ、厳しさの増す高齢化時代を豊かに生き抜いていただきたいと存じます。

最後になりましたが、各セッションに御出席、お話しをいただく講師の方々、並びに本日の開催に当たりご協力いただきました NPO 法人ウェブアクセシビリティ推進協会様、NPO 法人すぎと SOHO クラブ様、株式会社デジブック様、日本マイクロソフト株式会社様、NPO 法人ユニコムかつしか様始め、多くの関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。開会の挨拶と致します。

■オープニング・セッション

来賓挨拶

杉浦 秀明氏

経済産業省商務情報政策局情報政策課 情報プロジェクト室長

ただいまご紹介に預かりました経済産業省商務情報政策局情報プロジェクト室長の杉浦と申します。経済産業省では、1989年度より、高齢者の積極的な社会参加を図り、情報システムが人々の生活にとけ込んだ、ゆとり豊かな高齢化社会の創造を目指し、メロウ・ソサエティ構想の推進に取り組んできました。

今回のフォーラムのテーマは、「ICTを活用してシニアの未来を拓く」ということですが、シニア情報生活アドバイザー制度が2001年に開始されて11年目活動を迎えられましたのも、ここにご参加をいただいておりますシニアネットのご関係者やニューメディア開発協会を始めとする皆様のご活動の賜と承知しております。



この10年の間に、ITも顕著な進歩・普及が進んできたのはご案内のとおりです。ある調査会社のレポートでは、タッチスクリーンを備えた使いやすいタブレット端末が、2011年は前年比160%の販売増となっているとしています。総務省の調査によれば、他の年齢層ではほぼ横ばいとなっているインターネットの利用率が、70歳以上の年齢層では顕著な増加傾向が見られます。数字を見ると、70代では、10年前の2002年では8%程度であった利用率が昨年は約40%まで増加しております。

特に、東日本大震災の復興支援に関しては、現地のシニアネットのご関係者、自治体、民間企業との連携によって、仮設住宅等における高齢者の方々へのICT研修等の活動が行われたものと承知しております。こうした様々な場面において、シニアネットやシニア情報生活アドバイザーの果たす役割は大きいものと存じます。経済産業省におきましても、IT戦略本部において昨年8月に決定された「電子行政推進に関する基本方針」に基づき、積極的な政府情報の公開や行政への市民参加を促進する「オープンガバメント」の取組を進めています。

最近の取組では、先月、復興庁、内閣官房IT担当室、内閣府防災担当、総務省と連携し、500件を超える復旧・復興支援制度情報を各府省・自治体を横断的に検索できるデータベースを構築し、運用を開始したところです。本データベースは、基礎データの提供に機能を絞って早期の立ち上げに至ったものですが、今後、制度情報を民間でも利用できるようにする機能を提供する予定です。最後になりましたけれども、ご関係各位のご活躍を祈念いたしまして私のご挨拶とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

■ 基調講演 1

「ICTを活用してシニアの未来を拓く」

袖井 孝子 氏

お茶の水女子大学名誉教授、一般社団法人シニア社会学会会長



プロフィール

東京家政学院大学客員教授、社団法人コミュニティネットワーク協会副会長、NPO法人高齢社会をよくする女性の会副理事長。平成23年度男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣賞受賞。

著書に『変わる家族変わらない絆』『高齢者は社会的弱者なのか』(以上ミネルヴァ書房)、『女の活路 男の末路』(中央法規) など。

一月末に公表された国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計によると、今後 50 年間に日本人口は 3 分の 2 に減少し、1960 年には現役世代 11.2 人で一人の高齢者を支えるおみこし型であったものが、2010 年には 2.8 人に一人の騎馬戦型になり、2060 年には 1.3 人で一人の肩車型になると予測されている。

現役世代何人で一人の高齢者を支えるという図式は、15 歳から 64 歳を現役世代とみなして、65 歳以上と対比させた結果にすぎない。1960 年頃には 15 歳から働く人も少なくなかったが、現在では 15 歳から働きだす人は少数派である。他方、今日、65 歳を過ぎても働いている人は少ない。

超高齢社会を乗り切るには、高齢者が支えられる側から支える側に回ることが不可欠である。高齢者が支える側に回る、あるいは少なくとも支えられる側に回らないことを可能にする手段の一つが ICT である。低下した身体機能を補ううえで ICT の果たす役割は大きい。ICT を活用して、ネットワークを広げ、社会に参加する機会が増えれば、高齢者の QOL を高めることができる。また、社会的に活動する機会が増えることで、心身の健康が維持され、医療や介護にかかる費用を軽減し、長い目で見れば、現役世代にかかる負担を減らすことも可能になるだろう。

現在のところ、高齢者の ICT 利用は、安否確認のような受け身的な使われ方やお楽しみの範囲に留まっているようだが、就労機会の拡大や社会貢献の機会の拡大につながるならば、たとえ人口統計の面では肩車型社会になろうとも恐れる必要はない。今や高齢者の ICT 活用の新しい段階にさしかかったと言っていいだろう。



新しい人口推計（2012年1月30日公表）

	2010年	2060年
総人口	1億2806万人	8674万人
65歳以上の割合	23.0%	39.9%
15～64歳の割合	63.8%	50.9%
0～14歳の割合	13.1%	9.1%
合計特殊出生率	1.39	1.35

出典：国立社会保障・人口問題研究所

2012年1月30日公表の新しい人口推計

1960年 おみこし型:11.2人で一人の高齢者を支える

2010年 騎馬戦型:2.8人で一人の高齢者

2016年 肩車型:1.3人で一人の高齢者

超高齢社会では、高齢者も支える側に回る必要がある。それを可能にするICT

3

変わる高齢者像

- ・ 依存から自立へ
- ・ 社会的弱者→必ずしも弱者ではない
- ・ 高齢者も応分の負担を
- ・ 社会保障費に占める高齢者分を削減し
子どもへの支出を増やすべき

4

1. 戦前の高齢者

儒教倫理に基づく家制度

- ・敬老の精神、親孝行、長幼の序、男尊女卑
- ・男性にとっては居心地がよかった
- ・長男による単独相続・単独扶養：
老後どこでだれに面倒を見てもらうかという不安なし
- ・家を中心とする生活保障：社会保障の欠如

5

2. 敗戦～1950年代半ば：戦後復興期

生活難、食糧難、住宅難

戦災から復興のための社会政策：生活保護、障害者福祉（傷痍軍人）、母子福祉（戦争未亡人）、児童福祉（戦災孤児、浮浪児）

- ・家制度の廃止
- ・単独相続から均分相続へ：実際には長男の単独相続
- ・高齢者は三世代世帯に暮らす。敬老精神は残存

6

3. 1950年代半ば～70年代半ば 高度経済成長期

エネルギー転換、技術革新、所得倍増
核家族化、夫婦家族制の定着→同居の減少
扶養意識の弱体化
・61年 国民皆年金皆保険制度
福祉国家への第一歩
・老人問題の顕在化
・老人福祉の拡充：高齢者は弱者、福祉の対象
ばらまき福祉

7

4. 1970年代半ば～90年代半ば 低成長の時代

第一次石油ショックによる成長のストップ
日本型福祉社会：福祉国家批判
自助努力、同居扶養、相互扶助
「同居は福祉の含み資産」
(昭和53年版厚生白書)
・介護問題の顕在化：家族構成の変化、
既婚女性の社会進出、女性の自立意識
・国や家族に頼ることは難しくなったが企業福祉
は健在

8

5. 1990年代半ば～ 閉塞の時代

少子化と不況の同時進行

高齢者は弱者ではない。高齢者も負担を
とくに小泉内閣以降の格差社会

- ・2000年介護保険制度：介護の社会化
- ・所得税の老年者控除廃止、年金課税の強化
- ・企業福祉の後退ないし撤廃
- ・国にも家族にも企業にも頼れない→自立の
強制

9

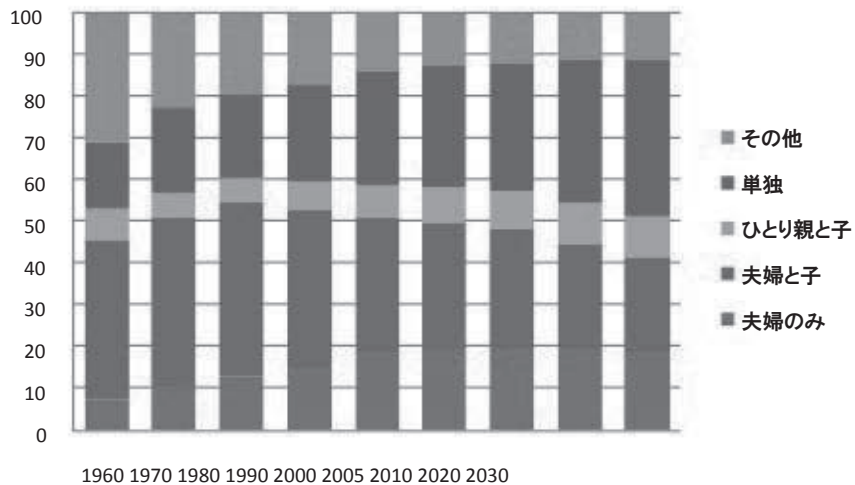
高齢者像はなぜ変わったのか

人口構造の変化：高齢者は少数派から
多数派へ

- ・経済社会の変化
- ・価値観の変化：個人主義化
- ・家族の変化：核家族化、シングル化
- ・女性の変化：自己犠牲から自己実現へ

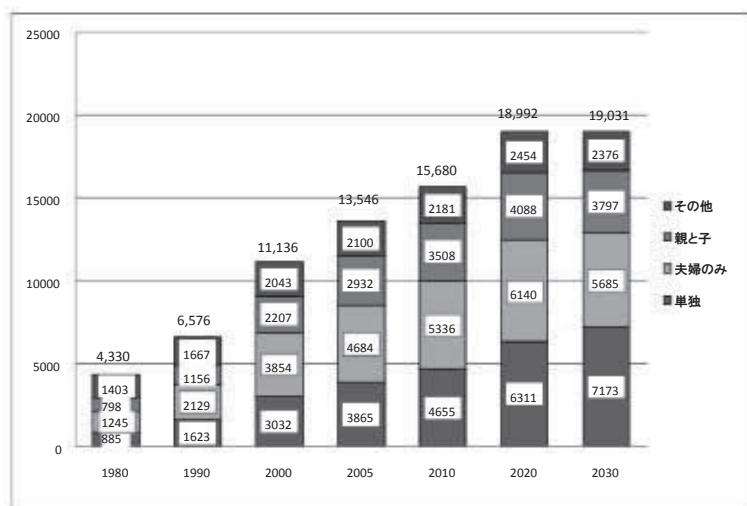
10

家族類型別一般世帯数の将来推計:1960~2030



国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数の将来推計(全国推計)』(2008年3月推計)による。各年10月1日現在。

高齢者世帯数(家族類型別)



資料:2005年までは総務省「国勢調査」、
2010年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」(2008年3月推計)

高齢者に対する誤解

高齢者は貧しい:二極化

高齢者は寝たきり認知症:8割以上は元気

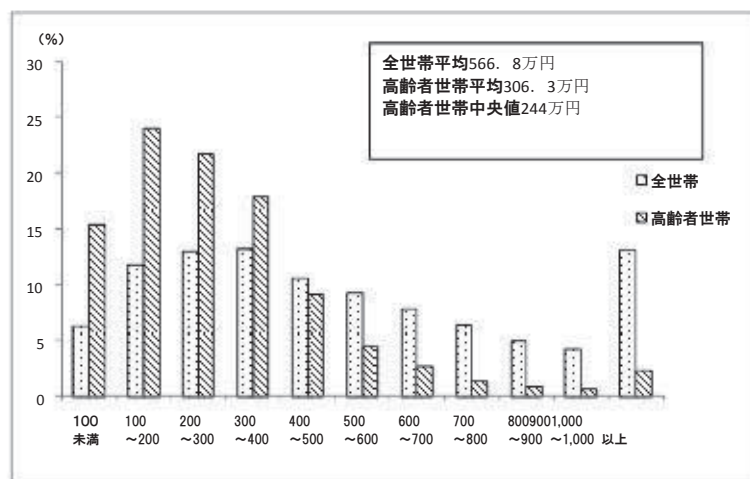
高齢者は保守的:若者の保守化

高齢者は新しいものに挑戦しない:ICTへの関心

高齢者は金を使わない:子孫に美田を残さず

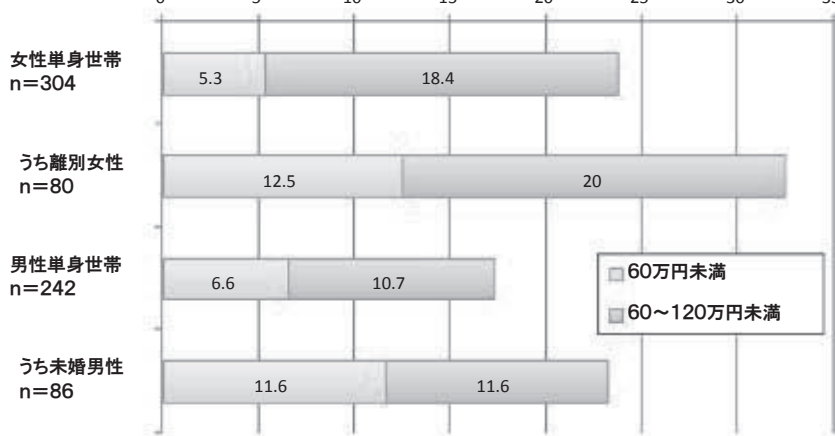
13

高齢者世帯の年間所得の分布



資料:厚生労働省「国民生活基礎調査」(2007年)(同調査における2006年1年間の所得)

高齢単身世帯(55～ 歳)における低所得者層の割合(年間収入) 高齢単身世帯
 (～ 74歳)における低所得者層の割合(年間収入)



1. 内閣府「高齢男女の自立した生活に関する調査」(平成20)
2. 「収入」は税込みであり、就業による収入、年金等による収入のほか、預貯金の引き出し、家賃収入や利子等による収入も含む。

20世紀のキーワードは産業化

人と物との関係

物の価値

地理的境界に拘束

身体的に健全な男性労働者が基準
 女性、高齢者、障害者の労働の価値は低い

21世紀のキーワードは情報化

人と人との関係

情報の価値

グローバル化

身体機能の欠如や低下を補うIT、ICT

17

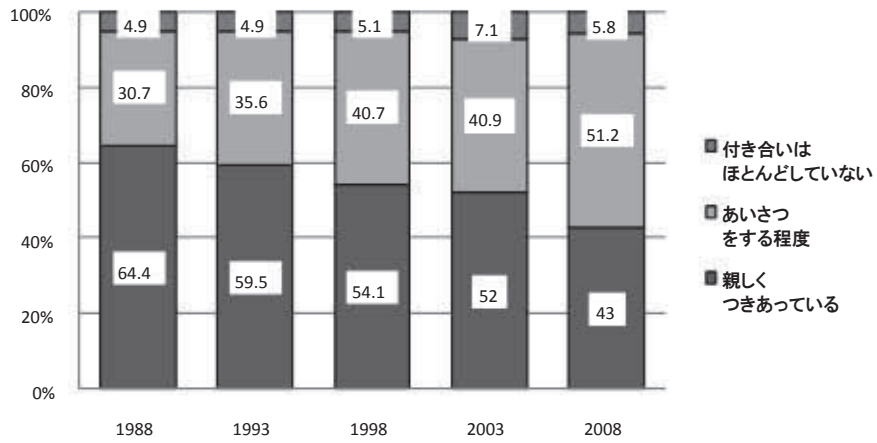
身体機能の欠如や低下を補完するICT

視力障害者や聴覚障害者
社会参加・就労機会の拡大
コミュニケーションの増大
人間関係の充実

身体機能の低下する高齢者
安否確認
孤立化防止:とくに男性
社会参加・就労機会の拡大

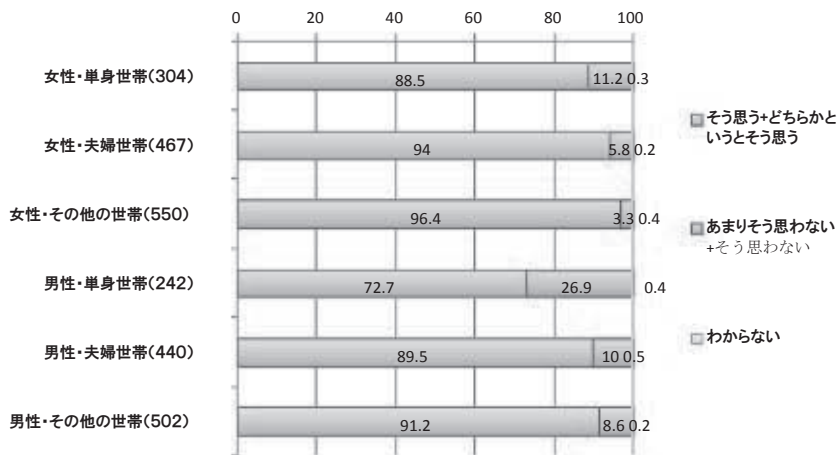
18

近所の人たちとの交流



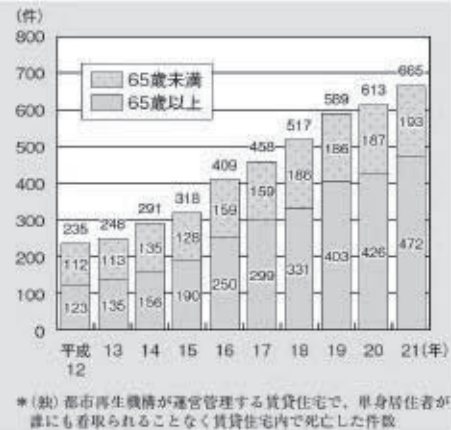
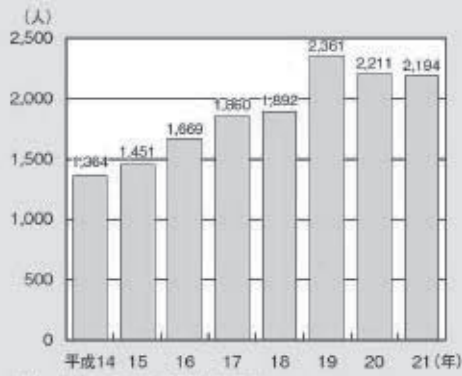
出典：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成20年)

話し相手や相談相手がいる者の割合(55～ 歳)話し相手や相談相手がいる者の割合(～74歳)



出典：内閣府「高齢男女の自立した生活に関する調査」(平成20年)

大都市における孤立死



- ・大都市における高齢者の孤立死は増加傾向にある
- ・後期高齢者ほど孤立死のリスクが高い（東京都監察医務院データ）

21

内閣府（2011）『平成23年版高齢社会白書』p. 69

弱者の味方ICT

これまでの日本：働き盛りの男性世帯主中心
給与体系、昇進昇格体系、福利厚生
世帯単位の税・社会保障制度

これからの日本：個人単位の社会
ICTはさまざまなバリアーを取り除く
女性、高齢者、障害者の就労機会の拡大

22

高齢者のICT利用

高齢者の利用拡大: 受身的からより積極的へ

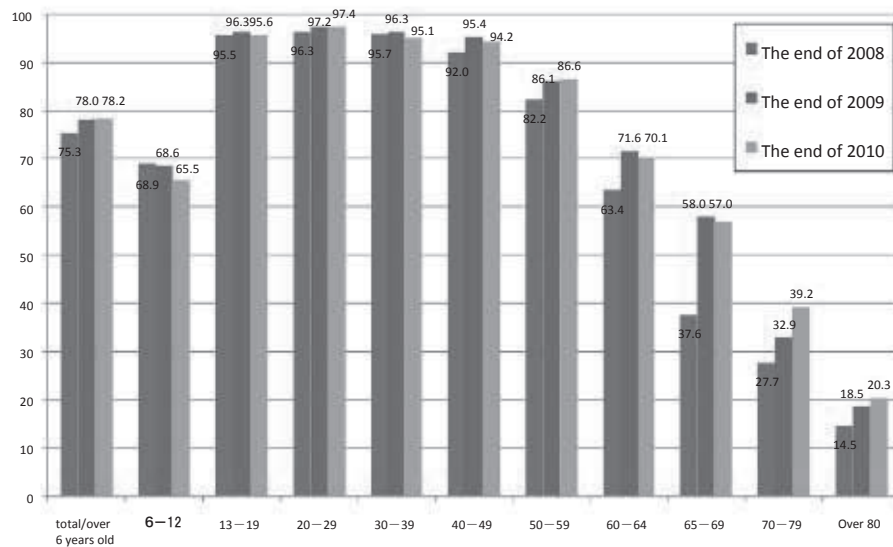
社会的ネットワークの拡大: QOLの向上
心身の健康維持→医療・介護費用の軽減

就労機会の拡大: 次世代にかかる負担の軽減

社会貢献の機会の拡大: 社会の活性化

23

The Rate of Internet Users by Age



ICT利用の阻害要因と促進要因

仲間の重要性:一人で始めるのは困難

適切な教え方

費用がかかる。とくに通信費
高齢者や障害者割引は可能か？

サポートする人の必要性

ご清聴有り難うございました

■ 基調講演 2

「シニアのためのテクノロジーの進化と新たな展開」

加治佐 俊一 氏

マイクロソフト ディベロップメント株式会社 代表取締役社長
兼 日本マイクロソフト株式会社 業務執行役員 最高技術責任者

プロフィール

1959年生まれ。大阪大学 基礎工学部 情報工学科を卒業後、株式会社リコーに入社。ソフトウェア開発に関わった後、1989年 マイクロソフト株式会社に入社。OS/2、Windows NT、BackOffice、Windows 98、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista などのプラットフォーム製品の日本市場に対する開発を統括。

2006年10月より、業務執行役員 最高技術責任者 (Chief Technology Officer)。

2010年4月 マイクロソフト ディベロップメント株式会社 代表取締役 社長 就任、日本マイクロソフト株式会社 業務執行役員 最高技術責任者 兼務。



高齢化が進む中、経験豊富なシニアの皆さんが社会や地域の主役として、元気に日々楽しく活躍されることは日本全体を考えても大変重要なことだと考えています。

マイクロソフトでは「シニアこそ ICT 武装を」と考え、1997年からシニアの皆さんの ICT 活用のための支援活動を行ってまいりました。

特にシニア情報生活アドバイザーの皆さんには、マイクロソフトの製品やサービスについて学んでいただく講座に多数参加いただいておりますが、今後もその活動は継続していきたいと考えています。

2011年は東日本大震災もあり、テクノロジーの新たな使われ方、可能性が注目されました。タブレット型 PC、クラウドサービスなども引き続き話題になっています。

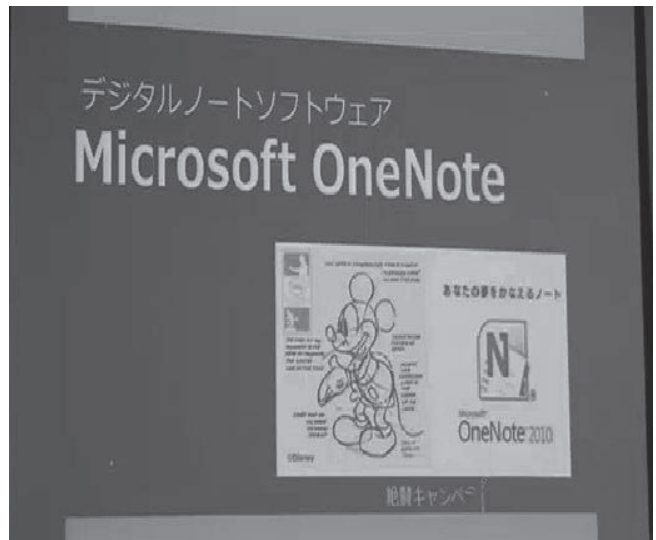
そこで今年の「基調講演 2」は、私が考えた「シニアのためのテクノロジー ベスト 10」を発表いたします。



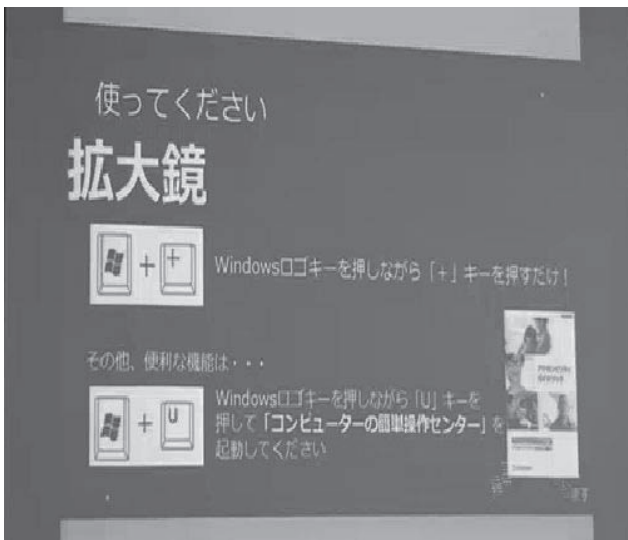
共演した大島友子氏



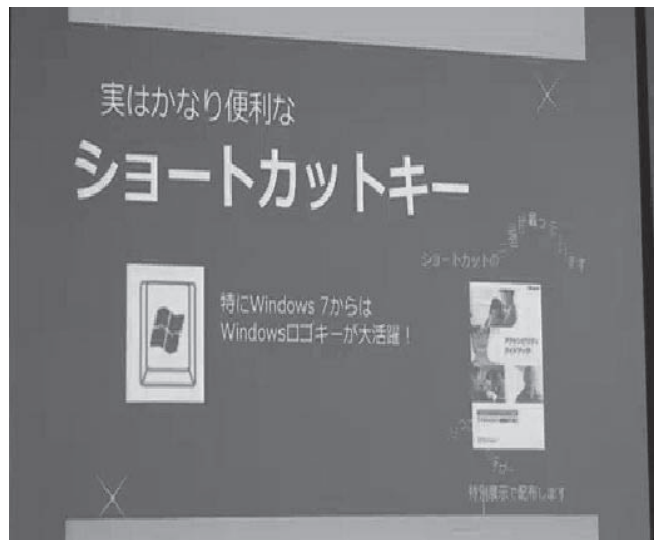
ベスト 10



ベスト 9



ベスト 8



ベスト 7



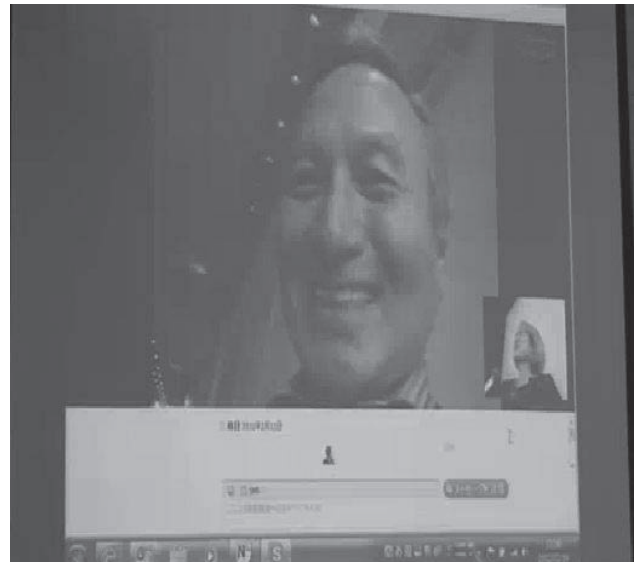
ベスト 6 タブレット



ベスト 5



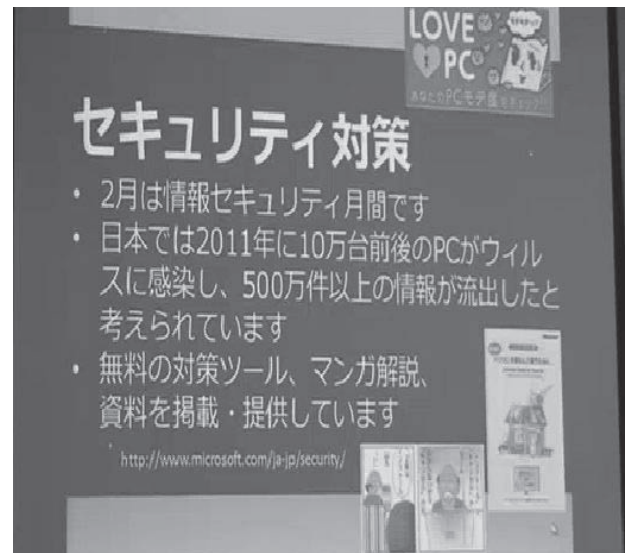
ベスト 4



Skype で実演



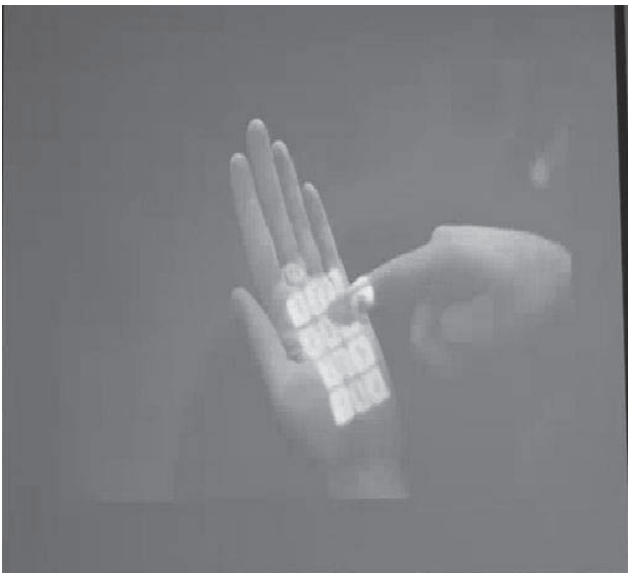
ベスト 3



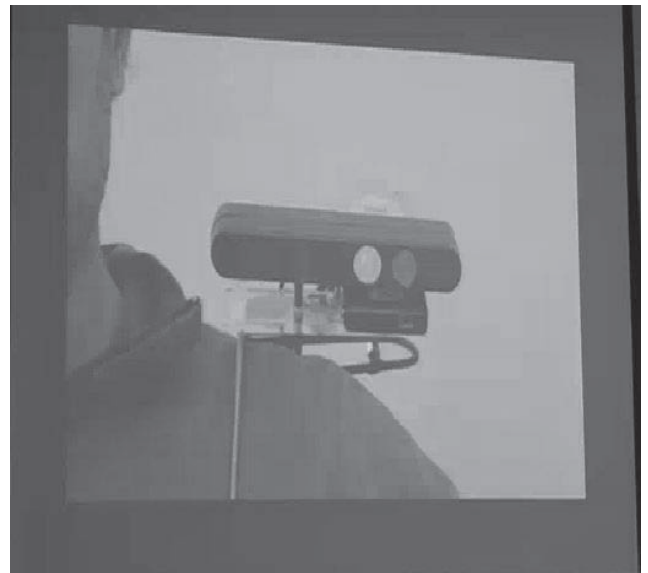
ベスト 2



ベスト 1



手や壁、机がモニター



肩に乗せたプロジェクターから投影

最後に、加治佐さんは未来のテクノロジーを使うために必要なことは、長生きすることが重要で、そのためには「健康」が第一だと提案されました。

■ 特別講演

「ICT のアクセシビリティがシニアの未来を拓く」

山田 肇 氏



プロフィール

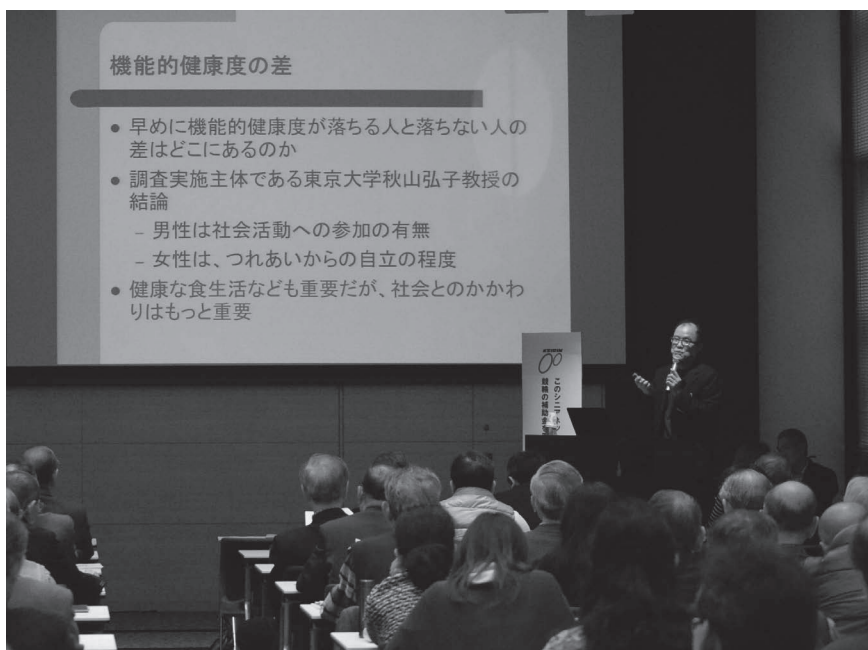
慶應義塾大学大学院工学研究科修士課程修了。同大学より工学博士号。マサチューセッツ工科大学のビジネススクールで学び技術経営修士号。

NTTにて研究直接業務を推進後、民営化後の研究所体制の立案、長期研究戦略の構築、NTTグループの標準化戦略統括などのマネジメント業務に従事。2002年より現職。情報メディアの経済学を中心にすえて教育研究活動に従事。

内閣官房電子政府ガイドライン作成検討会、総務省グローバル時代におけるICT政策に関するタスクフォース、知的財産戦略本部国際標準化戦略タスクフォースなどに参加。情報アクセシビリティに関する国内・国際標準の作成責任者。単著の「技術経営：未来をイノベートする」、編著の「情報アクセシビリティ：やさしい情報社会に向けて」

(いずれもNTT出版)など著書多数。

日本工学アカデミー会員、特定非営利活動法人情報通信政策フォーラム理事長、特定非営利活動法人ウェブアクセシビリティ推進協会理事長、研究・技術計画学会評議員。情報アクセシビリティの国内・国際標準化への貢献により、2007年に経済産業大臣表彰(工業標準化事業表彰)を受賞。



少子高齢化の進展は、介護を必要とする高齢者の増加と介護を提供する労働人口の減少の二つを同時にまねく。

これらに対応する基本戦略は、介護を必要とする時期を先に延ばすことと介護を徹底的に効率化することの二つである。

高齢者の社会参加促進は、介護を必要とする時期を先に延ばす。

しかし社会に参加する高齢者(アクティブシニア)といっても聴覚・視覚等の機能は衰えるため、それを補完するように ICT 機器・サービスはアクセシビリティの条件を満たす必要がある。

家庭内に ICT を配置し高齢者の生活を支援することで介護が効率化される。しかし、そのような ICT は高齢者によって操作可能でなければならないから、ここでもアクセシビリティが必要とされる。

つまり、アクセシビリティを満たすように ICT を提供することは、二つの基本戦略の両方に対応する重要施策なのである。

日本の将来推計人口

国立社会保障・人口問題研究所(12年1月30日)

- 2060年の推計人口は8,674万人で、2010年の1億2,806万人から4,000万人以上も減少
- 65歳以上人口は、2010年の2,948万人が、2060年には3,464万人に。高齢化率は39.9%
- 生産年齢人口(15-64歳人口)は、8,173万人から4,418万人に4割以上も減少
- 高齢者一人を生産年齢の一人が支える社会が到来

山田肇氏は、ICT アクセシビリティに関する国内・国際標準の作成責任者を長く務め、また、総務省グローバル時代における ICT 政策に関するタスクフォースなどでアクセシビリティ施策の必要性を訴え続けてきた。

また、ウェブのアクセシビリティを推進する特定非営利活動法人の理事長でもある。

それらの立場・経験を元に、ICT のアクセシビリティがいかにシニアの未来を拓くかについてお話しいただいた。

●シニアネットは、地域の公共サイトのウェブアクセシビリティの確保・維持・向上にユーザとして参画すべき

特別講演の山田先生からは、将来推計人口が示唆する今後の戦略としては、高齢者が介護を必要とする時期を、出来る限り先に延ばすこと(戦略1)、高齢者に提供する介護サービスを、徹底的に効率化すること(戦略2)が必要である。

シニアネットは、戦略1のために高齢者の生きがいづくり活動などで直接貢献する価値がある。

戦略1では、シニアネットが活躍するには、ICT 機器・サービスが使いやすいことが前提である。戦略2では、周りを囲む ICT とやり取りできることが高齢者が自立的に生活を営むことが前提である。

ICTのアクセシビリティは、今後2つの戦略を遂行する際の大前提となる。

その中でも、ウェブサイトのアクセシビリティの更なる向上が求められるのは、ウェブが入出力インタフェースとして多用されているためである。

将来推計人口が示唆する今後の戦略

- 高齢者が介護を必要とする時期を、出来る限り先に延ばす(戦略1)
- 高齢者に提供する介護サービスを、徹底的に効率化する(戦略2)

総務省では、「みんなの公共サイト運用モデル」を提示してウェブアクセシビリティに取り組んでいる。

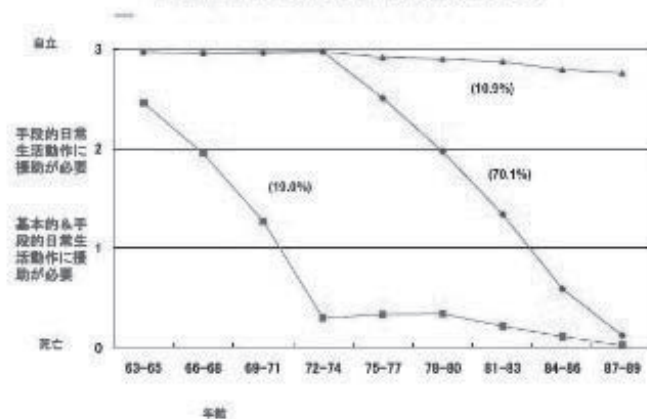
シニアネットは、地域の公共サイトのウェブアクセシビリティの確保・維持・向上にユーザとして、是非、自分の所属する地域自治体のウェブアクセシビリティの検証して欲しい。

戦略1具体化のヒント： 全国高齢者パネル調査

- 東京都老人総合研究所と東京大学などによる、1986年から続く継続調査。同じ人をずっと追跡して調査することに特徴
- 2006年調査は、2459人からデータを収集
- 機能的健康度を3点満点で評価
 - 手段的日常動作：日用品の買い物をする、電話をかける、バスや電車で外出する
 - 基本的日常動作：風呂に入る、短い距離を歩く、階段を2、3段上がる

男性の場合

2-② 機能的健康度の変化パターン【男性】（…理念の背景・補足）
— 全国高齢者20年の追跡調査(N=6,000)



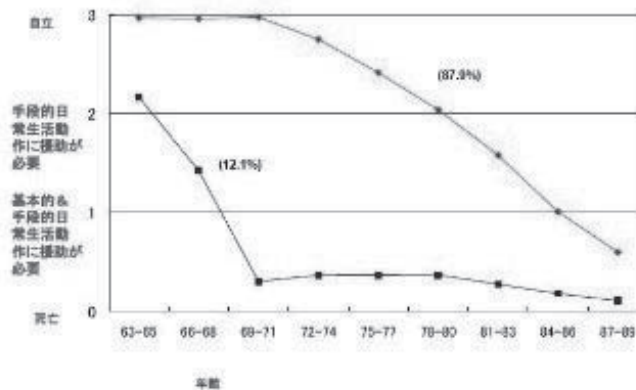
資料) Akiyama et al. (2005) アフリカ老年学会2005年年次大会

5

女性の場合

2-② 機能的健康度の変化パターン【女性】（…理念の背景・補足）

— 全国高齢者20年の追跡調査(N=6,000)



資料) Akizono et al (2006) アメリカ老年学会2006年年次大会

機能的健康度の差

- 早めに機能的健康度が落ちる人と落ちない人の差はどこにあるのか
- 調査実施主体である東京大学秋山弘子教授の結論
 - 男性は社会活動への参加の有無
 - 女性は、つれあいからの自立の程度
- 健康な食生活なども重要だが、社会とのかかわりはもっと重要

認知症予防のための提案

東京都老人総合研究所、2009年

- 認知症予防の意識はなくても結果的に認知症予防の効果が期待できる生活習慣として、「生き甲斐型」の活動がベスト
 - 例えば、囲碁、将棋、麻雀、園芸、料理、パソコン、旅行、ウォーキング、水泳、体操、器具を使わない筋力トレーニングなど
- 訓練型(計算ドリル、脳トレゲーム)は継続に相当な努力が必要で次善の策
- シニアネットは戦略1に直接貢献する価値

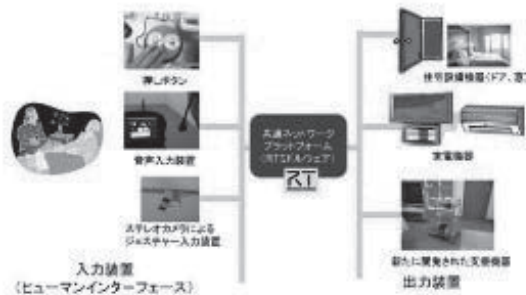
戦略2を目指す研究開発と事業化

- 欧州ではAmbient Assisted Living(空気のよう
に周りを囲むICTに支えられる高齢者の自立的
な生活)の研究開発が進捗
 - 高齢者は何らかの病気を抱え、障害(機能の低下)を
持ち、介護ニーズが高まっている
 - 雇用の流動化が進行しているため、家族は高齢者か
ら離れた場所で居住し、高齢者の多くは独居となる
 - 介護にかかわる労働では女性の果たす役割が大き
いが、今後もそれを期待し続けるのは無理である
- わが国でも、研究開発と早期事業化が進む

障害者が自立して住みやすい住環境モデル

産業技術総合研究所、国立障害者リハビリテーションセンター研究所、ミサワホーム総合研究所

- ネットワークを介して各種の福祉機器が連携動作する住環境モデル
- 個々の障害者に合わせた住環境を構築することが可能



セコム株式会社のココセコム

- ココセコム携帯者の居場所が、パソコンや携帯電話ですぐわかり、要請でセコムが現場へ急行
- ココセコムのボタンを押すだけで、セコムに通報

お母さん、
帰りが遅いけど
どこにいるの
かしら？

パソコン

携帯電話

**そんなとき、
パソコンや携帯電話で
すぐに居場所を確認！**

ココセコムの専用ホームページで
ココセコムを携帯するお母さまの
居場所の確認ができます。

ICTのアクセシビリティは必須

- (戦略1)シニアネットが活躍するには、ICT機器・サービスが使いやすいことが前提
- (戦略2)周りを囲むICTとやり取りできることが高齢者が自律的に生活を営む前提
- ICTアクセシビリティは、今後戦略を遂行する際の大前提

障害者基本法の一部改正(2011年8月)

- 情報の利用におけるバリアフリー化(第22条)
 - 国及び地方公共団体は、障害者が円滑に情報を取得し及び利用し、その意思を表示し、並びに他人との意思疎通を図ることができるようにするため、障害者が利用しやすい電子計算機及びその関連装置その他情報通信機器の普及、電気通信及び放送の役務の利用に関する障害者の利便の増進、障害者に対して情報を提供する施設の整備、障害者の意思疎通を仲介する者の養成及び派遣等が図られるよう必要な施策を講じなければならない。

ウェブアクセシビリティを求める政策

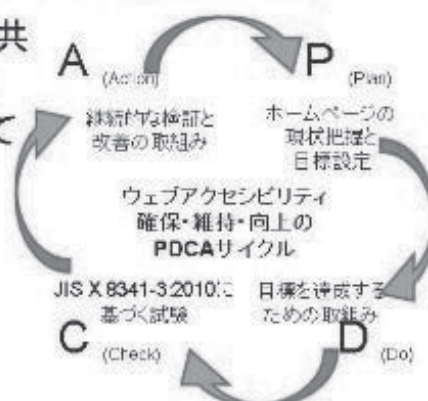
- 障がい者制度改革推進本部『基本的な方向について』で「情報アクセス・コミュニケーション保障」
- 総務省のグローバル時代におけるICT政策に関するタスクフォースで「公的機関ウェブサイトのアクセシビリティの更なる向上」
- ウェブが強調されるのは、入出カインタフェースとしてウェブが多用されているため

ウェブコンテンツに関するJIS規格

- ウェブコンテンツの情報アクセシビリティを確保・向上させるための技術基準(JIS X8341-3:2010)
 - ウェブコンテンツを企画・制作するときに、可能な限り高齢者・障害者が操作又は利用できるように配慮する
 - ウェブコンテンツは、できるだけ多くの情報通信機器、表示装置の画面解像度及びサイズ、ウェブブラウザ及びバージョンで、操作又は利用できるように配慮する
 - ウェブコンテンツの企画から運用に至るプロセスで情報アクセシビリティを常に確保し、更に向上するように配慮する

不断の努力が必要

- 総務省「みんなの公共サイト運用モデル」
- 政府各府省、地方公共団体などが提供するウェブの運用についてモデルとなる手順を提示



- http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/w_access/index_02.html

ユーザの参加

- 利用者の声を反映することにより、ウェブアクセシビリティの確保・維持・向上を実現するために、公式ホームページの問題点の指摘やリニューアル実施時の検証への参画など、地域の団体等の協力を得ることが有効です
- 【例】障害者団体／シニアネット／特別支援学校／視聴覚障害者情報提供施設

ユーザ評価

- 高齢者や障害者をはじめとする利用者に実際にホームページを使ってもらうことにより、ホームページの問題点を把握します
- すぐに対応可能な問題点は対応します。技術や予算の面からすぐに対応することが難しい問題点は、次回のリニューアル時の検討課題とします
- ユーザ評価には、専門家に依頼したり、専門の機材・部屋を用いて実施するなど様々な方法があります。また、専門家や専門の機材・部屋に頼らず、利用者自身の環境を活用してホームページの問題点を確認してもらうことも可能です

ウェブアクセシビリティ推進協会(JWAC)の設立

- ウェブは、すでに社会生活に不可欠なインフラ。ウェブを利用した経済活動も盛ん
- ウェブは、高齢者・障害者の日常生活向上、社会参加の機会拡大・就業支援に大きな役割を果たす重要な生活ツール
- 国内標準に準拠したウェブは未だに少なく、普及の現状には多くの課題
- ウェブを利用する、制作する、提供する等立場は違っても、ウェブはすべての人にとって使いやすいものであるべきという理念に賛同する団体や企業が集まり、同じ目的を持って活動する

協会(JWAC)の行う事業

- 日本のウェブアクセシビリティの品質レベルを維持・向上させていく事業
- ウェブアクセシビリティに関する普及啓発事業
- ウェブアクセシビリティをさらに向上させるための調査研究事業
- 関連機関及び諸団体との提携協力関係の構築事業
- 協会の目的を達成するために必要な事業

講演のまとめ

- 人口減少社会で社会の活力を保つためには、介護を必要とする時期を出来る限り先に延ばし、介護サービスを徹底的に効率化する必要
- いずれの側面でもICTアクセシビリティは大前提
- とりわけ入出カインタフェースに利用されるウェブのアクセシビリティを改善することは重要

お願い

- シニアネットは戦略1に直接貢献する活動として評価するが、いっそう社会的目的を強め「生き甲斐型」の活動を進めるよう期待したい
- 社会的価値が高いウェブアクセシビリティの改善等に、自治体と連携するなどして、力を貸して欲しい
- ウェブアクセシビリティに関する情報の結節点（ウェブアクセシビリティ推進協会）に参加してほしい

■ 先進事例研究 1

「高齢期の活動継続におけるICTの役割」

澤岡 詩野 氏

公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員



プロフィール

1974年神奈川県に生まれ。武蔵工業大学卒業、東京工業大学大学院博士後期課程修了、東京理科大学助手を経て、2007年より現職。専門は、老年社会学。都市高齢者の親族外に広がる緩やかな社会関係、携帯電話や電子メールなどのICT(情報通信技術)の普及が社会関係に及ぼす影響など、高齢期の社会関係をテーマとした研究に取り組んでいる。東京都杉並区や江戸川区、神奈川県横浜市や川崎市などで、定時制市民(就労などで平日昼間は地域にいない住民)の居場所創り、シニアが主役のまちづくり、ICTを活用した高齢期の孤立防止に取り組んでいる。

発表の趣旨

高齢化の進む日本において、2025年には5人に1人が75歳以上になるであろうと予測されている。

後期高齢期は、心身機能の低下や配偶者や親しい友人の罹病などにより、それまでの活動や交流が縮小し、特に男性は社会的孤立に陥りやすいことが知られている。

後期高齢期においても社会との関わりを維持し、「自分らしく」生きがいに満ちた毎日を送る為の支援が求められている。

高齢者が社会とつながり続ける為の有用なツールとして、移動能力などの制約の少ないパソコン、携帯電話やスマートフォンを代表とするICT(情報通信技術)は大きな可能性を秘めている。

しかし後期高齢者については、後期高齢者=要介護者・支援すべき存在という固定的な見方、他の年代に比較して低いICTの普及率を反映してか、社会活動や交流の為のツールとしてICTを位置づけた研究はほとんど行われていない。

今後、中年期から日常生活においてパソコンを活用してきた人々が高齢化していくなかで、後期高齢期においても活動を継続していくためのICTの可能性について明らかにしていくことは重要な課題であるといえる。

「自分らしく」年を重ねていく為に ICT の果たす役割を、これまで行ってきたインタビューや社会実験の結果を紹介しつつ、皆さんと共に考えたい。



老年学(Gerontology)

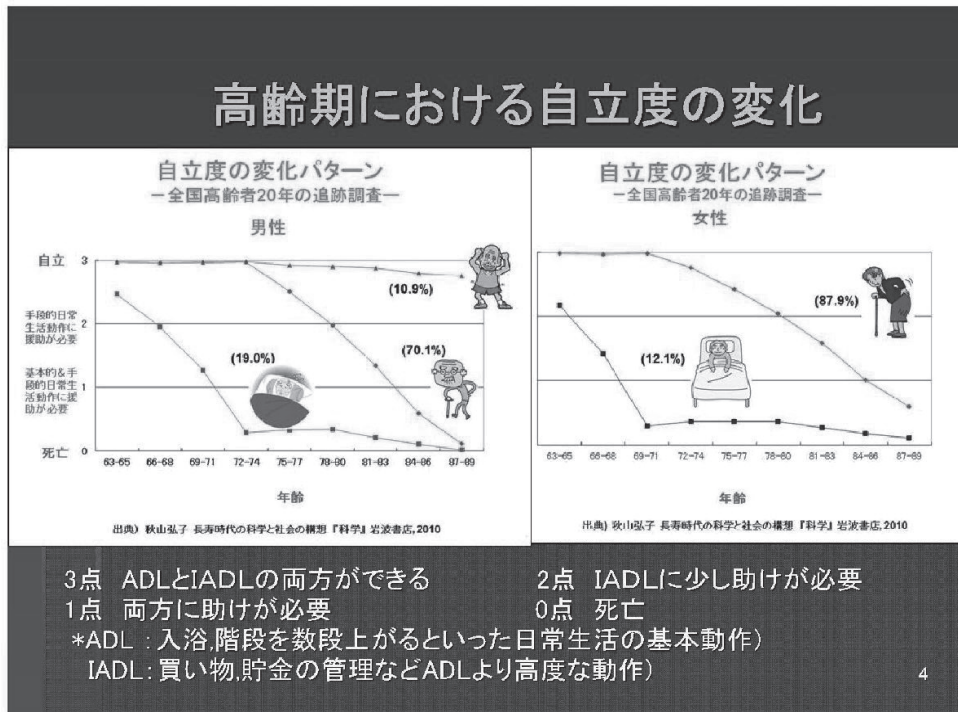
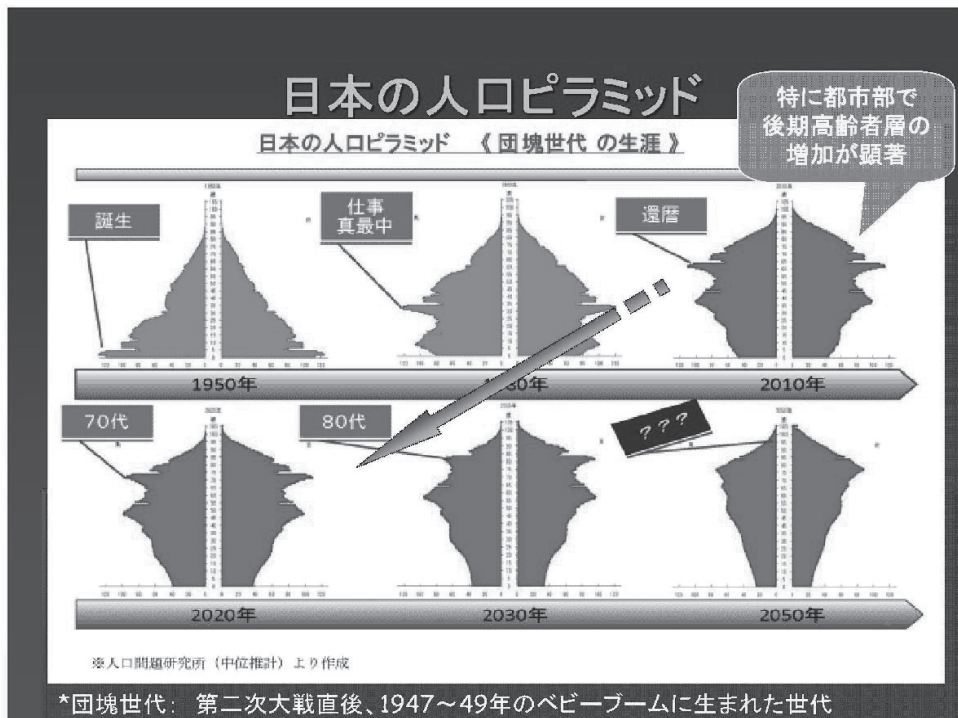
Successful aging(幸福な老い)の条件を明らかにする
 学問として、アメリカで1940年代から発展
 ;健康長寿・経済的安定を前提条件に、どのような
 高齢期の生活をつくりあげるかを科学する

Quality of Lifeの構成要素

共通の関連要因
 経済, 健康, 社会関係
 この3要素で3割説明
 +残りは未解明
 (社会環境, 物的環境,
 パーソナリティなど等)

*Quality of Life: 個人がどの程度、意義のある生活及び人生を過ごしてきたかを主観的に判断(Renwick 1994)

2



加齢と認知能力

認知能力とは：五感を通じて外部から入ってきた情報から問題解決のために深く考えたり、言葉を自由に操ったり、何かを記憶したり、物事や自分の置かれている状況を認識したり、といった、いわば人の知的能力。

- 日常問題解決能力や言語能力
-高齢期になっても低下しにくく、むしろ発達する
- 短期記憶能力
-加齢により低下していく

(Cornelius and Casp 1987)

人間の発達には20代でピークに達し、低下の一途という概念は間違い!

後期高齢期にむけ発達していく能力もある

5

「高齢期の活動」

- 高齢期の社会活動(家庭外での対人活動)は、健康、生きがい形成や幸福な老い等に寄与
- 趣味や遊びに関する活動が最も多く、男性はついで仕事関係や同窓会に限定されるが、女性は学習や町会・自治会など多様
- 特に都市部の高齢者にとって、社会活動への参加は、社会関係を再構築する重要な「居場所」
- 後期高齢期は、身体機能の低下、配偶者の罹病などにより社会活動も縮小傾向にあることが指摘

既存研究では、中年・前期高齢者の社会活動への参加促進要因の検討が中心

社会からの孤立が危惧される後期高齢期に、活動を継続していく為の支援が求められている

6

人生における3つの「居場所」

「The Great Good Place」(1989 Ray Oldenburg)

第一「家」および第二「学校・職場」の重要性は、全ての国・都市で十分に認識されており、整備も進んでいる。
 第三の居場所の必要性とあり方は国によって大きな差がある。
 アメリカは西欧の歴史ある都市と比べ、第三の居場所が劣っており、これがアメリカの都市の魅力の弱点。

第一の居場所「家庭」 親、兄弟・姉妹、配偶者、子どもなど

第二の居場所「学校、職場」 同級生、同僚、上司、部下など

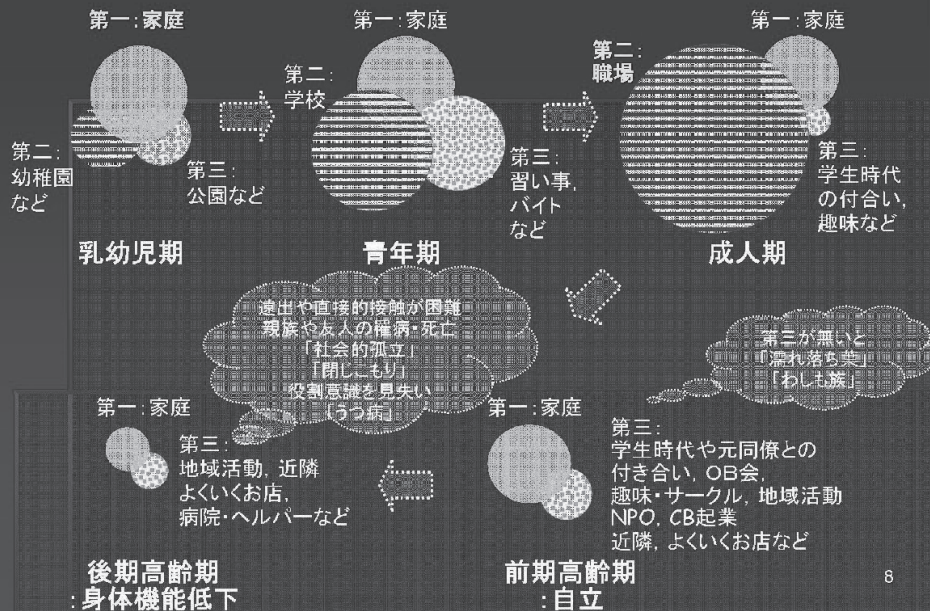
第三の居場所「趣味、社会活動」 友人、仲間、知り合いなど

「第三の居場所」とは、居心地が良い、楽しい、やりがいがある、役立っている、仲間がいる等、個々の価値観が最も反映される場



7

居場所の移り変り：都市部の企業人



8

「IT」と「ICT」

- IT: Information Technology (情報技術)
- ICT: Information and Communication Technology (情報通信技術)
 - 2000年頃に提唱された「e-Japan構想」では「IT」が盛んに用いられていた。
 - 2005年からの「u-Japan構想」では「ICT」と表現。
 - 「情報」に加え「コミュニケーション」と表現している点に特徴があり、ネットワーク通信による情報・知識の共有が念頭に置かれた表現。

Communicationとは?

コンピュータと端末装置との間をはじめコンピュータと人との間、人と人との間で情報・データ・メッセージをやりとりすることの総称 (コンピュータ用語辞典)

9

u-Japan 2010年までの到達目標

2012年、新たな課題は?

経験や知識を積み重ねてきた高齢期、
結びつきたい人や物への拘りは強く、多様

Ubiquitous (ユビキタス)

(あらゆる人や物が結びつく)

「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」ネットワークに簡単につながる
ICTが日常生活の隅々まで普及し、簡単に利用できる社会へ
人一人に加え、人ーモノ、モノーモノが結びれる
あらゆる局面で、コミュニケーションがより重要な役割を担う時代に

Universal (ユニバーサル)

(人に優しい心と心の触れ合い)

人に優しい
・機器やネットワークを意識せず、誰でも簡単に利用
・ICTで、高齢者や障害者等も元気に社会参加
心が触れ合う
・心の触れ合うコミュニケーションで、世代や地域を超えた一体感を醸成

User-oriented (ユーザー)

(利用者の視点が届けこむ)

利用者に近い
・供給側の発想でなく、利用者の利便性をより強く意識した社会へ
・ニーズと強く結びついた技術やサービスを開発
利用者が供給者にも
・ネットワークの力によって
1. 総称「プロシューマー」化

Unique (ユニーク)

(個性ある活力が湧き上がる)

個の活力が生み出される
・個人でも夢を持ち新たな挑戦が可能な社会へ
社会が活性化される
・新しい社会システムやビジネス・サービスが次々創出
・画一を脱し、創意工夫による地域再生を実現

10

高齢者とITに関する研究動向

1990年～2011年に日本国内で発表された「高齢者とICTに関する研究」41件

(社会老年学文献データベースDiaLで検索)

- 1990年代に発表されたのは、老人保健事業の評価にデータベースとしてのパソコン導入を提唱した1件
- 2000年代から、単身高齢者への安否確認サービスやテレビ電話による在宅リハビリや遠隔医療など、ICTを在宅での生活支援ツールと位置づけた論文が増加
- パソコン教室など、社会参加の効果を検討した研究も見られる

要介護や支援すべき存在と位置づけ、主体的にICTを活用する存在と位置づけた研究は僅か
ICTを介したコミュニケーションの実態、特に後期高齢者についてはほとんど明らかにされていない

11

電子メールを介したコミュニケーション

シニア向けのポータルサイト登録者へのWEB調査

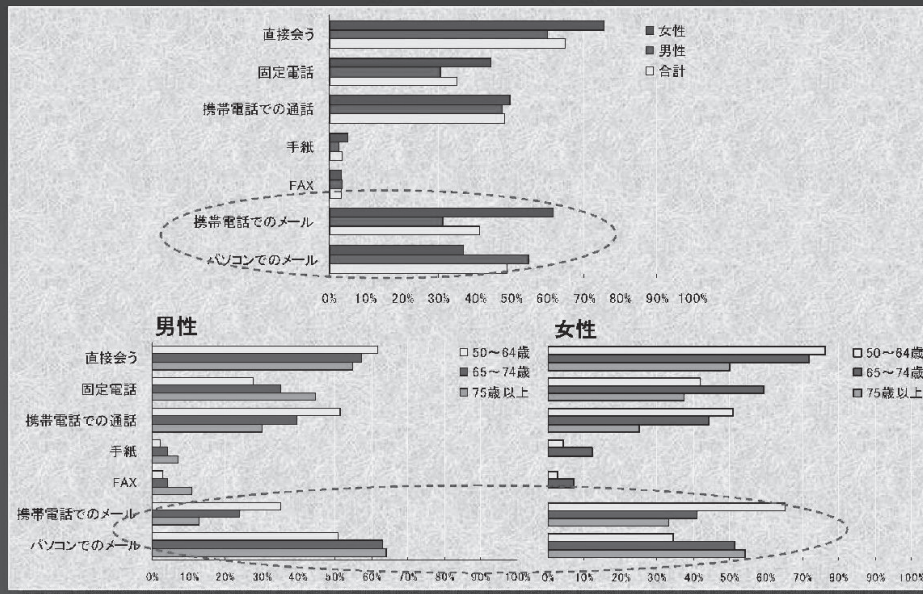
「昨日までの1週間で、パソコンや携帯電話・PHSを使ってメールを送信した方のなかから、家族・親族以外で思い浮かぶ他者5名」について調査

	合計 (n=3,310)	男性 (n=2,383)	女性 (n=927)
50~64歳	74.8%	71.2%	84.0%
65~74歳	21.8%	24.7%	14.2%
75歳以上	3.4%	4.1%	1.8%

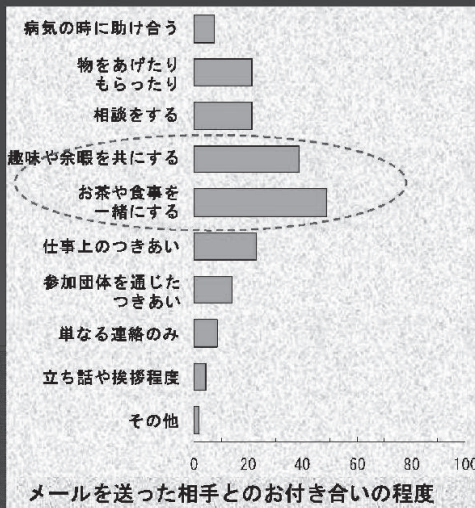
- 1週間で家族・親族以外にメールを送信した人 65.8%
一人当たりの平均3.2件(男性 3.1件, 女性 3.8件)
- メールを全く送信していない人 34.2%
 - 女性(24.6%)よりも男性(37.9%)の割合が高い
 - 50~64歳, 64~74歳に比べ75歳以上で顕著に高い

12

メールを送った相手との普段の交流方法

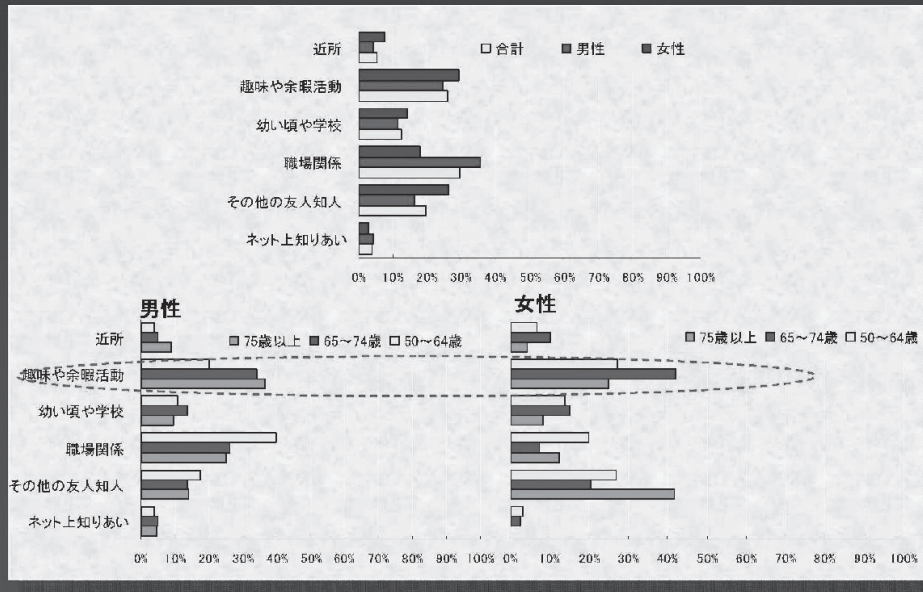


メールを送った相手との普段のおつき合い

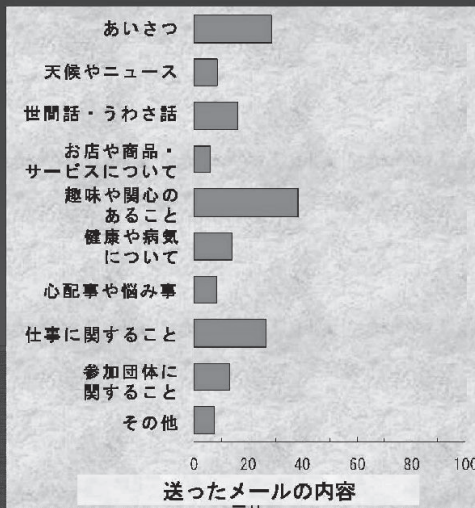


- お茶や食事、趣味や余暇活動を共にすることが多い
- 病気の時に助け合うといったサポートの提供者となりうるお付き合いは僅か
- 趣味や余暇活動を通じての間柄：
 - 趣味や余暇活動以外に、5割がお茶や食事を共にしている
 - 相談は僅か(17.9%)
- 若い頃や学校時代を通じての間柄：
 - お茶や食事に続いて、趣味や余暇を行っている
 - 相談も多い(33.5%)

メールを送った相手の間柄



送ったメールの内容



- あいさつや連絡などの儀礼的な内容が多い
- 趣味や余暇活動を通じての間柄:
 - 趣味や関心事, 団体の活動に関する連絡が中心
 - 心配事や悩み事については4.6%とわずか
- 幼い頃や学校時代を通じての間柄:
 - 趣味や関心事に続いて, 健康や病気について
 - 心配事や悩み事についての内容も多い(14.4%)

回答者の6割は電子メールを、余暇活動や職場、幼い頃や学校時代の友人などと、電子メールを介して交流していた

- 男性はパソコン、女性は携帯からメールを送ることが多いが、男女共に後期高齢者の方がパソコンからメールを送る傾向が認められた

なじみのツールを使い続ける？

➡ 操作性や画面の小ささにより携帯電話に拒否感？

- 儀礼的な内容や連絡事項が多く、心配事についてのやり取りは僅か

メールは、趣味や余暇、お茶を共にするお付き合いを補完する役割？

➡ 直接的な接触がなくなるとメールは辞めてしまう？

- 趣味や余暇活動の友人・仲間とのメールは、女性では前期で増加し後期で減少するが、男性では後期まで増加傾向

➡ 趣味や余暇活動での関わりが職場との関りの代替に？

17

加齢のプロセスとICT

- 高齢者の社会的孤立が問題視されるときに想定されてきたのは、直接会うことや固定電話での交流
- インターネットの普及に伴い、高齢期における活動や交流のあり方も変わりつつある
- 後期高齢期=受身、虚弱や介護という概念は間違い

前期高齢者と後期高齢者の要介護等認定の状況

前期高齢者(65～74歳)		後期高齢者(75歳以上)	
要支援	要介護	要支援	要介護
187	455	1,014	2,868
(1.2)	(3.0)	(7.6)	(21.6)

単位:千人、()内は%

平成23年版 高齢白書

70.8%は何らかの持病と付き合いつつ生活
=受身ではない存在

生涯にわたり社会とつながり続け
役割を見出し、生きがいに満ちた
人生を送るためにICTの果たす役割は？

18

後期高齢期の方への調査

「日常化しつつある交流媒体としてのインターネットの役割」

(平成23年度 文部科学省科学研究費)

- 対象者:
東京都を活動拠点にするシニア情報生活アドバイザー養成講座実施団体「D会」と「I会」の現役会員および退会者
(高齢期になってからICTを使い始めたことが想定される会員)
D会 男性17名, I会 男性17名, 女性 5名
- 方法:
半構造化インタビューを実施(一人あたり1~2時間)
- 内容:
退職前の社会活動, 退職後から現在に至るまでの社会活動,
その中でのICTの役割の変化
- 分析の方法:
逐語録を作成, ICTに関する文章や単語を抽出しデータ化

19

ICTを語るキーワード①(分析途中)

- 技術の取得, 他者とつながるための共通関心事, 社会貢献など, ICTを語るキーワードは多様
- 人によりそのウェイトは異なり, 行っている活動や関係を反映
 - 知的好奇心や生涯学習
 - 社会から遅れたくない, 使ってみたい, ポケ防止
(実際にその技術を使うことは少なく, その場で忘れてしまう⇒「社会の一員としての意識」が得られ, 「仲間との試行錯誤」も楽しい)
 - 常に新たな技術が出てきて, 「尽きることない挑戦」
(使うこともあるが, 新たな知識を取得すること自体が目的)
 - 情報源
 - 「家にいながらにして」, 趣味や余暇の幅を広げられる
(交通費もかからず, 外出困難な状況でも影響がない)
 - 自分や家族の罹病に際し, 病院を調べ, 「自分で選択」ができた

20

ICTを語るキーワード②(分析途中)

- つながりたい、つながり続けたい
 - 遠方の孫や子どもと直接に会えなくてもつながれる
 - 共通の興味・関心を起点にした「仲間作り」のきっかけ
(学ぶという知識欲を満足させながらの集まり、男性では同質性の高い他者に出会える、女性では異質な他者とつながれる)
 - 動けなくなった時のことを考えると、「社会との接点」として必要なツール
- 自身の想いや知識の承認
 - 直接につながる他者が少なくても、blogなどで発信することで共有して貰える
(足跡やアクセス数などが自己の満足度を高める)
- 社会貢献の切り口
 - ICTならどうにかなるかなという、「入りやすいきっかけ」
(SILAの講座受講動機でも多い)
 - 地域などにも入りやすい(パソコンに詳しいAさんという明確な役割)¹

ICTを語るキーワード③(分析途中)

- 電子メールやインターネットを使っていたにも関わらず、ある時期に使うのを止めてしまう人が一定割合存在
 - 目が見えにくくなり、身体的・心理的に億劫
 - つながりたい相手がいなくなった(亡くなった)
 - 直接の活動に参加できなくなって、精神的にも隔たりができた
 - 「自分の生活ペース」とスピードが合わなくなってきた
(限られたつながりと、活動の維持に必要なはない)
 - スマートフォンなどの新たな機器に対しても、PCを携帯できる必要性を感じない
(興味はあるが、実生活においては、現状でコト足りる)
 - かかる経費と役立つであろう事を考えると見合わないと感じる

武器としてのICT

ICTという武器

セカンドステージ(自立)

活動開始, 新たな関係構築のツール

サードステージ(身体機能低下)

活動継続, それまでの関係維持のツール

パソコン教室などの講師として

- 知的好奇心の満足(高価で高等な玩具)に終わらない, 人生を自分で最後までプロデュースするための武器としての動機付け
- 維持したい活動や関係を考慮した武器を選択するお手伝い
誰と?, どんなふうにと?, どの程度?
経済状況や身体状況に加え, 個々のスタイルにマッチした武器選び

23

ICTを介したゆるやかなつながり創り

平成23年度 独立行政法人福祉医療機構・社会福祉振興助成

ICTによる高齢者孤立防止モデル普及事業報告会

「高齢期の社会的孤立防止とICTの可能性」

日時: 2012年3月22日(木) 14:00~16:30

会場: 清新町コミュニティ会館ホール(裏面地図参照)

江戸川区清新町1-2-2

東京メトロ東西線「西葛西駅」から徒歩16分

興味のある方は, 澤岡までご連絡下さい(sawaoka@dia.or.jp)

みなさんと共に、ICTを武器に明るい超高齢社会を
創り上げましょう！
ご清聴ありがとうございました。



■ 先進事例研究 2

「高齢期の活動継続におけるICTの役割」

山根 明 氏

NPO 法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹 「三鷹 iPad 研究会代表」



プロフィール

1935 年 広島県出生

退職 1 年前の 64 歳にパソコンを学び始めた。

NPO 法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹元理事

シニアがシニアにパソコンをやさしく教える、次の

二つの講師養成講座を主催

● シニア IT アドバイザ (SITA サイト 富士通ラーニングメディア主催)

● シニア情報生活アドバイザー (一般財団法人 ニューメディア開発協会主催)

シニアのパソコン超初心者のための「ゆうゆうサロン」を主催

iPad を使ってパソコンに全く関係のないシニアにメール・インターネットのお手伝いをする「三鷹 iPad 研究会」を主催

2011 年 8 月 内閣府地域社会雇用創造事業交付金事業 「第 1 回みたかソーシャル & コミュニティービジネスプランコンペティション 2011」優秀賞」に入選

発表の趣旨

「スマートフォン」「タブレット」「電子マネー」「地デジ」「e-Tax」etc. シニアにとってデジタル社会の仕組みやサービスはとても難しいです。山根も Suica (JR 東日本のプリペイド型電子マネー) が「定期券」以外に「買い物ができる」「バスや地下鉄にも乗れる」なんて数年前まで知りませんでした。シニアにデジタル社会の仕組みやサービスをやさしく教えてくれるところがほとんどありません。

パソコンはシニアがひとや情報とつながる道具としては最高です。しかしパソコンは「マウス」「キーボード」「文字入力」「ウインドウズの基本操作」などシニアが覚えることがたくさんあります。

先進事例研究2

iPadでシニアライフ様変わり ～私とiPadのかかわり～

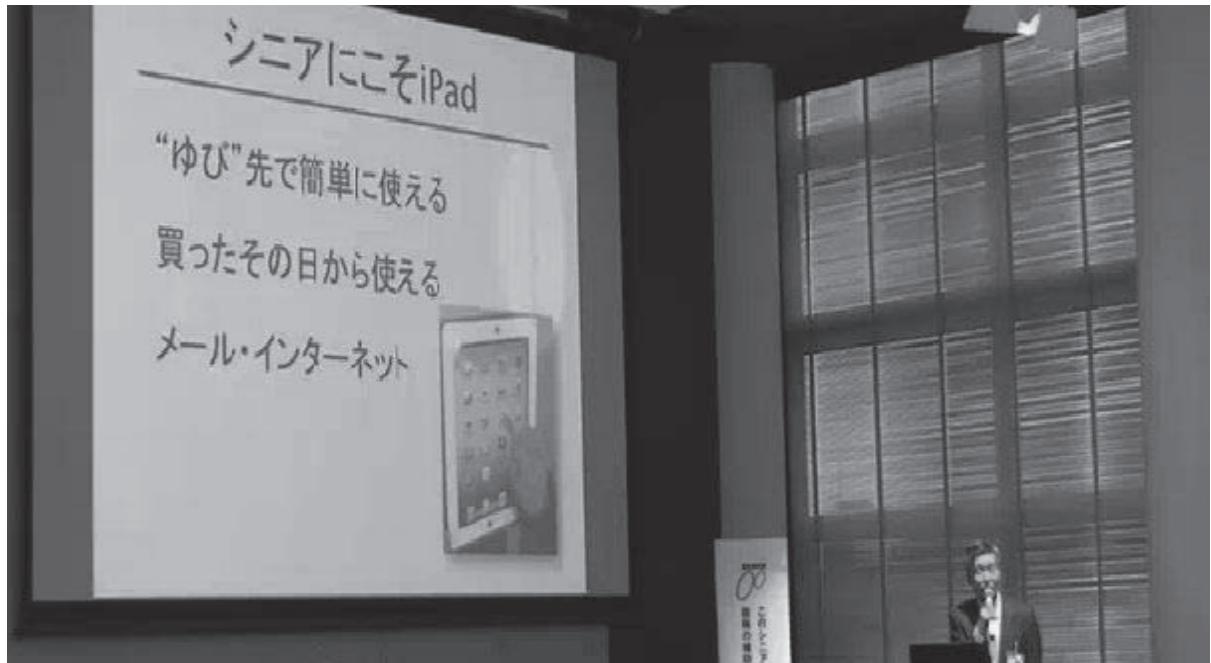
2012年2月16日

NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹
三鷹iPad研究会 山根 明

iPad は入力に苦手なシニアでも指先の簡単な操作で使えます。パソコンの知識がなくても使えます。

シニア SOHO 三鷹校のパソコン超初心者向けの「ゆうゆうサロン」には約 200 名/月以上のシニアが熱心に通っていられています。その経験から得た確信が、「シニアに iPad」です。

iPad はシニアのライフスタイルを大きく様変わりさせます。一昨年 5 月に iPad が発売されその後の山根のライフスタイルは様変しました。その山根のライフスタイルと「三鷹 iPad 研究会」の活動をご紹介します。



iPadではばたこう！

iPadをつかいこなして
人や情報とつながろう
地域ではばたこう！



4

朝 床の中で

メールチェック



新聞を読む



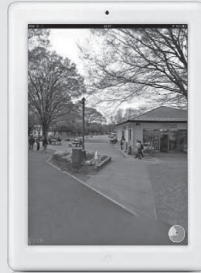
5

情報をとる

天気を調べる



地図を調べる



6

見たり聴いたり

動画を見る



NHKラジオを聴く



7

会話する

顔を見ながら電話



無料で海外の家族と



8

趣味を楽しむ

本を読む



ゲームを楽しむ



9

「ない」なら 作ろう！

明日行くところがない ➡ 行くところを作ろう！

iPad体験会 (4, 560名)

明日会う人がいない ➡ 会う人を作ろう！

一緒に活動しましょう

明日やることがない ➡ やることを作ろう！

iPadサポーター養成 (240名)

内閣府地域社会雇用創造事業交付金事業
第1回みたかソーシャル&コミュニティービジネスプラン
コンペティション2011「優秀賞」に入選

10

私とiPadのかかわり

2010年9月から普及活動

- iPad講師養成講座
2010年9月～
- iPad有料講座
2010年10月～
- iPad無料体験会
2010年11月～

2011年情報発信元年

- ホームページ「三鷹iPad研究会」
2011年2月
- Twitter
2011年5月
- Facebook
2011年7月
- ブログ「ようこそ山根のサロンに」
2011年10月

11

iPad普及3年計画

- 去年 iPadの楽しい使い方
- 今年 楽しい使い方 + 情報の取り方
(+「iPad研究会のソーシャルネットワーク」づくり)
- 来年 楽しい使い方 + 情報の取り方
+ 情報発信の仕方
(+「iPad研究会のソーシャルネットワーク」普及)

12

iPadでシニアの笑顔を



13

■ 先進事例研究 3

「シニアにも優しい スマートフォンの新時代」

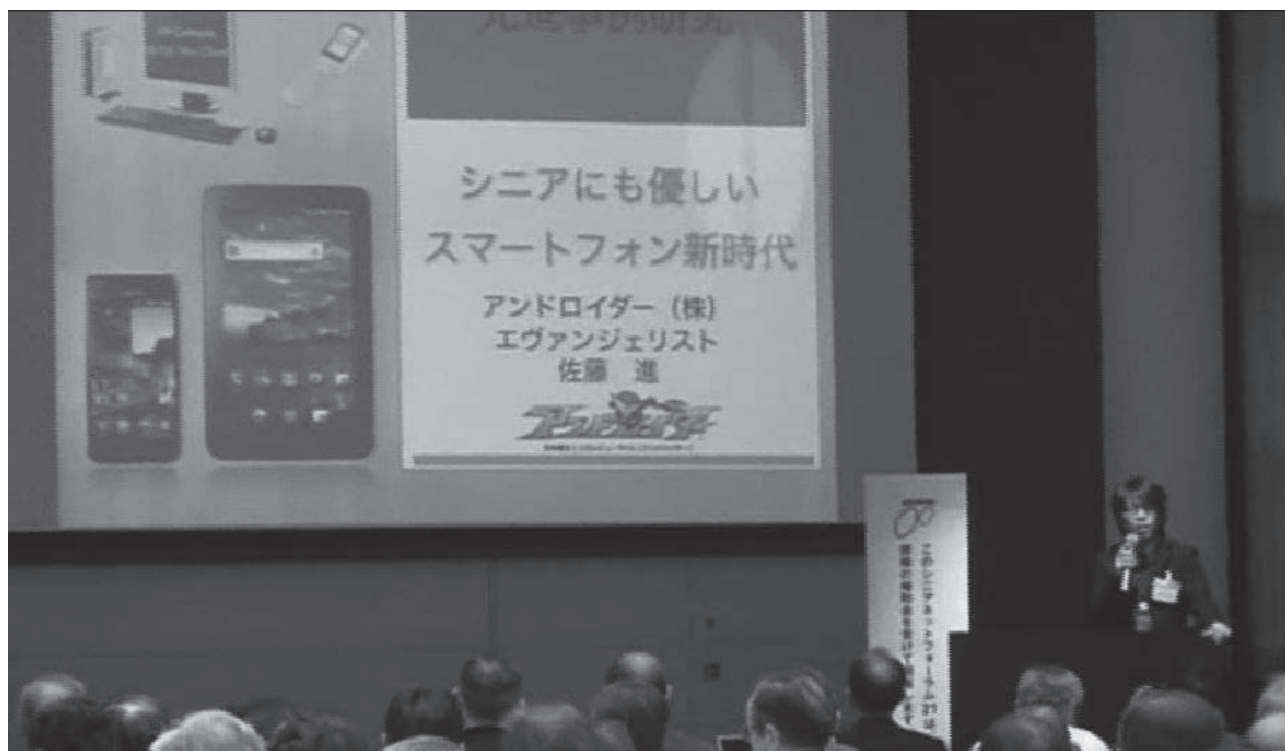
佐藤 進 氏

アンドロイダー株式会社 エヴァンジェリスト



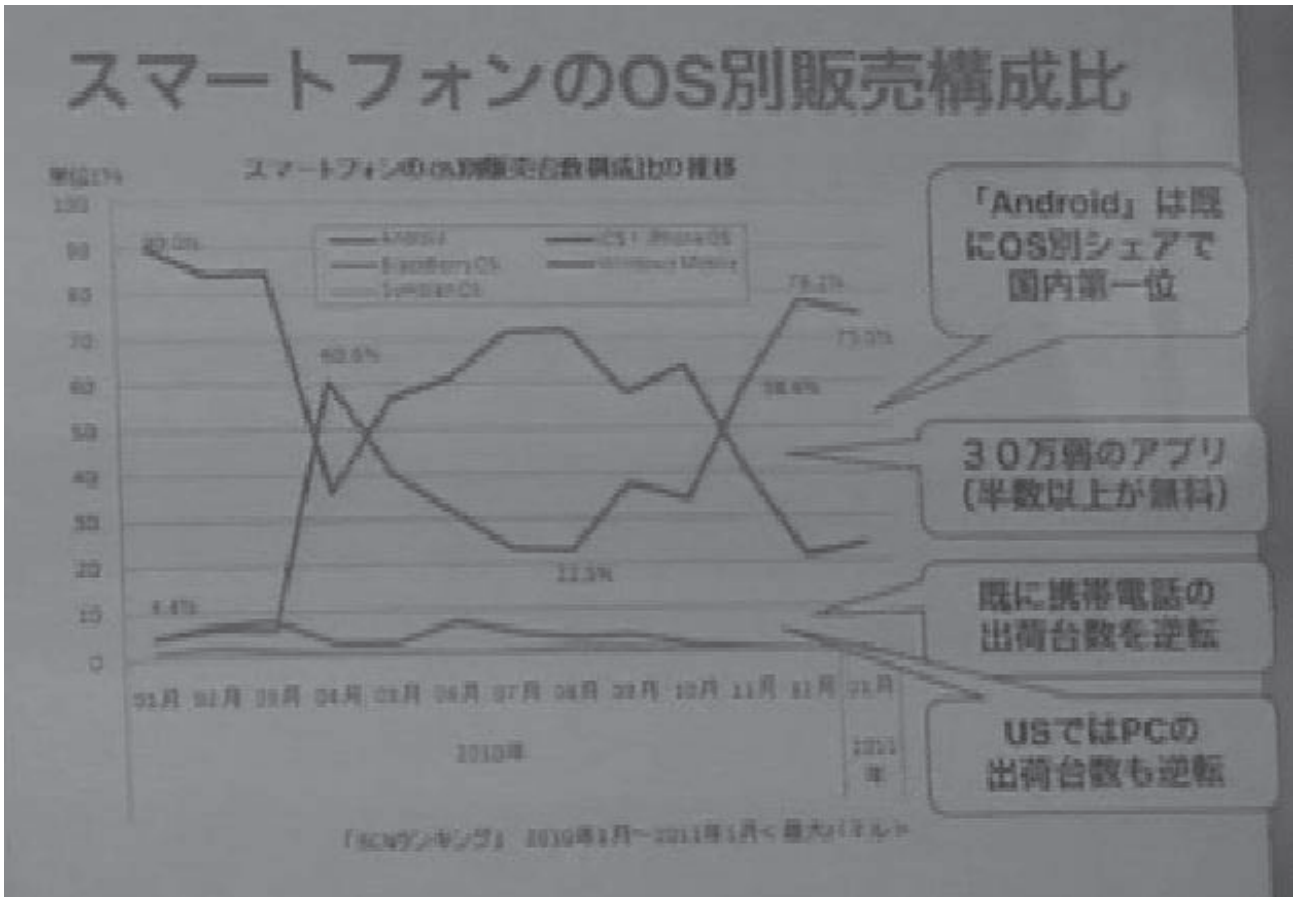
プロフィール

2004年 株式会社ルクレ(旧 株式会社トリワークス)入社 PC用パッケージソフトウェア、フィーチャーフォン向けコンテンツ企画、営業、運営を経て、2010年 国内最大人材レビューサイト「アンドロイダー」発行人を兼務。現在はエバンジェリストとして各種講演、研修講師、コンサルタント業務を行う。また携帯キャリア、携帯メーカー、アプリベンダーなどアンドロイドに関わる全プレイヤーの窓口としても精力的に活動中。

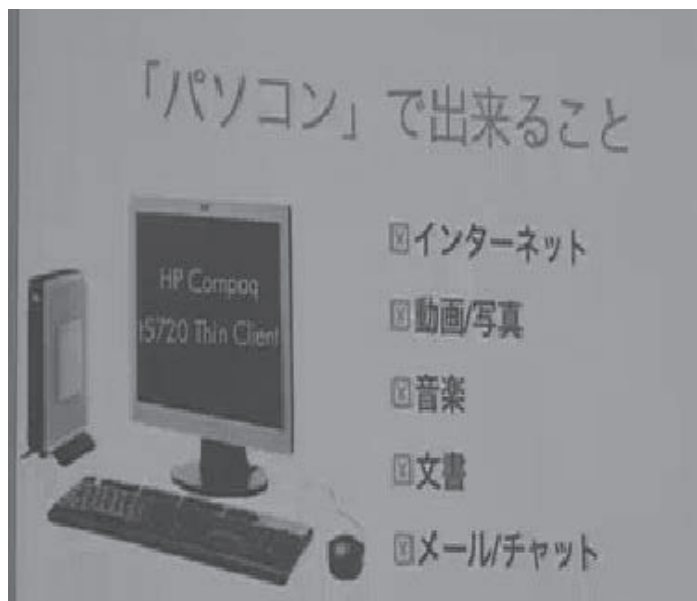


スマートフォンの現状


- 「Android」は既にOS別シェアで国内一位
- 30万個のアプリの半数以上は無料
- 既に携帯電話の出荷台数を逆転
- USではPCの出荷台数も逆転



パソコンの特徴




「パソコン」のメリット



- ☑ 表示面積が大きい
- ☑ 入力効率が高い
- ☑ 処理能力が高い
- ☑ ソフトウェアを追加可能
- ☑ ハードウェアの拡張性が高い


「パソコン」のデメリット



- ☑ 持ち運びが困難
- ☑ 別途通信回線が必要
- ☑ 起動の遅さ
- ☑ 煩雑な操作方法
- ☑ 電池が持たない

携帯電話の特徴

「携帯電話」で出来ること




- ☑ 通話
- ☑ インターネット
- ☑ メール
- ☑ アラーム
- ☑ 電卓
- ☑ ワンセグTV
- ☑ 電子マネー
- ☑ アラーム
- ☑ 地図閲覧

「携帯電話」のメリット



- ☑ どこでも接続可能
(通話/メール/ネット)
- ☑ 持ち運びやすい
- ☑ 簡易アプリを追加可能
- ☑ 電池持ちが良い
- ☑ GPS機能
- ☑ 記録再生機能が豊富
(テキスト/写真/動画/音声)

「携帯電話」のデメリット



- ☑ 回線速度が遅い
- ☑ 処理能力が低い
- ☑ データ互換性/汎用性が低い
- ☑ 契約業者/端末種によって
提供サービス機能が異なる
- ☑ 表示面積が小さい
- ☑ 入力効率が劣る

スマートフォンの特徴

「スマートフォン」の特徴

- ☑ 大画面
- ☑ ボタンが少なくパネル状
- ☑ 物理キーボードがない
- ☑ 単体で通話/通信可能
- ☑ 処理能力が高い
- ☑ 入出力機能が豊富
- ☑ 豊富なセンサーを具備
- ☑ アプリを用いた拡張性

「スマートフォン」のメリットは？

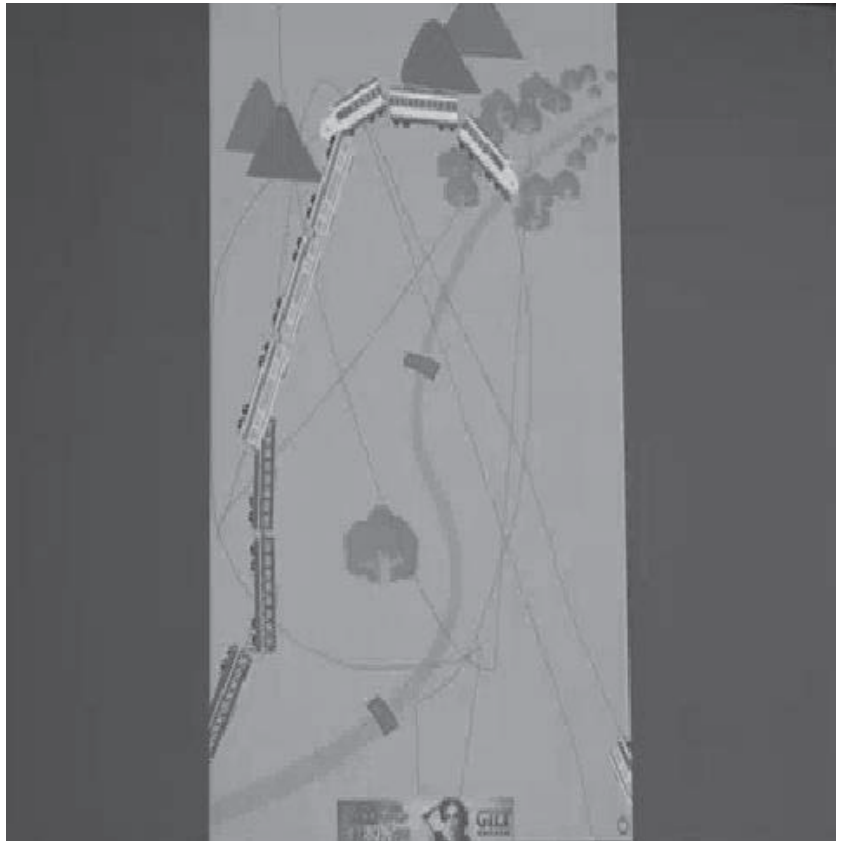
- ☑ 画面が大きく見易い
- ☑ 処理能力が高い
- ☑ PCとの連携が容易
- ☑ タッチパネルを用いた直感的な操作性
- ☑ 持ち運びがらく
- ☑ 多数のアプリが用意され誰もが便利に楽しめる

「スマートフォン」を他製品に例えると

- | | |
|------------|----------|
| ☑ CDプレイヤー | ☑ デジカメ |
| ☑ DVDプレイヤー | ☑ ビデオカメラ |
| ☑ ゲーム機 | ☑ テレビ |
| ☑ カーナビ | ☑ ラジオ |
| ☑ 高性能目覚まし | ☑ 家計簿 |
| ☑ 書籍（辞書） | ☑ 電卓 |
| ☑ 地図 | ☑ 万歩計 |

- ・ これら機能を1つの小さな機器で実現！
- ・ アプリの拡張で常に利用者好みの端末に！！

実演-1 引いた線の上を列車が走る



実演-2 指定した日の星座をみる



向けた方位の星座が見れる



参加者も直接触れて体験



実演-3 スーパーの売り出しチラシをチェックする



実演-4 漢字の書き方を練習する

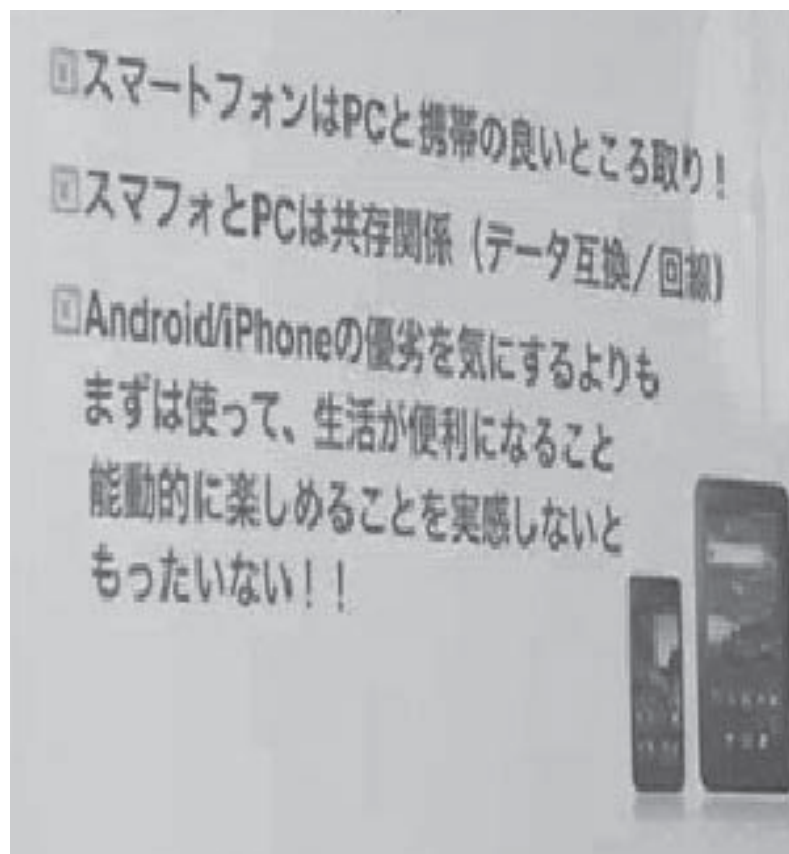


実演-5 フォーラムの会場を録画する



※この他にも様々な実演が行なわれた。

結論



■ 特別報告(パネルディスカッション)

「シニアネット東日本大震災復興支援委員会活動報告」

■ 報告者

佐々木敏夫 氏 NPO 法人 あびこ・シニア・ライフ・ネット 理事長

■ 司会

秋元五郎 氏 NPO 法人 あびこ・シニア・ライフ・ネット 活動会員

■ 被災地団体からの報告

大久保勇作 氏(シニアネットリアス・高田 顧問)

及川 純 氏(シニアネットリアス大船渡 代表)

福島和男 氏(e-ネット・リアス 理事長)

■ 被災地「福島市の仮設住宅」と Skype で結んで

日本マイクロソフト株式会社 技術統括室 大島友子 氏



報告する佐々木氏

昨年の3月11日に東日本大震災が発生し、先月1月31日現在で死者約15,900名、行方不明者3,300名、避難者約34万人、建物の損壊約60,000棟、其の上に過去に経験のない原子力発電所の爆発による、復旧の見通しも立たない放射能汚染被害と未曾有の被害が発生しました

私達の活動拠点、我孫子市も地震による液状化現象で家屋の全壊134戸、大小規模損壊740戸、放射能汚染ホットスポットで、ライフラインの復旧また除染作業で、行政も多忙な活動を進めていますが、思うように進んでいないのが現実のようです。

佐々木敏夫 氏

プロフィール

1933年生まれ。65歳で企業を退職し、生涯現役でPPKを目指し平成14年任意団体あびこ・シニア・ライフ・ネットを友人5名で設立。千葉県我孫子市内で活動を展開。平成17年にNPO法人に機構改革し現在に至っている。

活動会員43名、利用会員460世帯に成長。高齢者・障害者を対象にした活動を行っている。シニア情報生活アドバイザー養成講座を4年前に開始した。

その他NECシニアITサポーター養成講座、マイクロソフト認定パソコン教室を開講している。パソコン及び携帯電話の利活用サポート活動並びに便利屋活動、防犯防災対策活動により、安心安全で暮らせるまちづくりをすすめている。

この様な折、私達団体として何かで来る事とは、会員間に募金の呼びかけ会員の事業所に募金箱設置、些少な金額ですが、我孫子市の復興支援に寄付をしました。

シニアネット東日本大震災復興支援委員会 活動報告

ICTで被災地のシニア仲間と こころを繋ぎ、支援しよう



また当会所属のシニア情報生活アドバイザー有志が、東日本被災者への復興支援として、我孫子市にて「災害時掲示板サービス講習会」を開き、その受講料を被災地に送りました。

これらの私達の支援活動は小さなものですが、全国の私達の仲間、シニア情報生活アドバイザー約4千名の方々に呼びかけ協力が得られれば大きな力になると同時に、私達、シニア情報生活アドバイザーの存在を認めて頂けるのではと、ニューメディア開発協会に話を持ち込みましたところ、岡部理事長の発案で「シニアネット東日本復興支援委員会を設置していただけるようになり、関東地域の方々に呼びかけをしていただき私達を含め6団体の参加、復興支援会議を何回か開催しました。

その際の意見として、事務局の川村部長の東日本地方のシニア情報生活アドバイザーの団体を訪問し実情調査をお願いし支援の方法等を見極めていただきました。

その結果パソコン等の支援要求が有り寄贈の実現を進めていただき、一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA）始め数団体の協力得て東北地方の活動団体に機器の寄贈が実現しました。

また（株）日本マイクロソフト様の協力をいただき、シニアネット東日本震災支援委員会、日本マイクロソフト殿、一般財団法人ニューメディア開発協会3団体の支援事業として、東日本被災地でのパソコン教室の開設が昨年末より実現しました。

小さな私達団体の動きがこの様な形で実現できましたこと、感謝しています。

これまでに支援いただいた団体、企業

- NPO法人 湘南ふじさわシニアネット (敬称略)
- NPO法人 自立化支援ネットワーク
- NPO法人 ITみらい塾ぶらっと三茶
- NPO法人 シニアSOHO普及サロン・三鷹
- NPO法人 イー・エルダー
- NPO法人 シニアSOHO横浜
- NPO法人 あびこ・シニア・ライフ・ネット

- 一般社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA)
- 日本マイクロソフト株式会社
- 一般財団法人 ニューメディア開発協会

現在、被災地でのパソコン教育として、岩手県の陸前高田市、大船渡市、釜石市、宮城県登米市、福島市の5箇所の仮設住宅等におきまして実施中です。

特別報告では、その中で特に岩手県のEネット・リアス（釜石）、シニアネット・陸前高田、シニアネット・大船渡より3名の代表者にご出席いただき、御挨拶を賜りました。

御三方には、翌日のワークショップ「シニアネットと復興支援」に、出席いただき、被災の状況および復興活動の現状を報告いただきました。

また、さらに福島市の仮設住宅において現在教育を実施中の殿と日本マイクロソフトの大島さんがスカイプで会場と結んで御挨拶いただきました。



各被災地での取り組みを報告する各代表



司会を担当した秋元氏



e-ネット・リアス 福島和男 氏



シニアネットリアス・高田 大久保勇作 氏



シニアネットリアス大船渡 及川 純 氏

S k i p eで会場と結んで特別参加



福島シニアネット 阿部 氏



日本マイクロソフト株式会社 大島友子 氏

■ワークショップ 1

「ICTでシニアを助ける」

コメンテーター: 澤岡 詩野 氏(公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団主任研究員)

コメンテーター: 森 やす子 氏(株式会社情報環境デザイン研究所)

専務取締役 主席研究員)

司 会: 筑摩 孝雄 氏(ニッポン・アクティヴライフ・クラブ ナルク東京拠点
代表、シニア社会学会理事)

記 録: 瀧澤 ちはる 氏(シニア SOHO 三鷹会員、キャリアカウンセラー)

コメンテーター: 森 やす子 氏 プロフィール

2000 年から高齢者への情報支援を行なう資格の養成にかかわり、高齢者への情報提供のあり方や、中高年の社会参加について調査研究を始める。その後、インターネット利用と高齢者の生活について研究を深めるため、職業を持ちながら大学院に入学(現在、博士課程在学中)。

高齢になっても、ICT を利用して知り合いとの今までの交流を維持できるよう、「高齢者コミュニケーション支援サービス(VoViT)」を開発。ICT の操作と地域との関係を手助けするサポーターの存在はこのサービスの特徴であり、シニア社会学会としてサポーター養成に取り組んでいる。

*コメンテーターの澤岡 詩野氏のプロフィールについては、先進事例研究1の欄をご覧ください

課題提起: 森 やす子 氏

ICT はアクティブシニアの積極的な社会参加を促進したり、高齢期の生活をサポートしたり、加齢に伴う機能低下を補完したり、要介護・要支援になってもコミュニケーション手段と自己決定手段を確保するなど、様々な側面で高齢期の生活を支えるものである、とされています(平成 22 年版情報通信白書)。

しかし、高齢者のインターネット利用率は低く、また、ICT を使わない理由として「使うのが難しい、使う理由がない」ということが挙げられています。

そこで、簡単な操作で ICT が利用でき、コミュニケーションによる周囲との関係の維持や、買い物機能による日常生活をサポートするというサービス「高齢者コミュニケーション支援サービス(VoViT)」を開発しました。これは、団塊の世代を中心とするアクティブシニアがサポーターとなり、ICT の利用方法や社会参加の促進をサポートするところが特徴です。

社会実験を経て実社会での運用に進めるにあたり、サポートのあり方、継続的にサービスを維持させるための仕組みが課題として考えられます。これらのことを会場の皆様と考えたいと思います。

概 要

司会の筑摩氏の開始挨拶に始まり、参加者23名の自己紹介。

1. コメンテーター森やす子氏から課題提起「VoViT を事例として」

一体型タッチパネル式のPCのシステムを開発。高齢化の進展の中でICTは高齢者の生活を支えると言われているが、高齢者のインターネット利用率は低い。その理由として、使うのが難しいということもあげられるが、これは排除できるのではないかと考え高齢者支援コミュニケーション支援サービス=VoViTを考えた。これは助成対象事業として中高年のサポーターというもの、この人たちが助けてあげようという形を一体としたサービスとして構築した。これはサポーターありきということで、シニアがシニアを助けるということを考えて作った。

VoViTの説明、サポーターの役割などの説明があり、社会実験事例として愛媛県内子町の紹介があった。

VoViT
シニアネットフォーラム21 in 東京2012
ワークショップ
ICTでシニアを助ける
2012/2/17
株式会社情報環境デザイン研究所 専務取締役 首席研究員
森 やす子

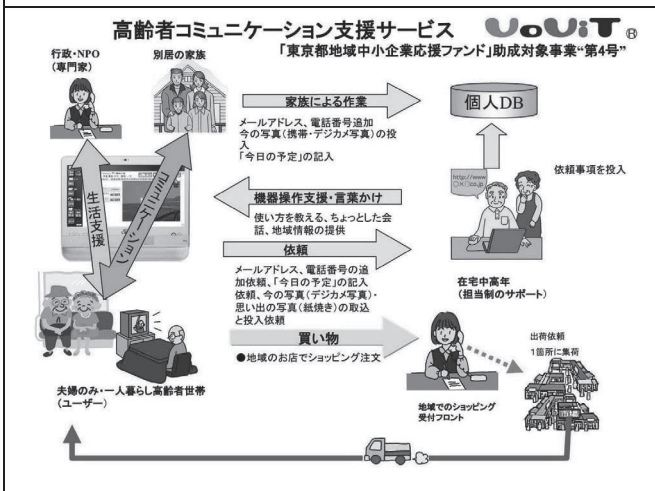
VoViT 一体型タッチパネルPCでのシステム

- 高齢化の進展の中でICTは、様々な側面で高齢期の生活を支えるものである、と言われている
 - しかし、高齢者のインターネット利用率は低い
 - その理由:「使うのが難しい、使う理由がない」

↓

- 使わない理由(使うのが難しい)を排除
 - ハード: 使い慣れた家電製品のような形
 - ソフト: 画面表示の変化速度が、速すぎず・遅すぎず 使い方を学習しなくていいもの

キーボードもマウスもいらないタッチパネルPCを使ったサービス



VoViT キーボードもマウスもいらない 人に優しく使いやすいコミュニケーションサービス VoViTの特徴

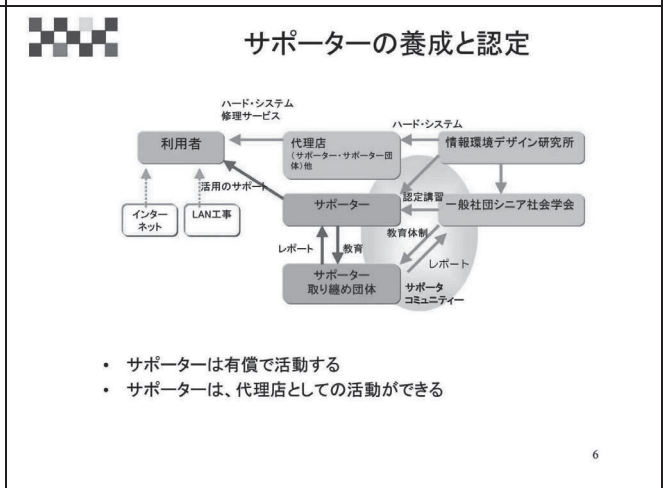
- 本サービスは、コミュニケーションシステムと高齢者個別に対応するサポーター(中高年者)の連携である点が特徴であり、サポーターによるサポートを前提としてシステムを構築している。
 - サポーターの養成とサポーター団体の統括は(社)シニア社会学会が行う
- 「使うのが難しい・大変そう」という心配への対応
 - 個別のサポーター(アクティブシニア)が、操作の相談、Skype名やメールアドレスの設定や管理、画像のアップロードといったサポートを行う
 - サポーターが「今日の予定」として日常の連絡事項を書き込む
- 高齢者の地域社会への参加の手助けを行い「使う理由」を作る

VoViT で実現したこと

- マウスやキーボードを使わず、タッチパネルからのボタン操作や手書き文字による簡単なインターフェイスで次のメニューを提供している。

- コミュニケーションサービス: 手書きメール(タッチパネルに書いた手書きメールをイメージで送信)、テレビ電話(Skypeのカスタマイズ)
- 安心生活支援サービス: 「今日の予定」に書き込まれた連絡事項を指定した時間に読み上げ、応答を確認して返信
- アクティビティサービス: 手書きメモ(タッチパネル上で日記や絵手紙を書いて保存)、自分史
- 情報収集支援サービス: 自治体ニュース(自治体からのRSS情報表示)、天気予報

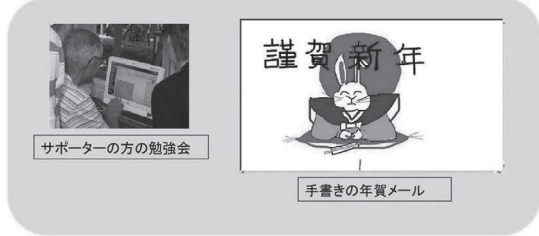
- サービス提供は地域あるいはグループ単位
- 画面の白い部分は、ブラウザなので地域あるいはグループ単位にカスタマイズ可能





シニア社会学会による社会実験

- 平成22年度 福祉医療機構(WAM)助成事業
「ICTによる高齢者の孤立防止の試み」
- 東京都江戸川区清新町にある葛西クリーンタウンの清新北ハイツで実施
- 平成22年11月21日から平成24年1月31日



7



サポーター養成と体験利用

- シニア社会学会によるサポーター養成事業
平成23年度福祉医療機構助成事業「ICTによる高齢者孤立防止モデル普及事業」
- 大阪・三鷹・北見で60名のサポーターを養成
- 45台のVoViTを使って各地で高齢者に体験利用を実施



東京多摩地区の高層団地に住む80歳女性Kさん。車いすで独居であるが、元気に過ごしている。
訪問医療の医師Tさんの紹介で、VoViTを利用していただいた。
タッチパネルを押し指の力が足りないので、タッチペンをういてタッチする。



東京多摩地区で自宅を高齢者用の「居場所」に開放しているTさん。
VoViTもその居場所ですって行こうと考え中とのこと。

堀池喜一郎氏(シニア社会学会理事)ブログより

8



愛媛県内子町

「医商連携」買い物弱者支援モデル構築事業

あきない通信 No. 10

発行・編集：内子町商工会
商工会だより編集委員会
会費 658円 H23.10.1現在
内子地区 353名
五十崎地区 164名
小田地区 141名

本所
〒791-2201 内子町内子1902
TEL:0892-44-2146 FAX:44-6506

五十崎支所
〒791-0201 内子町五十崎甲1108
TEL:0892-52-2160 FAX:52-4194

小田支所
〒791-0201 内子町小田1081
TEL:0892-52-2141 FAX:52-3256

大瀬地区・小田地区全世帯に 買い物環境等に関するアンケート調査を実施!

医療機関、福祉・介護施設、内子町地域医療・健康増進センター等と連携し、安否確認を含めた高齢者専用移動コンビニ事業をはじめとする試験的実践活動で、内子町中山間地域の瀬田地区・小田地区における買い物弱者(高齢者、障害者等)を支援し、一人ひとりの健康と安心・安全を支えるビジネスモデルを構築します。

- 【基本方針】
- ★「うちこ買い物弱者支援委員会」の設置
 - ★買い物環境等に関するアンケート調査
内子町大瀬地区・小田地区を対象にした「買い物環境等に関するアンケート調査」内容の検討・結果分析・研究
 - ★支援モデル事業の構築
 - 委員会において買い物弱者支援事業の方向性を検討
 - 先遣地調査研究
「安心・安全見守り台帳」による見守り 他
 - 高齢者コミュニケーション支援システムの開発・構築
安心生活支援サービス：安否確認や商品・サービス受発信システム
 - 高齢者の安否確認情報の履歴化・データベース化し、行政・医療機関等と共有出来る「安心・安全見守り台帳」を作成
 - 高齢者移動コンビニの共同配送システムの構築
 - 商店街等での買い物の楽しさを味わえる仕掛け、高齢者とのコミュニケーションの場づくり



買い物弱者支援委員会では高齢者の安否確認や商品・サービス受発信の仕組みが検討されている。

医商連携「買い物弱者支援モデル構築事業」開始まる!

13



愛媛県内子町での利用事例

- 愛媛県内子町の「ささえ愛らんど内子」(平成23年度)
 - 内子町商工会が30台を導入
 - 内子町でも中山間地に当たる地域で利用
- 通常のサービスに買い物支援・緊急通報を加えて導入
- サポートは地域のシニア情報生活アドバイザー・NPO法人凧ネットが担当



12



実運用に向けての課題

- サポーターのあり方
 - サポーターの資質(技術に強い・人と関わることが得意)
 - 額は少なくとも有償で、代理店になってCB化を目指す
- 継続的なサービス維持
 - 初期費用(ハードとシステム)は助成金等でまかなっても、自力でランニングできる仕組みが必要

13



ご清聴ありがとうございました。

<http://www.vovit.jp>

14

2. コメンテーター澤岡詩野氏から「高齢期の活動」

活動の場として居場所という言い方をすると、個々の価値観が最も反映される家庭、職場に続く「第三の居場所」創りや維持が大きな課題である。また、人生は支援する側、支援される側どちらにもなるというバランスで生きている中で、ICTが武器になるのではないかと思う。森さんの紹介された事業のサポーターに照らし合わせると、前期高齢期はサポーターとしての活動のきっかけとしてのICT活用といえる。後期高齢期では、自分を最後までプロデュースするための武器としてのICTをいかに役立ててあげるかがサポーターの関わり方だと思う。この、サポーターにはテクニカル部分とコミュニケーションを促進する部分の役割が求められ、後者については、見守られる側のニーズをいかに組み上げるかが重要と思われる。

3. 質疑応答

参加者1. ①事業者など縦割りを解決して欲しい。②シニアの第三の居場所でサポートする側も考えていかなければならない必要がある。

参加者2. ①サポートする側とされる側に入っていないネットワークから外れている人たちをどうしたらよいか。②地域のコミュニケーションをICTを活用してやったらどうかのヒントが欲しい。

参加者3. ①サポーターのもらえる費用は？②一地域に限定されるのか？

参加者4. ①サポーターとサポートされる側の環境を作る。②遠隔でもサポート出来る仕組みはどうか？若い年代でもボランティアしたい人がいるので使って欲しい。

参加者5. 地域に限定しないネットワークを作っているがお金の問題がある。ボランティアでは続かないので打開策が欲しい。

参加者6. 実際の費用を知りたい。

参加者7. サポートとコミュニケーションのバランス、いいキャラクターが育てられるのか参考を教えて欲しい。

参加者8. 生きがいを持つにはどうしたらよいか？

コメンテーターの澤岡氏、森氏からそれぞれ質問に対する回答があり、サポーター養成講座を担当した堀池喜一郎氏から講座についてと、サポーター実習について体験されたことの話がありました。

以上で、ワークショップは終了致しました。

ワークショップ報告

発表者：森 やす子 氏



 <p style="text-align: center;">シニアネットフォーラム21 in 東京2012 ワークショップ ICTでシニアを助ける</p> <p style="text-align: center;">2012/2/17</p>	 <p style="text-align: center;">ワークショップ概要</p> <ul style="list-style-type: none"> • コメンテータ: 澤岡・森 • 司会: 筑摩 • 書記: 瀧澤 • 参加者数: 23名 <p style="text-align: right;">2</p>
<p style="text-align: center;">高齢者コミュニケーション支援サービス</p>  <p style="text-align: center;">夫種のみ一人暮らし高齢者世帯 (ユーザー)</p>	 <p style="text-align: center;">サポーター養成と体験利用</p> <ul style="list-style-type: none"> • シニア社会学会によるサポーター養成事業 平成23年度福祉医療機構助成事業「ICTによる高齢者孤立防止モデル普及事業」 • 大阪・三塚・北見で60名のサポーターを養成 <ul style="list-style-type: none"> - 45台のVoVITを使って各地で高齢者に体験利用を実施 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <p>東京多摩地区の高層団地に住む80歳女性Kさん。車いすで独居であるが、元気に過ごしている。訪問医療の医師Tさんの紹介で、VoVITを利用していただいた。</p> <p>タッチパネルを押す指の力が足りないので、タッチペンを置いてタッチする。</p> </div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <p>東京多摩地区で自宅を高齢者用の「居場所」に開放しているTさん。</p> <p>VoVITもその居場所で使って行こうと考え中とのこと。</p> <p style="font-size: small;">道地第一部長(シニア社会学会理事)ブログより</p> </div> <p style="text-align: right;">4</p>
 <p style="text-align: center;">愛媛県内子町での利用事例</p> <ul style="list-style-type: none"> • 愛媛県内子町の「ささえ愛らんど内子」(平成23年度) <ul style="list-style-type: none"> - 内子町商工会が30台を導入 - 内子町でも中山間地に当たる地域で利用 • 通常のサービスに買い物支援・緊急通報を加えて導入 • サポートは地域のシニア情報生活アドバイザー・NPO法人鳳ネットが担当 <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;">  <p style="font-size: small;">「ささえ愛らんどサポーターのページ」(愛媛県喜多郡内子町)より</p> </div> <p style="text-align: right;">5</p>	 <p style="text-align: center;">実運用に向けての課題</p> <ul style="list-style-type: none"> • サポーターのあり方 <ul style="list-style-type: none"> - サポーターの資質(技術に強い・人と関わることが得意) - 額は少なくとも有償で、代理店になってCB化を目指す • 継続的なサービス維持 <ul style="list-style-type: none"> - 初期費用(ハードとシステム)は助成金等でまかなっても、自力でランニングできる仕組みが必要 <p style="text-align: right;">6</p>



サポーターへの関心

- 前期高齢者の活動としてのサポーター
 - セカンドステージの活動開始
 - 自分でICTを利用、コミュニケーションの構築
- 後期高齢者のICT利用
 - サードステージにおける身体機能低下
 - 自身の人生を最後までプロデュースするための武器

7



フロアからのコメント

- サポーターと利用者の関係
 - 支援する側とされる側という関係ではないのではないか
- 人とのネットワークに入ってこられない高齢者は
 - どうしたらいいかヒントがほしい
- 若い世代の参加
 - 遠隔地からでも、参加したいという気持ちはある
- テクニカルスキルとコミュニケーションスキルのバランス
 - 一人の人の中で両立可能か？
 - 得意分野を生かすのか？

8

■ワークショップ 2

「タブレットでシニアの情報生活を快適にする」

コメンテーター:山根 明 氏(NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹
「三鷹 iPad 研究会代表」)

コメンテーター:生部 圭助 氏(NPO法人自立化支援ネットワーク 理事長)

コメンテーター:佐藤 進 氏(アンドロイダー株式会社 エヴァンジェリスト)

特 別 参 加:山口 朋郎 氏((NTTドコモプロダクト 戦略担当課長)

進 行:原 道明 氏(NPO 法人すぎと SOHO クラブ)

記 録:小笠原 嘉彦 氏(NPO 法人すぎと SOHO クラブ)

コメンテーター:生部 圭助 氏 プロフィール

NPO法人自立化支援ネットワーク 理事長

1940年 佐賀県小城市生まれ

2001年 建設業を定年退職

2001年 NPO自立化支援ネットワーク(IDN)へ入会

シニア情報生活アドバイザー講座を中心に活動

2003年 12月にIDNの理事に就任

2006年 10月にIDNの理事長に就任し、今日に至る

その間、下記の活動を行う

シニア情報生活アドバイザー講座のコーディネーター、アドバイザーの交流のための「IDNアドバイザーフォーラム」の企画・運営、アドバイザーのスキルアップのためのセミナーを企画し実施、四谷ひろばパソコン教室の立ち上げ、ニューメディア開発協会でメロウ・マイスターとして活動、SNF21の企画・運営の業務でニューメディア開発協会に協力

*コメンテーターの山根 明氏のプロフィールについては、先進事例研究2、佐藤 進氏のプロフィールについては、先進事例研究3の欄をご覧ください

課題提起:生部 圭助 氏

この10年間、シニア情報生活アドバイザーはパソコンとインターネットやメールに対してアドバイスができることを旨としてきた。

最近では、新しい情報端末や、新しいサービスが登場してきている。アドバイザーもこのような新技術やサービスにも対応することが必要との認識のもとに、自立化支援ネットワーク(IDN)では、いくつかの施策を行ってきた。

ワークショップにおいては、IDNで実施してきたことの概要について説明し、参加者との討議をとおして、今後のこの分野に対するシニアネットやアドバイザーのあり方について方向性を見出したい。

概 要

フォーラム 2 は大盛況で定員を上回る参加者がありました。

初めに、佐藤氏からスマートフォンは、単体で通話、通信が可能で処理能力が高く、アプリを用

いた拡張性が高いうえに、持ち運びが楽で利便性が高く、今後は、携帯電話を凌ぐ可能性があることのお話がありました。

山口氏からは、企業としてタブレット教室を開いて機能や利便性の啓蒙に努めていることの発表がありました。

山根氏からは、タブレット講座開催にあたっては、集客方法の研究や会場及びネット回線の確保、経費の捻出などの課題が山積していて、行政や企業などからの支援が必要であること、ソーシャルネットワークを活用して、研究会同士の情報交換を密にして、イベントの共催や機材の共同活用等の方策を試行錯誤していくことが肝要であることのお話がありました。


生部氏からは、タブレット購入にあたって、いつ、どんな機種を買ったら良いか、PCとの違い等、ユーザーの疑問に応える伝達法を考える必要があること、またシニア情報生活アドバイザーは、時代の大きな流れの中で、PCだけでなく新しい技術やサービスを伝えていくことが肝要で、世の中の動きをよく見て、カリキュラムの研究などを進めていかなければならないと同時に、より新しい物への研究をして、世の中に発信していく必要性を述べられました。

テーマ2のまとめとしては、シニアはタブレットに高い関心を持っていること。タブレットの普及には、通信インフラ整備が必要で、社会的ツールとして使えるようにすること。

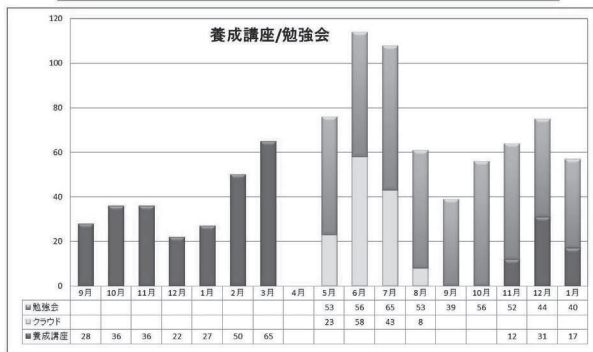
タブレット講座の集客には、知恵を絞って研究工夫が必要であること。

時代が大きく変化する中で、シニア情報生活アドバイザーの更なる研鑽が必要であることが強調されました。

山根 コメンテーターの課題提起資料

<p>ワークショップ</p> <p>タブレットでシニアの 情報生活を快適にする</p> <hr/> <p>2012年2月17日 NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 三鷹iPad研究会 山根 明</p> <p>1</p>	<p>三鷹iPad研究会はなぜiPad?</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● ハード・OS・アプリをApple一社が管理 ● セキュリティー面で比較的安全 ● 多機種を用意 勉強できない <p>2</p>
<p>三鷹iPad研究会の活動テーマ</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年はiPadの楽しさを紹介 ● 今年はiPadで人や地域とつながる楽しさを紹介 <p>3</p>	<p>昨年の問題点 講師①</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ● iPad講師(サポーター)勉強会 ● シニアiPadサポーター養成講座  <p>4</p>

昨年の問題点 講師②



5

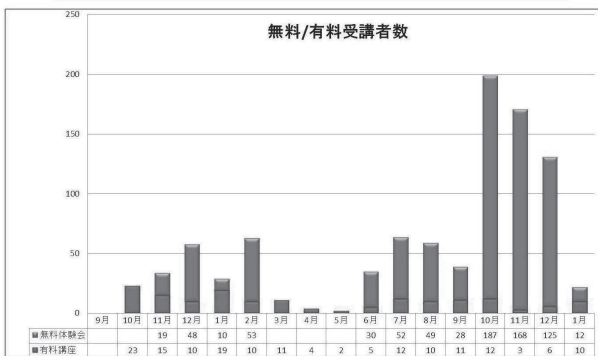
昨年の問題点 集客①

- シニア向けiPad有料講座
- シニア向けiPad無料体験会



6

昨年の問題点 集客②



7

昨年の問題点 会場・ネット環境

- 会場の確保
- インターネット回線の環境づくり



8

昨年の問題点 経費

- 集客の経費
- 講習会・研究会経費
- iPadとネット回線費用

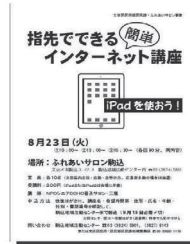


内閣府地域社会雇用創造事業交付金事業
第1回みたかソーシャル&コミュニティ
ビジネスプランコンペティション2011「優秀賞」

9

昨年の問題点 スポンサー

- 自治体(文京区 調布市 三鷹市 横浜市港北区)
- 薬品・食品などの企業 (エーザイ・公営社)



10

今年予想される問題点

- iPad無料体験会のスポンサー獲得
- スポンサーと受講者獲得の情報発信
- iPad 2 → iPad 3? と場所の確保

11

シニアはあなたのサポートを...

- PCにまだまだ依存するiPad
- PCがあればあなたは十分ですが...
- PCに強いあなたの出番です

12

研究会のソーシャルネットワークを

- | | |
|-----------|---------------|
| 今年 | 来年 |
| ● 情報交換 | ● 事務局確立 |
| ● 勉強会の共催 | ● ソーシャルネットワーク |
| ● イベントの共催 | ● 機材の共同借用 |

13

ご清聴 ありがとうございます



三鷹iPad研究会ではiPad無料講習会の開催や講師派遣を受付中
 「三鷹iPad研究会」 ← 「検索」
 「ようこそ山根のサロンに」 ← 「検索」

14

生部 コメンテーターの課題提起資料

タブレットで シニアの情報生活を快適にする

2月特別講座 日曜午後コース

iPad2を体験しよう

2月25日(日)午後1時～3時

会場：三鷹市立中央図書館 3階 研修室

講師：生部圭助

参加費：無料

定員：20名(先着順)

申込：2月15日(水)まで

申込先：三鷹市立中央図書館 3階 研修室

申込電話：0422-25-1111

申込メール：info@sanryu-shi.jp

申込URL：http://www.sanryu-shi.jp

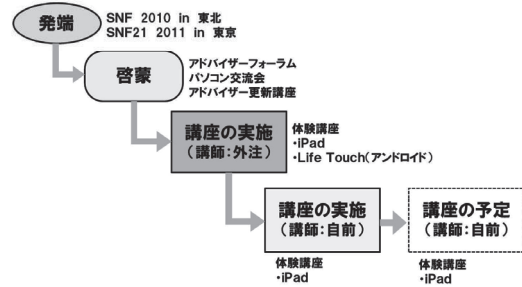
IDN
NPO自立化支援ネットワーク
理事長 生部圭助

SNF21 2012 in 東京 FEB. 17



スマートパッド体験講座の実施

イベントとセミナーの実施:2011-2012



IDN-23

具体的な実施状況については
当日お話しします

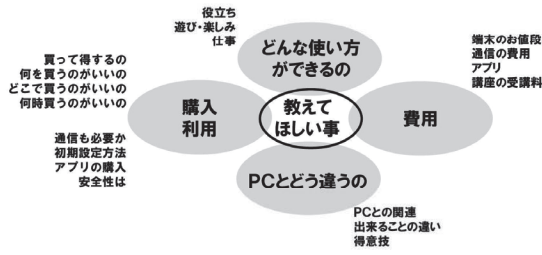
スマートパッド体験講座の実施

イベントとセミナーの実施:2011-2012

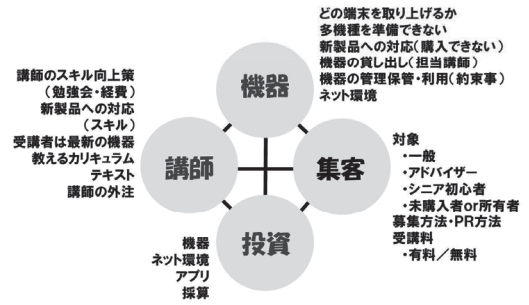
NO	実施日	回数	講座名	機種	講師	参加者	備考
01	110417	1	PC交流会	iPad	IDN	AD20	SNSも同時に
02	110417	2	更新講座		IDN	AD37	新情報端末
03	110731	1	PC交流会	iPad	IDN	AD20	
04	110618	1	体験講座 1	Life Touch	外部	AD20	(株)エル・アレンジ
05	110710	1	体験講座 2	Life Touch	外部	AD19	(株)エル・アレンジ
06	111128	4	体験講座 3	Life Touch iPad	外部 (IDN)	14	(株)エル・アレンジ IDN(アシスタント)
07	120116	2	体験講座 4	iPad	IDN	10	
08	120201	2	体験講座 5	iPad	IDN	6	
09	120203	4	体験講座 6	iPad	IDN	6	ゲームを楽しむ
10	120205	2	体験講座 7	iPad	IDN	7	
11	120215	2	体験講座 8	iPad	IDN	6	
12	120304	2	体験講座 9	iPad	IDN	予6	
13	120403	4	体験講座 10	iPad	IDN	募集中	

IDN-24

ユーザーの疑問: 教えてほしい事



講座を実施するにあたって考えること



ワークショップ「テーマ2」での討論内容の発表

シニアネットフォーラム2012

タブレットでシニアの情報生活を快適にする



進行係：原 道明 (NPO法人すぎとSOHOクラブ)
記録係：小笠原 嘉彦 (NPO法人すぎとSOHOクラブ)

2012. 02. 17

コメンテーターの紹介

- 山根 明氏 (NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹「三鷹iPad研究会代表」)
- 生部 圭助氏 (NPO法人自立化支援ネットワーク理事長)
- 佐藤 進氏 (アンドロイダー株式会社 エヴァンジェリスト)
- 山口 朋郎 (株式会社NTTドコモプロダクト戦略担当課長)

パネラー ソロプレゼンテーション

• 佐藤 進 コメンテーター

タブレットはPCと携帯電話の間に存在する
スマートホーンは小さいが、PCとほぼ同じ使い
勝手となる、通信事業者のインフラの整備でさら
に進化する



パネラー ソロプレゼンテーション

• 山口 朋郎 コメンテーター

「さわって楽しい、タブレット教室」を開催している
タブレットの基本機能を習得する
ドコモタブレットの「3つの安心」・安心安全なアプ
リを用意している・選べる豊富なラインナップ・定
額料金制で安心



パネラー ソロプレゼンテーション

• 生部 圭助 コメンテーター

i P a d 普及活動する上での問題点

スマートパッド体験講座の実施とフォロー
シニアアドバイザー向けの講座 ・アウトドア活動
ユーザーの疑問：
購入理由、どんな使い方ができるか、PCとどう違う
のか ・パソコンだけでなく、時代の流れの中で新し
いものを、多くの人に伝えていくこともアドバイザー
の役目である



パネラー ソロプレゼンテーション

• 山根 明 コメンテーター

三鷹iPad研究会はなぜiPad?

ハード・OS・アプリをApple社が管理していて安定感があり
セキュリティ面で比較的安全
・昨年はiPadの楽しさを紹介 ・今年はiPadで人や地域とのつ
ながる楽しさを紹介していきたい
昨年の問題点、人・物・金の問題が避けられない、会場の確保
が難しい インターネットの環境づくりが難しい
有料講座と無料講座による集客の違い
行政からの援助：文京区がチラシを作って配布してくれた
今年予想される問題点、特にスポンサー獲得が必要となる
研究会同志でソーシャルネットワークで情報交換



パネルディスカッション

- モデレーター： 佐藤 進
 - パネラー： 山根 明、生部 圭助、山口 朋郎
- 製品開発の問題点：画面が大きくなるほど持ち運びが
不便、アプリケーションは日ごろ使いやすいものを
使い易くする、i P a d の講座：人の集客が難しい
受講生の感想：パソコンに比べて簡単すぎるという意
見もあり、買い物難民の人たちのためのネットショッ
ピングに必要なツールである
シニアにアピールするためには生活に密着したアプリ
が必要である

「テーマ2」まとめ

- タブレットの指導などはアドバイザーに参加する
機会を与えて力を持てるようにする
- iPadは、あれもこれもできるということは良くな
い ・社会的ツールとして使えるように普及させ
ていくことが大切である
- シニアの人が何を求めているかを知ることが大切
である
- パソコンを使ってない人にiPadを使ってほしい
- 日常生活に密着したものにしてほしい
- シニアはタブレットに非常に興味を持っている

■ワークショップ 3

「事業型シニアネットのマネージメント」

コメンテーター:鈴木 政孝 氏(NPO法人イー・エルダー 理事長)

コメンテーター:荒川 恒昭 氏(NPO法人栃木県シニアセンター 代表理事)

進 行:富樫 和子 氏(NPO 法人すぎと SOHO クラブ)

記 録:増田 千枝子 氏(NPO 法人すぎと SOHO クラブ)

コメンテーター:鈴木 政孝 氏 プロフィール

1940年、東京生まれ。71歳。

NPO 法人イー・エルダー理事長、立教大学兼任講師。

事業型NPOの経営、ウェブアクセシビリティの普及・推進、ソーシャル・ビジネス(事業型NPOなど)の普及・啓発に奔走中。

シニア層に「社会的企業家を支援する番頭さん・旦那さん」を呼び掛けている。

コメンテーター:荒川 恒昭 氏 プロフィール

1998年高齢化の時代を迎え市民活動の必要性あると考えた時、アメリカ最大のNPO「AARP」の存在を知る。まずは、IT 社会の進展に伴う高齢者のデジタルデバイド(情報格差)の解消を目指して事業を展開。最初の事業は、企業、行政との三者協働で、企業は東日本 NTT、行政は1市6町になった。以降、行政との協働は各事業にて増え、栃木県とは、「NPO 起業コミュニティービジネス講座」が3年間にわたる協働となった。以降、「シニアの生きがいとまちづくり」をテーマに活動、シニア情報生活アドバイザー認定機関となるなど、シニアの活躍をする場をつくることに努力。また、ICTの進展に伴いインターネット安全教室も県内各地で開催、近年は情報セキュリティサポーター養成講座も開催している。また、栃木 CATV とは市民メディアで協働するなど先駆的な活動もした。現在 NPO 栃木県シニアセンター代表理事、NPO 栃木ライフサポート理事長、関東 ICT 推進 NPO 連絡協議会幹事

課題提起:鈴木 政孝 氏

慈善型や被災地のNPOを支援する「番頭さん、旦那さん Net」

昨年(2017)の3.11被災をきっかけに、夏の台風豪雨・冬の豪雪など想定外の災害を受け、日本は復旧復興、景気、財政、年金、医療、エネルギー、食糧、外交、少子高齢化などの問題・課題が一気に噴き出しました。

1月30日、国立社会保障・人口問題研究所が、「将来推計人口」を公表した。約50年後の日本は、総人口3割減の8674万人に。老年人口(65歳以上)は、約2948万人から2060年には約3464万人となり、5人に2人が高齢者に。一方、8173万人だった生産年齢人口(15-64歳)は、60年には4418万人に減少するとしている。

一昔前までは、生産年齢人口減少を女性・高齢者・外国人の活用、産業の高度化・効率化、ICT装備化でカバーすれば良いと言われてきた。しかし、日本の衰退の流れを止め、解決するために

はあらゆる手段を講じて、合わせ技で対応する以外に手はなさそうである。

欧米では、不景気に強いと言われている「第三セクター（非営利組織）」は GDP の約 8%、雇用創出で 12% も占めている。日本はどうか。2011 年末の認証 NPO 数は、44,291 団体ある。このうちで、3 年以上事業を継続できている団体数？、事務局職員の年収？、子どもを大学に進学できる程度の給与を支払っている団体数？。また、政府は一時期、「NPO 法人を新しい公共の担い手」と持て囃した。真に自立できている NPO は極少ない。ガバナンスも、マネジメントも不在と言わざるを得ない。

「高齢者に専門的な仕事を期待していない。愛嬌が一番」と主張する経営コンサルタントがいますが、何を言うかと一喝したい。高齢者人口の増加を背景に、高齢者の約 7 割が「働けるうちは働く」という就業意欲の高さと、豊富な知的社会資産（知識・経験・技術・知恵・意欲・人脈など）を持つ高齢者の出番である。60 歳、65 歳を超えても、たとえ 70 歳を超えても長年培った得意技や興味・目標のあるスキルは低下しない。むしろ、アイデアは頭脳を全開にすればどんどん泉のごとく湧き出てくる。50 年後には男性が 84.2 歳、女性が 90・9 歳と長寿化が進む見通しである。働くことで、健康を維持でき、ボケや介護とは無縁のメリットがある。

経済産業省は近年事業型 NPO 法人等のソーシャルビジネスを新しい産業政策に加えている。現状の NPO 法人はボランティア志向が強く、ソーシャルビジネスに仕立て直すのは困難を伴うが、知的社会資産を持つ高齢者が新たに参加して、欧米型の事業型・ソーシャルビジネスのマネジメントに変革できるのではないだろうか。

また、シニア層は一般にストック資産も年金も恵まれた存在である。所謂、「小金持ち」層もある。そこで、高齢者が中心となり慈善型 NPO 法人や被災地の NPO 法人を支援する「番頭さん、旦那さん Net」（仮称）の結成を提唱したい。

課題提起: 荒川 恒昭 氏

1999 年 NPO 法人化し、その後の 10 年目にシニア団体の課題の 2009 年問題が起きた。時間は経過したが、課題は解決がなされているのか。また、これから 2012 年を迎え新たな世代がたくさん誕生する。その時に迎える新たなステージを用意し活躍の場を提供しなければならない。今まで幾つかのネットワークを構築したがそれを活かしたかたちで運用できるのか。また、新たに新しい人たちが新たな組織やネットワークを作り、スムーズな活動の展開に発展するには何が必要か。事業継続の課題は何か。シニア世代の難しさも議論したい。

概要

参加者 12 名

① 10 時 10 分: 開会…富樫和子
コメンテーター紹介

② 10 時 20 分: 問題提起…鈴木政孝氏

『事業型マネジメントとは』

○シニアネットを事業型にする…企業と政府のコラボレーション

・営業機能⇒儲けるだけの企業にしない
(コミュニケーションをとること)

・ガバナンス⇒ニーズある企画、サポートするシステム(オープンにすること)

・マネジメント⇒成果主義の導入(健全経営)

・マーケティング⇒社会進出を目指すために効果的(NPO のバケットがある)

○シニアの得意技(知的社会的資産)…

シニアネットが連携して「社会事業起業家」「寄付金支援家」⇒「番頭さん旦那さんネット」の提唱。

③ 10時50分:参加者自己紹介及び質問意見

- ・ソーシャルビジネスについて。・地域との関係。・PC タブレットの使い方。
- ・個人でPC 教室運営…公民館等に広げるには。・設立10年目、黒字が出ている。
- ・森林資源活用BANK 事業型NPOを目指している。・公共概念を広めたい。・高齢者のグループホームの運営はどうすればよいか。・地方が強くなる方法。・公共事業のNPOとしての動きがない。・事業型を浸透させる様に持つていくには。・会費制にしたら「筋肉質が残った」。
- ・講習会を発展的にするには。・スキルの伝達はどうしたらよいか。・営業が難しい
- リサーチ→行政→話し合い(体験会等)
- ・地域の自立、社会参加。 等多数意見。

④ 11時50分:まとめ…荒川恒昭氏

『経営のキーワード』

創造的・革新的な事業としての責任の取り方→成果・納期⇒結果。

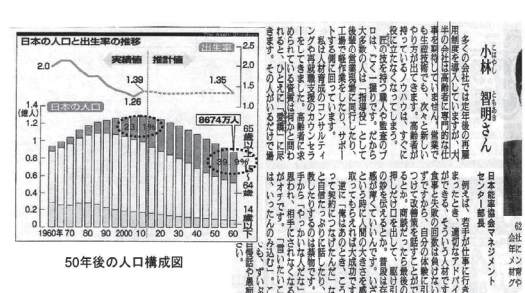
事業の展開性の確立は活動と継続させることが大事。会場の確保、広報の難しさは営利目的かと誤解されやすい。いかに事業を展開するかが大事な課題。

大きなテーマで2時間は難しい。それなりの意見が出た。

⑤ 12時00分:閉会…富樫和子

交流広場への参加伝達

鈴木 コメンテーターの課題提起資料

<p style="text-align: center;">課題提起</p> <p style="text-align: center;">事業型シニアネットのマネージメント (シニアネット≒NPO)</p> <p style="text-align: center;"><u>事業型NPOのマネジメント</u></p> <p style="text-align: center;">2012年2月17日</p> <p style="text-align: center;">鈴木政孝</p>	<p style="text-align: center;">最近、強いショックを受けた記事</p> 
<p style="text-align: center;">課題提起</p> <p style="text-align: center;">・シニアネットを事業型に変革させよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 欧米ではNPOが雇用の約12%、GDPの約8%を担う ⇒ 米国のSeniorNet、AARP(全米退職者協会)参考 ⇒ ボランティア思考、自治体頼りから脱却し、コミュニティビジネス化 ⇒ 武器(ICTスキル)を活用、資源探し、地域に戻る団塊世代を戦力に ⇒ ①事務局スタッフのプロ化 <ul style="list-style-type: none"> ・事業企画、事業展開、営業力、ボランティアの育、 ・ガバナンス、レビュー機能、管理、リスク管理 ⇒ ②シニアネット同士の連携(ネットワーク)化 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい事業のスケールアウト ・スキルや商品 (例えば、Webアクセシビリティ、特産品) ⇒ 政府は「NPO(実は事業型NPO)を新しい公共の担い手に」と ⇒ 経済産業省は、「ソーシャルビジネス(事業型NPOなど)を新しい産業政策に ⇒ 事業の継続性の確保、雇用の創出、経済活性化に寄与 	<p style="text-align: center;">課題提起</p> <p style="text-align: center;">・シニアの得意技(知的社会資産)生かそう</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 高齢者人口は23%、50年後には40%。プラス思考で考える ⇒ 高齢者の約80%は働けるうちは、働きたいという勤勉な国民性 ⇒ シニアが新しい市場の創造を促し、市場を支配できる ⇒ シニアは豊富に得意技を持つ、ICT活用でスキル・知恵も伸びる ⇒ 経験的にも、体力は衰えても、得意な分野のアイデアは湧き出る ※ 専門家は、脳の可塑性、雇用委縮と言うらしい ⇒ 自ら社会企業家、若しくは、「番頭さん」になって若者を支援する ※ 60歳以上の起業6.6% (日本政策金融公庫総合研究所) ⇒ 働くことで生活の張り、健康維持にも良い。ポケずにPPKが実現

課題提起

・高齢者は小金持ち。少額の寄付をしよう

- ⇒ 個人資産1,500兆円のうち60%が60歳以上の世帯
土地と借金は含まれていない。高齢者1人当り、3,000万円強の資産
- ⇒ 昨年6月15日に「新寄付税制」と「NPO法人」改正、(今年4月に施行)
※認定NPOは、現在243団体だが、飛躍的に伸びると想定
- ⇒ NPOへの寄付がし易くなったと思われる
- ⇒ 得意技が無い、地域活動が苦手という人は、せめて「旦那さん」になって
- ⇒ 社会企業家、被災地、地元のNPOを支援しよう

課題提起

最後に

・「番頭さん、旦那さんネット」の提唱

- ⇒ 全国のシニアネットが連携して
- ⇒ ITなど知的社会資産をお持ちの方は自ら「社会事業」を起業したり、番頭さんになって、社会企業家に豊富な得意技(知識・経験・技術・知恵・人脈など)で支援を行う
- ⇒ 得意技が無い、地域活動が苦手という人は、せめて「旦那さん」になって寄付金を出し、社会企業家、被災地、地元のNPOを支援する

提言の背景

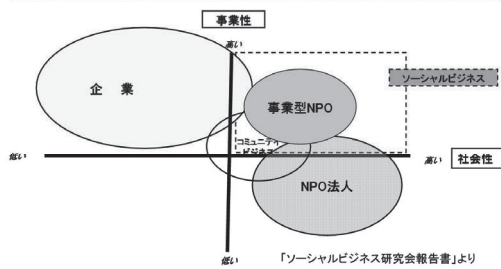
- ・ 1980年 パソコンの出現
- ワードプロ、計算機、通信 (一人3役)
- ・ 1992年 欧米の非営利組織の実態
- 山岸英雄氏 (現 法政大学教授)
- 岡部一明氏 (現 愛知東邦大学教授)
- ・ 2000年、2006年 日本のNPO法人の実態
- 設立3年後に休眠状態
- NPOの呪縛
- 団塊世代 (大山鳴動して鼠一匹)
- ・ 2012年 国立社会保障・人口問題研究所
- 50年後の「推計人口」
- ・ 20XX年 看過できない言動
- 2006年、基名人 (企業に吸い取られた骨と皮のガラだけの高齢者)
- 2012年、某コンサル(高齢者に仕事で期待していない。資質は変換)
- ・ シニアネットから自由に
- ・ 事業型NPO イー・エルダーの実績と成果

日本のNPO法人等の現状

- ・ 認証数は44,291団体、認定団体は243。
- ・ 呪縛
- NPOは儲け(利益)を挙げてはいけない
- 営業やマーケティングはする必要がない
- 崇高なボランティア精神で使命を果たすこと
- ・ 事業性、マネジメント、営業機能が脆弱
- 社会性に比べ、事業性・マネジメント力が無い
- 3年で、事業の継続が困難に
- 70%が休眠状態に

SBの定義

- ・ 社会的課題を解決するために、ビジネスの手法を用いて、取り組む事業体。
- ・ 組織形態として、株式会社、NPO法人、中間法人などが想定される。



事業型シニアネットのマネジメント

コメンテーター 鈴木 政孝・荒川 恒昭
進行 富樫 和子
書記 増田千枝子

非営利組織のミッションと
シニアに対する期待

本来のNPO法人に期待されている使命は、第一セクター（行政）、二セクター（企業）に比肩する事業体として、2つのセクターでは解決できない。
今日の・社会的問題や課題を解決し、継続的な事業活動を通して、新しい産業として経済の活性化や雇用の創出に寄与することにある。

- (1) 非営利機関は、人と社会の変革を目的、使命としている。
- (2) 非営利機関の製品は、変革された人間である。非営利機関は、人間変革機関といってよい。
- (3) 単にサービスを提供するだけではない。その最終利用者が単なる利用者ではなく、行為者となることである。

出展：「非営利組織の経営」(P. Drucker)

「事業型NPO」とは

	慈善型(伝統的)NPO	事業型NPO
活動	チャリティ	社会的事業(社会的サービス・財の提供)
体制	ボランティア・グループ	法人化、専門化
組織	官僚的、トップダウン組織	ネットワーク的、分権的組織
スタッフ(事務局)	ボランティア・スタッフ	プロのスタッフ
行動原理	博愛主義	効率性(市場競争、コア・コンピタンスへの意識)
志向対象	自組織志向	顧客志向
マーケティング活動	受動的、マーケティング意識はない	マーケティング努力(資源獲得、サービス提供において)
資金	寄付・会費中心	事業収益中心
企業・政府との関係	独立的	企業、政府とのコラボレーションの試み

資料出典：一橋大学大学院商学研究科教授 谷本寛治

事業型NPOの生命線

- 1) わかり易い理念・事業目的と、その愚直な遵守
- 2) 営業機能を持つこと・企画力をもつこと
- 3) ガバナンス
- 4) マネジメント
- 5) マーケティング
- 6) サービス
- 7) その他

本来のNPOの使命・役割

・行政と企業に比肩する第三のセクターとして、自立
・行政の失敗(限界)、企業の失敗(限界)の社会的な分野で、専門性を発揮。
・使命(成果)は、社会を変える、人を養える 変革者(チェンジ)
・ドロッカー一流：完治した患者、何かを学びとった学生、人生が変わった市民
・「行動を起こす市民、ボランティア」を増やすこと
・政治、行政、企業の監視役・政策提言・専門分野のパートナー
・地域経済の活性化、GDPと雇用の創出に寄与する(10%程度)
・理事は組織の方向性や経営資源獲得、事務局が業務執行。
・ボランティアを教育し、スキル化して、戦力として活用する
※現状は、役員も事務局も全てがボランティア・レベル。
※著名なNPOの某役員が、NPOの本質は「・・・に、無報酬性である」と

※ 他のNPO法人との違いを示すために、「事業型NPO」と表現した。

事業型NPOの生命線

- 1) 分かり易い理念と、理念の愚直な遵守

・NPO法人の一丁目一番地は、分かり易い理念を、自分たちの手で、短い言葉でつくること
・最上級の意思決定基準
・よい(分かり易い)理念に、ひともの・かね・情報が集まり、将来の争いや仲間割れが無い
・社会性と事業性の両立(良いこと遂行しながら、事業収益を確保)
・新しい情報が、次から次と集まり、相談を受けるようになる
・社会の評価や信頼は、組織の情報を公開することから。

事業型NPOの生命線

- 2) 営業・企画機能を持つこと

・専任の営業担当部署と人の配置(役員クラス)
・コンサルティングスキルのある営業経験者を配置
・理念に共鳴、成果報酬待遇の職員採用、役職名を自由(理事以外)
※製品やサービスが営業、マーケティングの機能を果たす仕組み

<p style="text-align: center;">事業型NPO</p> <p style="text-align: center;">ガバナンス</p> <p style="text-align: center;">① ガバナンスの意義</p> <p>・組織が理念や目標に基づいて、組織的に、定期的に運営されているかを監視 ・特定理事の独断専横、形骸・マンネリ化、不正、リスクに陥らぬように ・特に、代表者の責務・成果を厳しく、公正に評価。時に、交代を促す。 ・役員、会員の個性や自主性の尊重。</p> <p style="text-align: center;">② ガバナンスをサポートするシステム</p> <p>・役員構成と任期の検討 ・理事会の代用特性(会議体)を組織し、最低月1回は会議を開催。 ・理事会、代用会議体の議事録は会員に公開する ・役員と執行役の分離。フラット・ネットワーク組織をつくり、権限を分散 ・日頃から、異論・反論・少数意見を尊重・促す組織文化をつくる ・リスク(ワンマン、マンネリ、活力の維持、紛争)発生を前提とした体制 ・ナマズ?の効果</p>	<p style="text-align: center;">事業型NPO</p> <p style="text-align: center;">マネジメント</p> <p style="text-align: center;">③ 経営(予実)管理</p> <p>・年度収支計画(数値目標)の作成とPDCAの実践 ・月次経営会議の開催 ・四半期毎の事業連絡会開催(報告ではなく、問題解決会議) ・新規事業開発制度の設置(予算化) ・頭脳を全開し、次なる新しい事業の芽を常に視野に置く ・常勤職員に、十分な年収を支給(子息を大学に進学させられる程度) ・成果主義の導入を恐れず、検討する</p> <p style="text-align: center;">④ 収入計画</p> <p>・事業収入を66%以上、その他会費、寄付、補助金、支援金などをバランスよく ・66%を超える収益を1組織(企業、自治体など)集中を避ける ・購買・調達先やパートナーを複数化し、万が一のリスクに備える</p>
<p style="text-align: center;">事業型NPO</p> <p style="text-align: center;">マーケティング</p> <p style="text-align: center;">「企業が利益追求のために、製品やサービスの市場戦略を策定し、セールスマンが売りやすい環境をつくること」(幾つもの定義)</p> <p style="text-align: center;">NPOのマーケティング</p> <p>「社会的問題の解決を目指し、使命や資金・資材調達から提供する製品・サービスに対する顧客の信頼と支持を得て、効果的に寄付・会費・事業収入・イメージなどの向上を目指すこと」</p> <p style="text-align: center;">顧客との関係</p> <p>・専門性を武器に、コンサルタントか、パートナーとして折衝</p>	<p style="text-align: center;">事業型NPO</p> <p style="text-align: center;">マーケティングの2</p> <p style="text-align: center;">③ マーケティング志向の組織風土</p> <p>・NPOの顧客は4つ(ドロッカーは2つ) ⇒ 支援企業、最終顧客、サプライヤー、協働団体</p> <p>・全員で、顧客志向を徹底する(1円でもいただいたお客様を大切に) ・製品やサービスの最終顧客の満足度調査を徹底する ・ベンチマークや満足度調査を分析して、次の製品開発やサービスに絡込む ・支援企業とは、常に緊張関係(※)を保つ ・クレームは、アフター・マーケティングとして、大切な大きな情報源</p> <p style="text-align: center;">※ お客様と緊張関係を維持すること</p> <p>一 お客様の満足度は、時間の経過と環境の変化で確実に低下 一 常に、新しい情報・企画・提案の提示をし続ける 一 お客様のクレームには、再発防止策を治え、アフターマーケティングの機会 一 支援・協賛企業に、マスコミ等へのクレジット、実績と成果報告</p>
<p style="text-align: center;">事業型NPO</p> <p style="text-align: center;">マーケティングの3</p> <p style="text-align: center;">④ NPOの特性の活用</p> <p>一 非課税扱い、自主性・善意の会員、マスコミの好意的扱い...</p> <p style="text-align: center;">⑤ 顧客とともに</p> <p>一 ビックネームのお客様との取引を活用する(効果は非常に高い) 一 NPOがトップ企業との協働事例が少ないので効果がある 一 欧米のように、NPOの専門性を武器に企業との協働を組む 一 パートナー(仕入先、業務委託先、協業組織など)への見学会 一 最終顧客への取材と記事の掲載</p>	<p style="text-align: center;">事業型NPO</p> <p style="text-align: center;">その他</p> <p style="text-align: center;">① 製品・サービスの開発...企画力</p> <p>一日頃から、頭脳を全開にして、世の中の動きを見逃さない 一 現行の製品・サービスの中に、次のアイデアが隠されている 一 規制や独占的な市場、小さな市場、お客様の不満のある市場に挑戦 一 新規事業開発制度を整備し、予算化・PRしておく</p> <p style="text-align: center;">② 事業展開方針</p> <p>一 製品やサービスの開発に当たり、スケールアウトを視野に開発する 一 全国の理念、事業、思いの同じような組織(企業、団体、個人など)と協働 一 スケールアウト方式は、NPOにとって直営よりメリットが大きいと思われる 一 単独の組織では全国展開は難しく、他組織とのコラボレーションによる多様・多重機能を持つ社会システム(Win Win Winの関係)を仕組む</p>
<p style="text-align: center;">事業性の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 法人化の難しさ ■ 小規模事業体の信頼性 ■ ・規模の拡大するには ■ ・会場の確保・広報の難しさ ■ ・営利への誤解 非営利の事業理解 ■ ・事業の展開 ■ 従来の事業内容に変化を持たせて事業化 	<p style="text-align: center;">事業化の必要性</p> <p style="text-align: center;">事業を、活動を、継続させるため</p> <p style="text-align: center;">※経営とは、変化に対応すること</p>

■ワークショップ 4

「シニアネットの未来を拓く」

コメンテーター: 中島 康博 氏 (NPO法人すぎとSOHOクラブ 監事)

コメンテーター: 坂崎 誠一 氏 (熊本シニアネット 代表)

進 行: 清水 美子 氏 (NPO 法人すぎと SOHO クラブ)

記 録: 三輪 珠江 氏 (NPO 法人すぎと SOHO クラブ)

コメンテーター: 中島 康博 氏 プロフィール

1935年9月24日横浜生まれ

日系の建材企業から始まって、オランダ系、米国系、スウェーデン系など渡り歩き、仕事は、それぞれの会社のシステム、マーケティングシステムの構築、これと連動した新製品開発システムの構築でした。この間に、米国経営者協会の会員や在日米国商工会議所の会員など経験。リタイアする前の7年間は、日系企業の顧問をする傍ら、コンサルタントとして、地方公共団体、民間企業の管理システムについてのアドバイスをを行う。

2000年退職。2003年、現在の NPO 法人立ち上げ時に入会。この年に、埼玉県のいきがい大学(2年制)の学生の要望があり、同学園のウェブ・サイトを私個人所有の Linux サーバー2基のうち1基を使って立ちあげた。この時に役に立ったソフトは米国にいた時に知り合ったマイクロソフトの方々から推奨された FrontPage である。このソフトはグループの作業管理も同時に行えたため、この学園の毎年の入学者、卒業者も FrontPage(現在は SharePoint Designer)の研修を受けながら、運営に参加することが出来、学年別、卒業期別、サークル別に30件を超える独立したサイトで構成されるウェブ・システムとなっている。

現在、NPO の活動の中で、人間の集団を ICT で活性化するという、地味な裏方活動を楽しみながら続けている。現在の活動テーマは『まちづくり、ひとづくり、じぶんづくり』。

コメンテーター: 坂崎 誠一 氏 プロフィール

昭和 10 年熊本県生まれ、

同志社大学経済学部を卒業後、昭和 35 年 熊本市の「移動棚と金庫メーカー」の金剛株式会社入社、昭和 47 年 熊本リコー(株)設立により移籍、平成7年役員就任、平成10年退社後、金剛株式会社東京本社に役員として採用される。

平成13年2月 熊本シニアネットに入会、すでに在籍10年経過、平成22年に代表として指名を受け、今日に至っています。

平成21年には「シニアネット・フォーラム21in 九州」を熊本で開催しました。熊本県副知事、熊本市長の歓迎の挨拶をいただき、改めて熊本シニアネットの存在を高めました。シニアが変わる、地域が変わる、シニアの生きがい、シニアパワーを結集し、シニアネットの輪を広げようと参加者250人が声を一つにしました。

課題提起:中島 康博 氏

パソコンオタクのシニアはダサイと孫(大学生)の一言。ジイちゃんガツクリ

シニアネットの多くは、その生い立ちは、シニアの IT リテラシーの向上を目的としたもの (IT 関連講座) が中心であったと思います。

最近の活動状況をみると、生涯学習 (IT 関連が多い) や、趣味や興味を中心にした同好会、そして社会貢献などの活動などをうまく組み合わせて活動しているところが多くなったようです。

シニアがシニア同士で集まり楽しみながら連帯を深めていくという目的から言えば成功していると考えられます。

しかし、i-Pad を手にして、その直感的な使いやすさのため、小学校の 2 年生でも何の抵抗もなくインターネットやチャットを楽しんでいるのを見ると、今までシニア層と一緒に IT スキルを高めようとしてきたことはなんだったんだろうと考え込んでしまいます。

パソコン講座もワードやエクセル、パワーポイントなどアプリのつかい方の講座よりも、デジカメで遊ぶ講座や、お絵かき講座、パソコンでお買い物講座などのほうが人気があり、こうなるとシニアだけでなく、30 代、40 代の女性からも聴講希望者が出てきているのも現実です。

シニアネットとして、シニアをターゲットとしたシニアだけの活動という方向はこのままでよいのでしょうか？

そしてもう一つ、パソコンの前で、ワードやエクセルを得意げに操作しメールを交換しているも、携帯電話も使い切れないジジ、ババの姿を若者はダサイと感じるようです。

最近、スマートグリッドとかスマートコミュニティなどスマートという言葉がはやっています。

一方、NHK のクールジャパンという番組で外国人がクールな (かっこいい) 日本を紹介していますが、スマートシニアとかクールシニアとかそんなシニア像を描いてみませんか。

課題提起:坂崎 誠一 氏

現在のテクノロジーはスマートフォン、アイパッド、タブレット、クラウドなど、その進展ぶりは目を見張るものがあります。この普及が、シニアにとって、或いは、地域の活性化にいかに関与できるかが、今後のカギを握っています。

平成 17 年より熊本県高齢者支援課との協働で「熊本県 IT リーダー」の養成講習を実施しています。合格者には知事からの修了証が授与されます。

このように今後、公的機関とのコラボレーションによって、情報生活アドバイザーの活動しやすい場所づくりに努め、より身近な所、公民館や老人憩いの家などの「サロン」の普及と活用により、老後の生きがいを創造していきます。

思いやりのあるネット交流、あるいはオフ交流によってシニアの閉じこもりをつくらず、孤独を解消してお互いを気遣う仲間として、本物のネットワークとして機能するように運営してまいります。

概 要

開会挨拶。進行・記録・PC 操作係 挨拶。

コメンテーター紹介、坂崎氏、中島氏。

参加者自己紹介。氏名と所属。

坂崎 誠一氏 (熊本シニアネット代表) の発表。

【熊本シニアネットの経歴紹介】

- 「平成 22 年度版情報通信白書」では地域ソーシャルメディアを利用した高齢者は絆が深まったと回答している。よって、熊本シニアネットでは地域とのきずなを図るために 15 支部のサロンを設置している。

- 支部の活動の担い手となるのが「シニア情報生活アドバイザー」である。
- 平成 17 年より熊本県と協働で「シニア情報生活アドバイザー」の養成を毎年実施している。講座を終了すると熊本県知事の「修了証」とアドバイザーの「認定書」を取得できる。
- 熊本シニアネットの PR のため、2009 年「シニアネットフォーラム in 九州」を開催した。(ニューメディア開発協会協力)

【支部の活動紹介】

支部組織の説明。

役員、事務局、本部、支部（サロン）、クラブで構成している。

支部組織の運営方法。

支部に運営は任せている。パソコンだけの活動にとどまらない。

どの支部の活動にも参加できるように開催日がダブらないように配慮。

活動の場は、公的機関、福祉施設、病院、大学、専門学校等である。

メール活用で相談や不用品や探し物の情報提供をしている。

【今後の活動】

高齢社会に伴った自立と支援体制の推進を行政と行う。

身近な気楽にいける場所づくり。

中島 康博氏（NPO 法人すぎと SOHO クラブ監事）の発表。

【活動の発足】

NTT のビルに空きが多く利用案として、個人の事業家に利用してもらおうと NPO を立ち上げ事業家を育てる発想から始まる。若いメンバー多い。起業勉強会を開くと独立するものが現れる、組んで何かを起こす。

【まちづくり】

町作りが基本となる。公共がいろいろな仕事を入札する。応募してみる。補助金を利用して活動。補助金を利用するうち町づくりの営力、公共施設の管理運用などを行ってきた。

【情報化支援】

Web サイト作成・支援

企業にまかせるより安いので仕事が回ってくることが多い。

広報活動支援

ポスター、チラシ、情報誌等

【IT 関連講座】

生涯学習支援。長期講座、シニア IT いきがい大学（町後援）。町民パソコン講座（町主催・すぎと IT ボランティアの会が実施）。

【IT 指導者養成講座】

シニア情報アドバイザー養成講座（講師が必要なため）39 名が活躍。

【これからの課題】

新しい人が入ってきて、年齢を問わない交流。

スマート PC が出てくる等。新しい知識、人材育成。

なぜ高齢者が集まるのか、居場所がほしいから、「居場所」づくり人づくり。

意見交換

- 熊本シニアネットは行政機関との連携を上手くやっている。
- 県高齢者支援課が今後はネット活用しかないということで一人 5 千円補助があるので知事から認定書が発行される。
- 世代間交流をはかったら…中学生を独居老人宅へ通わせているお互いがいい。

- 活動費などお金がかかるがどうしているか？
- 行政との協働、人、金に苦勞している。
- コラボをいかにするか。
- 世代間交流、組織の運営、若い人が入ると活気づく。

閉会の挨拶

ワークショップ報告

発表者：坂崎 誠一 氏



ワークショップ【テーマ4】 「シニアネットの未来を拓く」

シニアネットの活動を如何に地域に広めるか
熊本シニアネット 坂崎 誠一

まちづくりをベースにニュービジネスを提案・実行
NPO法人 すぎとSOHOクラブ 中島康博

シニアネットフォーラム21 in 東京 2012

平成24年2月17日(金)

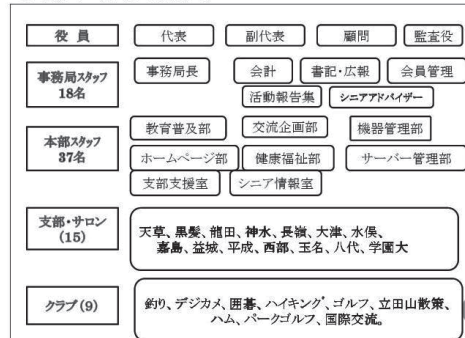
地域の「つながり」の強化をめざす

- ◆近年、地域において住民同士の交流が少なくなって、地域の「つながり」が失われている。
→近所に「生活面で協力しあう人がいない」
- ◆ブログ・地域ソーシャルメディア・ツイッター等の利用
→「家族・親戚の絆」・「地域住民間の絆」・「世代間の絆」が深まった
- ◆従って、熊本シニアネットの推進策
→ 地域住民参加による「助け合い社会」の構築

地域との絆を図るため

- ◆熊本県下に熊本シニアネット 15支部(サロン)を設置して地域と交流の為のサロンを開設
- ◆熊本県と協働で「シニア情報生活アドバイザー」の養成を毎年実施
支部の活動は人的要素に負うところが大きい、その担い手となるのが、「シニア情報生活アドバイザー」です。
- ◆熊本シニアネットの存在PRのため、ニューメディア開発協会の協力を得て、2009年、創立10年を記念して「シニアネットフォーラム九州」を熊本市で開催した。
・熊本県知事、熊本市長が参加した。
・全国から250名の参加者があった。

組織図 (全体構成図)



支部の運営

- 組織... 支部長、副支部長、会計担当、ホームページ担当
- 参加会費... シニアネット会員(200円)、地域住民(600円)
- 主なイベント... ①パソコン教室、②ハーモニカ教室、③健康講座、④昼食会等、⑤各親睦会
- 支部運営の特徴...
 - ①熊本シニアネット会員ならば、誰でも、どの支部の例会及びイベントに参加出来る。
 - ②支部の運営は独立採算で実施、本部からの管理は無い。しかし、本部で開催する評議員会議に出席すること。
- 支部例会の開催日... 原則月に2回以上の開催、支部同士は開催日がダブらないように配慮している。

☆支部は独自の活動が保障されています。支部の判断で独自の動きが出来る。
 ☆支組の組織は、支部長、副支部長、会計、総務、HPで組織されています。(会員は複数の支部に参加可能)
 ☆支部会員はシニアネット全員が対象となっています。従って熊本シニアネット会員であれば、どの支部の例会イベントにも参加できる。又、会員以外のもでも例会イベントなどに参加出来る。

支部活動の実態

- ☆支部は独自の活動が保障されています。支部の判断で独自の動きが出来る。
- ☆支部の組織は、支部長、副支部長、会計、総務、HPで組織されています。(会員は複数の支部に参加可能)
- ☆支部会員はシニアネット全員が対象となっています。従って熊本シニアネット会員であれば、どの支部の例会イベントにも参加できる。又、会員以外のもでも例会イベントなどに参加出来る。
- ☆支部の中には、更に下部組織を持っている支部もあります。天草支部は中央公民館サロン、NTTサロン、有明町サロン、倉岳サロン、栖本サロン、五和サロンの6サロンがある。

支部活動の推進と活性化(事例その1)

- 1、公的機関を活用し地域社会への貢献
 - 例 パソコン教室
公民館、憩いの家、青少年センター、博物館、NTT
 - 事例 天草支部(NTT、公民館)
 - ◆NTTを本部として7地区の公民館をサロンとして活用
 - ◆各サロンはパソコン教室だけでなく、交流の場として食事会やカラオケなど実施

支部活動の推進と活性化(事例その2-1)

- 2、福祉施設の活用
 - 特別老人ホーム、介護施設、障害者支援センター
 - *** 龍田支部(特別養護老人ホームさわらび) ***
 - 毎月第2・3・4木曜日例会に利用
 - 協力●文化祭での入居者の車いすの補助
 - 暮れには大掃除、門松造り、餅つき

支部活動の推進と活性化(事例その2-2)

- **** 西部支部(特別養護老人ホーム三和荘) ****
- 1、パソコン関連勉強会
 - 2、ハーモニカ練習会と施設訪問ボランティア
 - 3、近隣名所探訪会やハイキング
 - 4、歌声サロン開催
- ***平成支部(桜十字病院、憩いの家、公民館)***
- 1、健康講座と健康食
 - 2、みんなが先生みんなが生徒でパソコン勉強会
 - 3、持ち寄ったお菓子・果物で茶話会

支部活動の推進と活性化(事例その3)

- 3、大学や専門学校
 - 学園大学、放送大学、八代専門学校
 - 事例1 学園大支部
 - ◆学生との交流や、シニアの活動状況説明会
 - ◆パソコン勉強会と茶話会
 - 事例2 黒髪支部(放送大学-熊本大学内)
 - ◆月1回の例会
 - 事例3 八代支部(八代専門学校)
 - ◆専門学校の先生と生徒が講師で勉強会

シニア情報室の設置

- ◆2009年 メーリングを活用して、困った時の情報交換のお手伝いをする「シニア情報室」を設置した。
- ◆知って得する情報、知らずに損をした情報など、日常、身近に起きている事をメール上で質問し、その回答を願う
- ◆居住管状帯症、通風の治療と病院の選択
- ◆認知症の前兆と自己判断法について
- ◆介護保険の認定と施設の選択
- ◆登山時の引きつりの予防と処方
- ◆腎臓病、糖尿病等食事の宅配について
- ◆補聴器の購入と機種選択
- ◆外斜視の手術後の体験談のお願い
- ◆棟上げ時の神主さんへの謝礼額
- ◆遺産相続税と課税所得額の関係
- ◆内視鏡による大腸検査病院紹介
- ◆振り込み詐欺の新手口と防止策

「KSNもったいない」コーナーの設置

- 「もったいない」を合言葉に
 ・差し上げます ・探しています
- 会員が不必要になった物品をメーリングで譲受け希望者を募っている
- 例・書籍、ゲーム機、電気製品
 家具、日曜用品、衣類、農機具など
- ◆プリンターのインク
 - ◆ぶら下がり機
 - ◆百科全集
 - ◆ギター
 - ◆テレビ、アンテナ
 - ◆柔道着
 - ◆植木鉢 80鉢
 - ◆つり竿

熊本県と協働して シニア情報生活アドバイザーの養成

◆自己実現の場を求めて得意のITを生かし社会で活躍したいとする高齢者を対象に、熊本県・熊本さわやか・長寿財団とのコラボレーションで

「熊本県シニアITリーダー」の養成講習を平成17年6月から始めました。

この講座を終了すると、

◆熊本県知事の「終了証」と

◆シニア情報生活アドバイザーの「認定証」が取得できます。

平成17年度……59名 熊本県シニアITリーダーとして養成

平成18年度より毎年資格認定者が増えて

平成19年度……25名（熊本市15名 大津町10名）

平成20年度……21名（熊本市14名 玉名市7名）

平成21年度……14名（熊本市14名）

平成22年度……8名（熊本市8名）

平成23年12月現在……133名になる

情報生活アドバイザーのスキルアップ

教育普及部の一員として、月1回の会議に参加！

毎回の参加者は30～40名

- 1、本部講習の講師や日程の調整
- 2、講師の事前講習、事後講習
アドバイザーのスキルアップ化
- 3、得意な講習項目ごとのグループ構成
- 4、サロン支援のための講師派遣

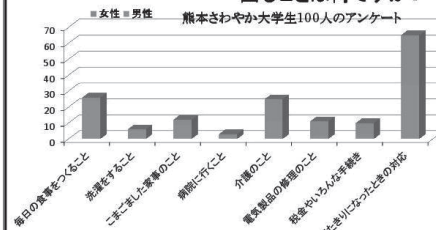
会員名簿の確認と会員の実態調査を実施

高齢者の悩みのアンケート調査結果

熊本県さわやか大学生100人の悩みのアンケート

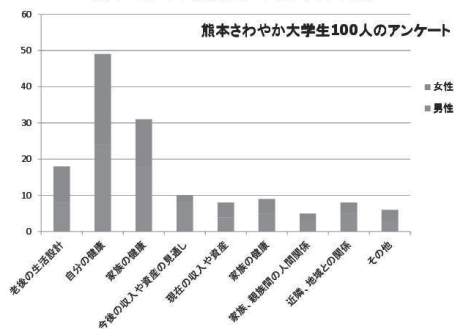
（回収96名）から次の施策を実行しています。

将来 一人暮らしになったとき、 困ることは何ですか？



- 第一位 寝たきりになったときの対応
- 第二位 介護のこと
- 第三位 毎日の食事をつくること

熊本地区の高齢者の悩みと不安



熊本シニアネットの 今年度の重点施策

1. 転ばぬ先の杖、高齢社会の賢い生き方を学びます。
2. 身近な地域に気楽に行ける場所を作り、
支部(サロン)の拡大充実と支部活動の推進を図ります。
3. 高齢社会に伴い行政機関は高齢者の自立と支援体制を推進しています。
熊本シニアネットも行政機関等との連帯強化を図ります。

終わりに

今後、思いやりのあるネット交流、あるいはオフ交流によってシニアの閉じこもりをなくし、孤独を解消してお互いを気遣う仲間のため、本物のネットワークとして機能するように運営してまいります。

まちづくりをベースにニュービジネスを提案・実行
NPO法人・すぎとSOHOクラブ(埼玉県)の活動事例



活動全般の紹介

- まちづくり
- 情報化支援活動
- IT関連講座
- IT指導者育成講座

まちづくり

自主事業のほか官公庁や各種事業団体の応募案件に参加する形のものもあります。平成23年度現在取り掛かっているものおよび今までに手がけてきた活動の主なものは下記のとおりです。

- 宮代町市民活動スペース運営事業 宮代町協働事業
- くすのきエコDAY(ふれあい市開催)事業
- 杉戸高野台駅前くすの木通り活用・毎月開催 まちづくり支援金
- 川・まちづくり支援事業
- 豊岡川の駅・駐輪場活用支援活動 自主事業
- 建築なんでも相談室事業
- 防災・耐震診断・改修支援 自主事業
- 自然・社会の調和推進事業 自主事業
- 里山再生「FURUYAMA社」
- イトボの森づくり
- BDF(ぶぶら油回収/再生/再利用)
- 日本蜜蜂愛好会支援事業
- 子どもの健全育成事業 自主事業
- 杉戸の里山自然学習事業 自主事業
- ぽっぽはうす活動支援事業
- 子育てハッピーキャンペーン 埼玉県福祉部より委託

情報化支援活動

○この活動はITスキルを必要とする分野です。特に②は、マイクロソフトのシェアポイント・デザイナーを使用して構築してあります

- Webサイト作成・支援
- 埼玉県農林部/埼玉農産物ブログサイト『SAITAMA わっしょい!』
- 杉戸町社会福祉協議会
- 埼玉県立宮代高等学校 様
- 有限会社渡辺新聞店 様
- 杉戸町商工会 様
- 杉戸町観光協会 様
- がん患者会『シャローム』様 (ブログ指導)
- 折原果樹園 様 (HP/ブログ制作指導)
- 不耕起栽培 上原農場 様 (HP/ブログ制作指導)
- 隠れ家ごはん処『豆蔵』様 (ブログテンプレート制作)
- 杉戸町商工会 / 仕事マッチングサイト『すぎとJOBナビ』
- 彩の国いきがい大学 様 Webサーバ構築・運営支援

情報化支援活動 Webサイト作成・支援

○この活動はITスキルを必要とする分野です。特に②は、マイクロソフトのシェアポイント・デザイナーを使用して構築してあります

- 埼玉県農林部/埼玉農産物ブログサイト『SAITAMA わっしょい!』
- 杉戸町社会福祉協議会
- 埼玉県立宮代高等学校 様
- 有限会社渡辺新聞店 様
- 杉戸町商工会 様
- 杉戸町観光協会 様
- がん患者会『シャローム』様 (ブログ指導)
- 折原果樹園 様 (HP/ブログ制作指導)
- 不耕起栽培 上原農場 様 (HP/ブログ制作指導)
- 隠れ家ごはん処『豆蔵』様 (ブログテンプレート制作)
- 杉戸町商工会 / 仕事マッチングサイト『すぎとJOBナビ』
- 彩の国いきがい大学 様 Webサーバ構築・運営支援

情報化支援活動 広報活動支援

- 総合型地域スポーツクラブ「すぎすぼ」様
- 埼玉県農林部 / ロゴ、シール制作 他
- 杉戸町推奨土産品&観光ポケットガイド『すぎさんぼ』
- 杉戸町高齢者長寿祝い / ポスター他
- 五十市 / ポスター・シフレットのぼり旗
- パパママ応援ショップのぼり旗
- がん患者会シャローム様 / リーフレット・チラシ
- 子育て支援情報誌「ぽっぽはうす」
- ミニコミ誌制作
- 杉戸町商工会 会報
- 杉戸町すたんぶ会 折り込み チラシ
- 杉戸町商店会連合会 福引セールチラシ
- 子育て支援 無料情報誌&KIDS 他

IT 関連講座

- 生涯学習支援
- 長期IT講座 シニアITいきがい大学 3コースあり、各10か月 自主事業(杉戸町後援)
- 会員対象ITスキルアップ講座 シェアポイントデザイナーでのWeb作成・管理実習
- 杉戸ITボランティアの会(SITV)支援
- 杉戸町主催・町民講座へのシニア情報生活アドバイザー派遣
- ボランティア研修会

IT 指導者育成講座

- シニア情報生活アドバイザー養成講座
- シニア情報生活アドバイザー対象スキルアップ講座、及び交流会
- 講座:ITスキルのUp-To-Date
- 交流会:アドバイザー同士の親睦・仲間づくり

まとめ

- 新しい人が入ってきて、年齢を問わない交流。(世代間交流)
- スマートPCなどが出てくるので、新しい知識、人材育成。
- なぜ高齢者が集まるのか、それは、居場所がほしいから、「居場所」づくり人づくりが大切である。

■ワークショップ 5

「シニアネットと復興支援」

コメンテーター : 佐々木敏夫 氏 (NPO 法人 あびこ・シニア・ライフ・ネット 理事長)

課題提供者 : 秋元五郎 氏 (NPO 法人 あびこ・シニア・ライフ・ネット 活動会員)

特別出席者 : 福島和男 氏 (NPO 法人 e ネット・リアス 理事長)
大久保勇作 氏 (シニアネットリアス・高田 代表)
及川 純 氏 (シニアネットリアス・大船渡 代表)

課題提供者:秋元五郎 氏 プロフィール

1948年生まれ。宮城県出身。1972年4月(株)日立製作所に入社後約30年間 国際営業部門に勤務、その間に中近東事務所駐在、日立ヨーロッパ社駐在を経験し、現在(株)ATECS Japan 代表取締役。シニア情報生活アドバイザー、福祉住環境コーディネーター、千葉県流山市環境審議会委員。

*コメンテーターの佐々木敏夫 氏のプロフィールについては、特別報告の欄をご覧ください

昨年の3月11日に発生した東日本大震災に伴う未曾有の被害、また我が国でこれまで経験の無い原子力発電所事故が発生し、その復興も思うように進んでいません。

政府も被災地復興補正予算等で対応していますが、解決の糸口が見えない現状です。

今回、被災地岩手県の e ネット・リアス (釜石)、シニアネット・高田、および大船渡の代表者にご出席いただき、被災地の状況および団体の活動現状等を聴かせていただくことにしました。

私達、シニア情報生活アドバイザーが全国4千数百名の力を結集して復興に寄与出来ればと考えます。

この考えをニューメディア開発協会の岡部理事長に相談結果、シニアネット東日本震災復興支援委員会を設立して頂き、東京近郊の6団体で支援活動が開始され、ニューメディア開発協会の積極的なご協力もあり被災地のシニアネット団体にパソコンの寄贈支援等が出来ました。

今後も引続き被災地団体への支援活動を行っていきたく、シニア情報生活アドバイザーの皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

概 要

課題提供者 秋元五郎氏より、今回のワークショップに出席いただいた被災地岩手県釜石市、陸前高田市および大船渡市よりの3方を紹介し、各団体の被災状況、これまでの復旧状況および今後の活動予定などを発表していただいた。

いずれの団体よりも、復興支援委員会等よりのPC等の支援に対し、深い感謝がありました。



秋元五郎 氏



佐々木敏夫氏の挨拶。参加者は20名。


3団体の状況は、下記にを参照ください。

<NPO 法人 e ネット・リアス> (釜石)



理事長 福島和男氏

NPO法人eネット・リアスの概況 <ul style="list-style-type: none">所在地:岩手県釜石市設立:平成16年12月(但し平成10年パソコン学習グループとして活動)会員数:30名主な活動:中高年のパソコン学習	釜石の津波被害状況 (23年12月現在) <ul style="list-style-type: none">釜石の人口:37,909人死亡:888人うち身元不明:20人行方不明:164人仮設住宅設置数:3,164
---	---

eネット・リアス 会員被害状況 <ul style="list-style-type: none">家屋全壊 7名パソコン流出 8台プリンター 3台 	ニューメディア協会様より支援 ICT支援応援隊 (JEITA殿一般財団法人電子情報技術産業協会) 平成23年7月22日 <ul style="list-style-type: none">パソコン:5台スキャナー:1台プリンター:1台写真用紙:300枚(プリンターインク含む)被災者対象パソコン学習会、運営費用(講師)
---	--

震災支援実施内容

2、写真復元

目的：津波で汚れた貴重な写真、思い出の写真を、パソコンソフトで修復し家族の支えになって貰いたい。

- 取組期間：平成23年9月10日～11月30日
- 希望者数：35名 300枚
支援で頂いたパソコン、スキャナー、プリンター写真用紙が大活躍、ありがとうございました。

※初めての取り組みで、修正作業は時間のかかるものでした、ソフトの使い方も次第に慣れてきてますますの出来栄でした。

作業はかなりの時間がかかり300枚受け付けるのがやっとでした。引き渡しでは、こんなにも美しく仕上がったと喜んでいただきました。



＜シニアネットリアス・高田＞



顧問 大久保勇作氏

平成13年5月に創立。
創立10周年にして入会会員402名に達するが、
昨年3月11日の大津波で陸前高田市の主要部壊滅し、全施設が瓦礫と化す。会員にも多くの犠牲者を出し事務所でもあった賃借施設が保有するPC-18台付属施設ともに全て流失した。
再就職のための受講者が多数おり、PC不足状態である。講座会場の手当にも苦労している。

シニアネットリアス陸前高田殿では、市の公民館で会員向けの講座を講義中でしたが同行されたマイクロソフトの大島殿に急遽Windows Liveフォトギャラリーの講義をしていただき、皆さんに大変喜んで頂きました。会員の多くの方は家を流されて仮設住まいの方でした。



■ 2011/09/27 ■ シニアネットリアス陸前高田 パソコン教室開校

by:kawamura

9月2日、シニアネットリアス陸前高田殿にて一般社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA)長谷川常務理事ご出席のもと、JEITA殿より寄贈いただいたパソコンを使用したパソコン講座がスタートしました。被災者に対する各種パソコン講座が今後予定されています。

ただし、まだパソコンとか会場が確保できずご苦労されている状態です。



<シニアネット・大船渡>



代表 及川 純 氏

3.11東日本大震災による
壊滅的な状況



3・11東日本震災による被害状況

平成23年5月上・中旬安否確認(ハガキで)

115名(23年2月在籍人数)のうち100名回答

死亡者 1名

家屋の全・半壊、流失 16名

床上浸水 3名

直接の被害者は2~3割程度だが、すべての会員は親類・知人が多大な被害を被り、その衝撃は、計り知れない。

SNR大船渡の本拠地、
三陸公民館は壊滅状態。利用は不可能。

外観は残っているが内部は壊滅 PC、プロジェクターはすべて損壊



パソコン贈与に再起の機運

- ・23年5月末、仙台シニアネットクラブ紹介で一般財団法人ニューメディア開発協会 川村 健三部長が来訪。
- ・JEITA(電子情報技術産業協会)を通じてノートパソコン20台、プリンター1台の貸与を約束して下さった。
- ・同6月末、本当にパソコン20台等が無事到着。
- ・パソコンが入手できたことにより再開の機運。

ワークショップに出席された方々より、厳しい現地状況報告を聞いてのお見舞いと励ましの言葉が差しのべられた。出席者のなかには、シニアネットを通じてパソコン等を提供して下さった湘南ふじさわシニアネットの山本享(やまもと とおる)氏も参加いただきました。

コメンテーターの佐々木氏より、PC等の提供だけでなく支援できる分野での支援、例えば被災地の製品のネット購入など。も検討してはどうかとのコメントがありました。

どこに行っても、募金、募金 また 支援、支援で、多くの人々が疲れぎみではと、思われますが、まだまだ被災地の状況は厳しい状況にて、できるかぎりの支援を継続すべき、との意見が寄せられた。

ワークショップ「シニアネットと復興支援」のまとめとして、下記を提言となりました。

<今後の支援活動の課題>

- (1) 支援の継続
- (2) 被災地活動団体の要望を復興支援委員会にて検討
(パソコン台数の不足、講師の派遣、ネット環境の整備 等)
- (3) 被災地団体、支援団体、支援者、間のコミュニケーション方法の改善
(ホームページ 「シニアネット交流広場」の書込みを利用)

(4) 支援については、パソコン等の支援に限らず、例えばネットショップ

での被災地団体紹介の産品購入等での支援も検討

これまでの支援に対する感謝とともに、「皆さま、ぜひとも、一度被災地にお越しいただきたい。」との3団体よりのメッセージがありました。

ワークショップ報告 発表者：秋元 五郎 氏

シニアネット東日本大震災復興支援委員会
活動報告

ICTで被災地のシニア仲間と
ところを繋ぎ、支援しよう



シニアネットフォーラム21 in 東京 2012

シニアネット東日本大震災復興支援委員会

ワークショップ 「シニアネットと復興支援」

- コメンテーター- (佐々木敏夫: NPO法人あびこ・シニア・ライフ・ネット理事長)
- 課題提供者 (秋元五郎 : NPO 法人あびこ・シニア・ライフ・ネット)
- 被災地団体からの報告
(福島和男 氏 : NPO法人 eネット・リアス 理事長)
(大久保勇作 氏 : シニアネットリアス・高田 代表)
(及川 純 氏 : シニアネットリアス・大船渡 代表)



会員数: 30名
主な活動: 中高年のパソコン学習

今後の支援活動の課題

- * 支援の継続
- * 被災地活動団体の要望を復興支援委員会にて検討 (パソコン台数の不足、講師の派遣、ネット環境の整備 等)
- * 被災地団体、支援団体、支援者、間のコミュニケーション方法の改善 (ホームページ「シニアネット交流広場」の書込みを利用)
- * 支援については、パソコン等の支援に限らず、例えばネットショップでの被災地団体紹介の産品購入等での支援
- * ぜひとも、一度被災地にお越しいただきたい。

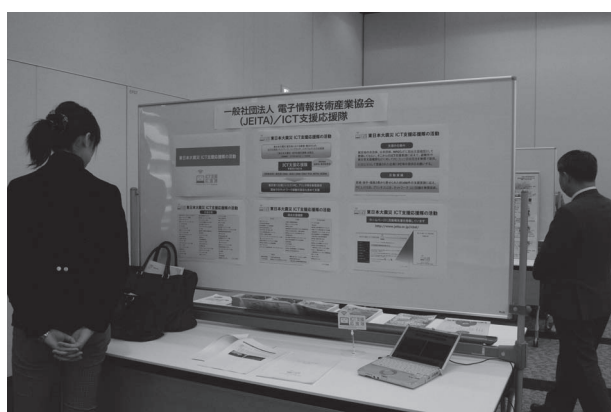
■シニアネット交流広場

全国各地で活躍している18のシニアネット、4つの各種財団法人JKAより、活動状況などの展示がなされた。2月17日の12時より14時30分まで交流広場が開催され、多数のフォーラム参加者が訪れた。日ごろ顔を合わせる事の無い者同士がフェース・ツー・フェースで意見交換し、相互交流を深め、それぞれの活動のための知見を得る場となった。

1. 会場風景

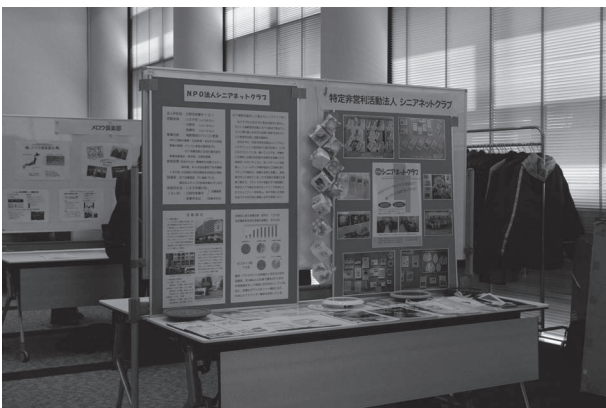


福島県のPR展示



一般社団法人電子技術産業協会





シニアネット交流広場出展団体

団体名	URL
特定非営利活動法人 あびこ・シニア・ライフ・ネット	http://www.abikosln.org/NPO/
熊本シニアネット	http://ksn1.huu.cc/
特定非営利活動法人 コモンズネット	http://www.commonsnets.org/
特定非営利活動法人 シニアSOHO横浜・神奈川	http://www.svyk.jp/
特定非営利活動法人 シニアネットクラブ	http://snc.npgo.jp/
特定非営利活動法人 自立化支援ネットワーク	http://www.npo-idn.com/
特定非営利活動法人 すぎとSOHOクラブ	http://www.sugito.com/
特定非営利活動法人 西東京NPO推進センター (セブロス)	http://members3.jcom.home.ne.jp/ceproce/index.htm
一般社団法人 電子情報技術産業協会(JEITA) /ICT支援応援隊	http://www.jeita.or.jp/
東葛インターネット普及会	http://www.geocities.jp/toukatsu_i/
特定非営利活動法人 栃木県シニアセンター	http://www.cc9.ne.jp/~tochi-senior/
認定特定非営利活動法人日本NPOセンター	http://www.jnpoc.ne.jp/
特定非営利活動法人 湘南ふじさわシニアネット	http://www.sfs-net.com/
メロウ倶楽部	http://www.mellow-club.org/
ゆうゆうネット塾PCサロン	http://business1.plala.or.jp/uunet-a/
財団法人 JKA	http://ringring-keirin.jp/
福島県	http://www.pref.fukushima.jp/kanko/
一般財団法人 ニューメディア開発協会	http://www.nmda.or.jp/mellow/adviser

■体験セミナー

今回、シニア情報生活アドバイザーの方にタブレット端末等の新IT機器に接していただく為、Ipad等の新端末の体験セミナーを実施した。各セミナーともそれぞれ20台の機器を用意したが、アドバイザーの体験希望者が非常に多く、かなりの方がセミナーを御希望されたにもかかわらず受講できなかった。今後の改善点としたい。

体験セミナー	使用機器
体験セミナー1 デジカメ写真活用とムービー作成 協力：日本マイクロソフト株式会社	パソコン
体験セミナー2 Ipadの体験 協力：シニアSOHO三鷹「i Pad 研究会」	i P a d
体験セミナー3 タブレットの体験 協力：株式会社エル・アレンジ	アンドロイド端末
体験セミナー4 写真やデータのクラウド活用講座 協力：日本マイクロソフト株式会社	パソコン
体験セミナー5 スマートフォン体験 協力：アンドロイダー株式会社	スマートフォン



■ クロージングセッション

「総括」

メロウ・マイスター: 臼倉 登貴雄



臼倉 登貴雄 氏 プロフィール

1948年生まれ。1990年頃に「メロウソサエティ構想」に参画、その後、シニア情報生活アドバイザー制度の立ち上げ、運営に協力してきている。

活動は、情報関係では、シニア情報生活アドバイザー、NPO法人イー・エルダー理事、NPO法人ウェブアクセシビリティ推進協会理事、E-ネット安心講座講師、前シニアネット東京代表。

専門は、高齢者の生きがいづくり支援。生きがい支援システム研究所代表。

地域では、越谷市放課後子ども教室運営委員会副委員長・コーディネーター、越谷市余暇活動指導者連盟書記。



シニアネットフォーラム 2012 の総括

未来におけるシニアの
最大の課題は

シニアの数と割合

孤立と孤独

ICTでシニアの未来を拓くために
求められるものは

ユニバーサル・デザイン
アクセシビリティ

規定・基準
機器開発

ユーザビリティ(操作手法)
リテラシー(活用能力)

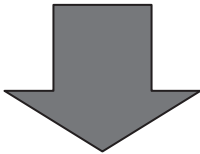
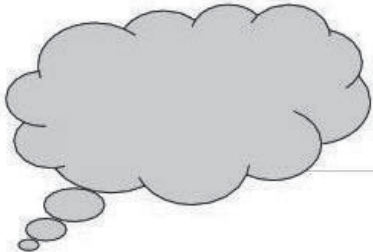
支援機器
操作支援

アドバイザー

シニアネット

ICTの未来は

未来は!



考えるだけでロボットを制御できる
新技術 ヘルメット型のセンサー

「右手を挙げる
動作」をイメージ

2種類の脳活動データをセンサーで収集

<p>脳の血流を計測</p>	<p>脳の電気信号を計測</p>
----------------	------------------

考えた通りに
ロボット(アシモ)が
右手を挙げる

フォーラムに最後までご参加いただき有り難うございました。

クロージングセッションとして、今回のフォーラムを総括してみたいと思います。

最初に申しあげたいことは、予定した定員を上回る多くの方々にご参加いただいたことです。資料が不足するなどご迷惑をお掛けしましたが、運営者側としては、大変嬉しいことでした。

今回のテーマは、「ICT活用してシニアの未来を拓く」でした。このテーマを基にプログラムを構成させていただきました。結果は如何だったでしょうか。最後まで、ご参加いただいた皆様には、最後まで居て良かったと思われるクロージングセッションをさせていただきます

私なりに総括してみると、シニアの未来のキーワードはシニアの「数」と「割合」、そして、「孤立」と「孤独」ではないかと思います。

そのためには、ICTの力を借りてシニアの未来を明るく快適にすることが不可欠になるといえるでしょう。その意味では、ICTの未来を予測することが重要でしょう。

各講演や先進事例発表の内容、各ワークショップでの討議内容からは、シニアが使い易いICTとして、ユニバーサルデザインやアクセシビリティが不可欠であり、シニアのユーザビリティやリテラシーの支援性が訴えられています。

私たちシニアネットに求められているのは、まさに、このシニアのユーザビリティやリテラシーの支援なのではないでしょうか。

今回のフォーラムからは、多くの知識、事例を習得できたと思います。また、今後の活動に生かせる多くのことを学ぶことができたと思います。

ぜひ、皆様の今後の活動に生かしていただきたいと思います。

最後に、フォーラムの運営にご協力いただいた「運営スタッフ」の皆様、ご講演、ご発表いただいた方々、ワークショップでのコメンテーター、司会、記録に協力いただいた方々、そして、ご協力くださった企業、団体に感謝申し上げます。

来年、またお会いしましょう。

平成23年度

『シニアネット・フォーラム21 in 東京 2012』

報告書

編集・発行

一般財団法人 ニューメディア開発協会

〒103-0024 東京都中央区日本橋小舟3番2号 リブラビル●階

発行日 平成24年3月

